

第17回大館市世論調査

「あなたが採点する行政の通信簿」

“ 施策ごとの分析 ”

1 . まちや暮らしのなかで市民が活躍し、次代を育む “ 教育文化都市 ”	1
2 . 健康で、互いのつながりを大切に支え合う “ 健康福祉都市 ”	13
3 . 地域の特性を活かし、暮らしを支える活力を興す “ 産業創造都市 ”	32
4 . 暮らしやまちのなかに賑わいと交流を生む “ 多文化交流都市 ”	40
5 . 豊かな自然とともに快適に暮らせる “ 環境共生都市 ”	48
6 . 持続可能なまちづくりを支える “ 行財政運営 ”	66
7 . 公共施設の利活用	70

令和5年3月

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

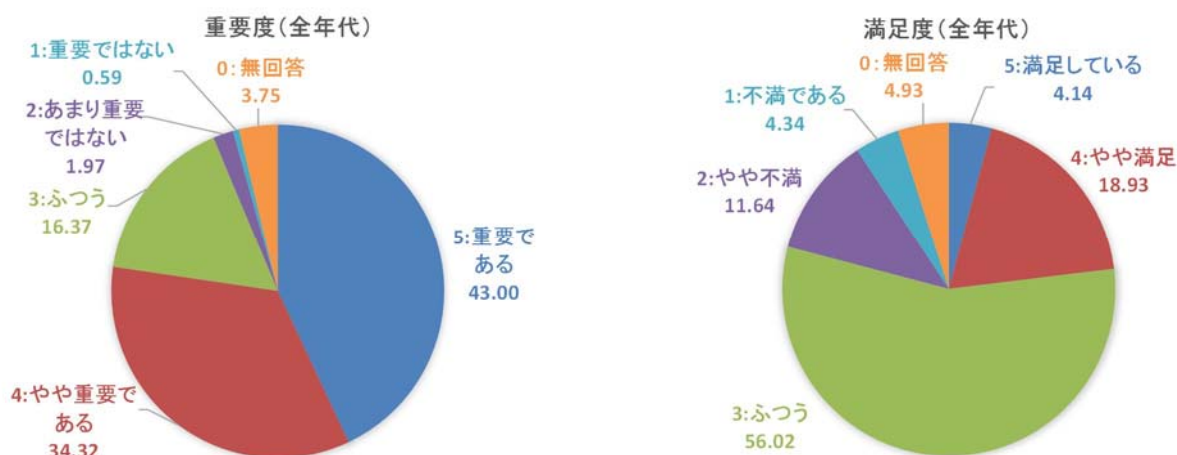
分析担当課	子ども課
目 標 名	教育文化都市
施 策 名	1 - 1 子育て支援

1. 施策の平均及び順位

1 - 1	重 要 度					満 足 度					
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減	
子育て支援	4.28	2	4.22	2	-	0.06	3.19	9	3.07	12	0.12
施策平均	3.88		3.82			0.06	3.09		3.09		0.01

小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布（％）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重 要 度 (年 代 別)						満 足 度 (年 代 別)					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10代	11	7	1	0	0	0	1	5	12	1	0	0
20代	32	16	4	0	0	1	2	10	30	7	3	1
30代	36	11	9	0	0	0	1	15	23	8	9	0
40代	36	22	9	1	0	4	4	12	41	7	4	4
50代	25	34	13	1	2	1	2	20	41	6	4	3
60代	43	35	21	4	0	3	3	14	60	21	2	6
70代以上	27	45	23	3	1	8	5	17	69	7	0	9
不詳（無回答）	8	4	3	1	0	2	3	3	8	2	0	2

4 . 分析

重要度は前回同様に全体の2位で、引き続き高い関心が示されています。

満足度は、前回よりも順位が3つ下がっています。これは「やや不満・不満」のポイントが増えたことによります。年代別にみると、ほぼ全ての年代で「重要である」と認識されており、特に20代から40代の子育て世代に顕著にあらわれています。

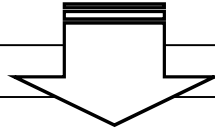
一方の満足度については、前回と同様に「ふつう」が過半数を占めています。

課 題

子育て支援については、様々なご意見をいただきました。

市が行う各種の子育て支援事業に対する更なる充実を求めるもの、子どもの遊び場の確保や環境整備(遊具管理含む)、子育てと仕事を両立させるための休日・一時・病児などの特別保育の充実など、多種多様な要望が寄せられています。

市では、少子化が進む中であっても、次代を担う子どもたちを安心して生み育てることができる環境づくりを進め、地域社会全体で子育て家族や子どもの成長を支えていくために、子育て家庭の多様なニーズを把握し、計画的に施策を展開していくことが求められています。



課題解決への取組み

- ・令和5年度に「第2期大館市子ども・子育て支援事業計画」の見直しのためのアンケート調査を実施し、子育てに関する市民ニーズを把握する
- ・「おおだて子育てハンドブック」や「おおだて子育てねっと」による各種事業、制度の広報、周知を行う

総合分析

今回の調査でも「子育て支援」が年代を問わず、医療に続き重要性が高いことが再認識されたところです。

寄せられた多くのご意見では、市が実施する子育て支援事業の成果を評価していただいている一方、まだまだニーズに応えきれていないことも分かったところです。

市は、特に就学前の児童への支援として行っている「出産祝い品の贈呈」「在宅子育て支援給付金」「保育料等の助成」「育児休業取得支援助成」などは、引き続き行ってまいります。そして、市民ニーズに合わせた拡充にも努めてまいります。

また、特に要望の多かった「子どもの遊び場の整備」については、令和4年12月22日、天候に左右されない屋内施設として、パークセンターに開設したところです。市内に数ある遊び場の選択肢の一つとして、ぜひ、多くの子育て世帯にご利用していただければと思います。

市は、「子育て支援」を重要度が高い分野として、既存の効果的な事業を着実に進めると同時に「不足している、求められているものは何か」を、国の子育て支援等との連携も考えながら新たな市民ニーズに応えられるように努めてまいります。

また、子育て支援が大きな枠組みで展開していけるよう、関係団体・関係各課との連携を一層強化してまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

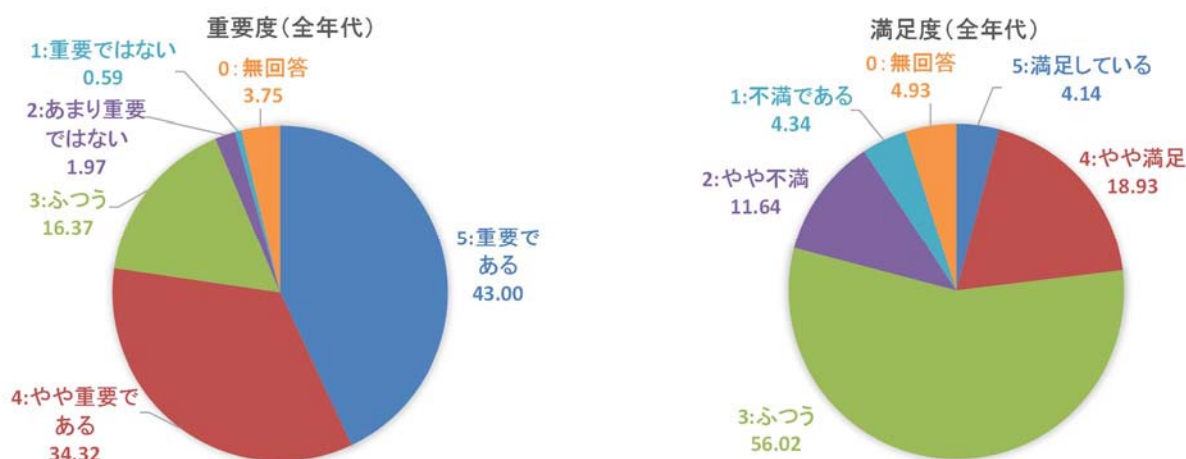
分析担当課	健康課
目 標 名	教育文化都市
施 策 名	1 - 1 子育て支援

1. 施策の平均及び順位

1 - 1	重 要 度					満 足 度					
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減	
子育て支援	4.28	2	4.22	2	-	0.06	3.19	9	3.07	12	0.12
施策平均	3.88		3.82			0.06	3.09		3.09		0.01

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布（％）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重 要 度 (年代別)						満 足 度 (年代別)					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10代	11	7	1	0	0	0	1	5	12	1	0	0
20代	32	16	4	0	0	1	2	10	30	7	3	1
30代	36	11	9	0	0	0	1	15	23	8	9	0
40代	36	22	9	1	0	4	4	12	41	7	4	4
50代	25	34	13	1	2	1	2	20	41	6	4	3
60代	43	35	21	4	0	3	3	14	60	21	2	6
70代以上	27	45	23	3	1	8	5	17	69	7	0	9
不詳(無回答)	8	4	3	1	0	2	3	3	8	2	0	2

4 . 分析

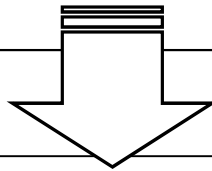
子育て支援は、どの年代でも重要であると認識されており、重要度は4.22 と高く、前回と同様2位となっています。

満足度は、前回と同様に、ふつうと回答したかたの割合が多くなっています。「満足している」「やや満足」の割合が、「不満である」「やや不満である」の割合を上回っています。

アンケートの回答から、子育て中以外のかたからは、子育て支援施策が分からないという回答が見られる一方、人口減少につき、地域の宝とし子育て支援の要望が寄せられたところです。また、子育て中のかたからは、各種要望が寄せられている一方、子育て支援事業（産後の家事支援、出産後の支援、障害児に対するサポート等）について、一定の評価を得られたところです。

課 題

子育て世代への経済的な支援（福祉医療費の助成拡大や大胆な出産祝い金・支援給付金等）や子育て環境の整備等（遊び場の充実や一時預かり事業・保育園における病児保育・延長保育の利用に関する事項、子育て情報の発信等）について要望が寄せられています。



課題解決への取組み

- ・子育て世代包括支援センター事業（子育てサポートさんまある）の充実
- ・産前・産後ママサポート事業や家事支援事業、産後ケア事業の利用促進
- ・関連機関と連携し、切れ目ない子育て支援の推進
- ・子育て中以外のかたへの情報発信の強化と方法の検討

総合分析

核家族化が進み、地域のつながりも希薄になる中で、孤独感や不安感を抱える妊婦・子育て世帯も少なくなく、全ての妊婦・子育て世帯が安心して出産・子育てができる環境整備が求められております。

子育て世代包括支援センター（子育てサポートさんまある）や子ども家庭総合支援拠点（ほっと）など相談窓口の認知度を高め、悩みや孤立感を軽減できるよう相談支援体制をさらに整えるとともに、関係機関と連携し、子育て負担の軽減に努めてまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

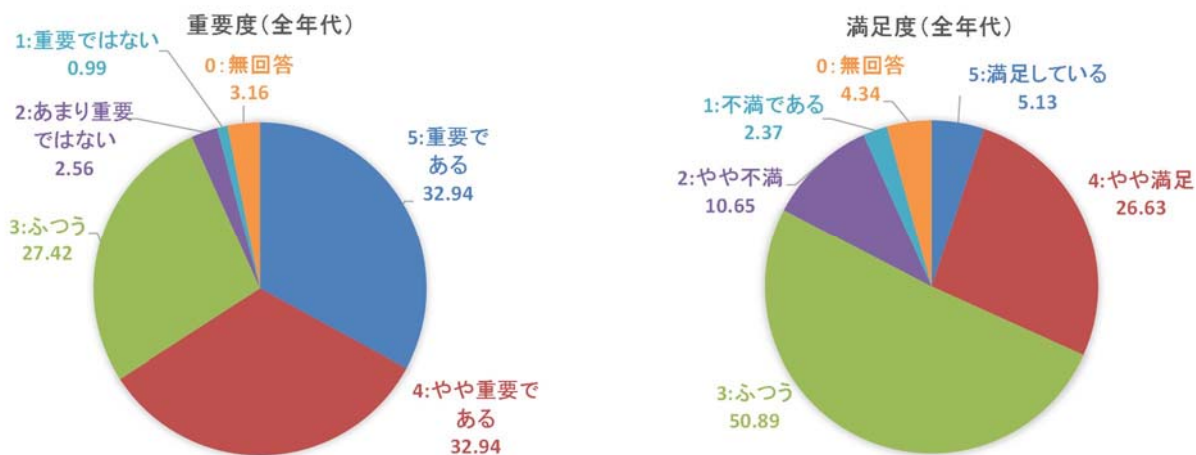
分析担当課	学校教育課
目 標 名	教育文化都市
施 策 名	1 - 2 学校教育・青少年健全育成

1. 施策の平均及び順位

1 - 2	重 要 度					満 足 度				
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減
学校教育・青少年健全育成	4.11	5	3.97	12	0.14	3.24	6	3.22	5	0.02
施策平均	3.88		3.82		0.06	3.09		3.09		0.01

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度 (年代別)						満足度 (年代別)					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10代	12	4	2	1	0	0	4	6	6	3	0	0
20代	23	16	13	0	1	0	4	15	25	8	1	0
30代	23	16	16	1	0	0	1	11	35	5	4	0
40代	23	21	20	5	1	2	6	20	34	7	1	4
50代	23	24	26	2	1	0	3	22	40	6	4	1
60代	36	34	28	3	1	4	2	28	56	13	1	6
70代以上	21	46	31	1	0	8	5	25	58	10	0	9
不詳 (無回答)	6	6	3	0	1	2	1	8	4	2	1	2

4. 分析

学校教育は、どの年代でも重要な施策と認識されており、若い世代ほどその傾向が強くなっています。重要度の順位は 12 位となっていますが、回答分布をみると、50 代と 70 代を除くすべての世代で重要度が最も高い 5 となり、「重要である」と「やや重要である」を合わせると 6 割以上を占める結果となっています。

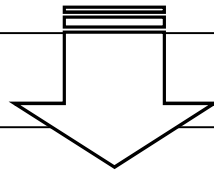
満足度については、「満足している」「やや満足」を合わせると、31.76%と、前回調査と比べ 2.96 ポイント増加しているものの、「不満である」「やや不満」も 3.05 ポイント増加し、年代別に見ると、主に 60 代以上で評価が低くなっています。

また、前回調査で多く見られた「教室へのエアコン設置」を求める意見は、順次、エアコンを設置し学習環境改善を図ってきたことにより、今回の調査ではエアコンについての意見はありませんでした。

課題

ふるさとキャリア教育の取組みやおおだて型授業の推進については、一定の成果を挙げ続けていることから、高い評価もある一方、「活動が見えない」「ボランティアの強制」との意見も寄せられています。

また、ふるさとキャリア教育を、地域で子どもを見守り育てる環境づくりや子育て支援にどのように生かしていくかも重要となります。



課題解決への取組み

- ・「ふるさとキャリア教育」などの取組みの成果を児童生徒の自発的な姿で実感してもらえるように、学校と市民との交流をさらに進めるとともに、SNS 等を効果的に活用した広報活動に取り組む。
- ・全小・中学校にコミュニティ・スクールを導入し、地域とともにある学校づくりをさらに推進する。

総合分析

学校教育については、これまで取り組んできたふるさとキャリア教育やおおだて型授業の推進による人材育成の成果が幅広い世代に認められ、高い評価を得ておりますので、子ども達の自発的な取り組みを、さらに進化・深化させてまいります。

一方で、子どもたちと普段接する機会がない方から具体的な活動内容がわからないとのご意見も多くあるため、これまで以上に情報発信に努めてまいります。

また、地域とのさらなる連携を求める意見や、教師の指導力向上を求める意見も寄せられておりますので、こうした課題の解決に取り組んでまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

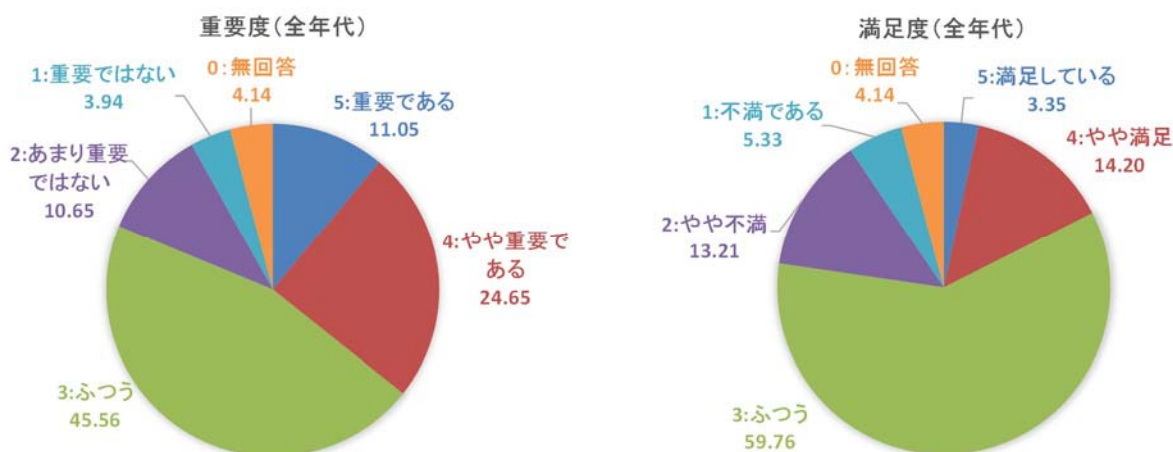
分析担当課	生涯学習課
目 標 名	教育文化都市
施 策 名	1 - 3 生涯学習

1. 施策の平均及び順位

1 - 3	重 要 度					満 足 度				
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減
生涯学習	3.50	25	3.29	26	0.20	3.09	14	2.97	21	0.12
施策平均	3.88		3.82		0.06	3.09		3.09		0.01

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重 要 度 (年 代 別)						満 足 度 (年 代 別)					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	6	5	6	1	1	0	4	2	10	2	1	0
20 代	5	16	26	2	3	1	2	12	30	6	3	0
30 代	4	10	30	8	4	0	0	6	35	7	8	0
40 代	6	19	27	14	3	3	1	15	37	13	3	3
50 代	7	14	42	8	5	0	1	9	48	13	5	0
60 代	17	25	44	13	3	4	3	12	65	14	6	6
70 代以上	7	32	49	8	1	10	4	14	70	9	0	10
不詳 (無回答)	4	4	7	0	0	3	2	2	8	3	1	2

4. 分析

重要度は全27施策中26位となりましたが、満足度では21位という結果でした。年代別満足度では「どちらとも言えない」との評価が、全世代において一番多く5割を超えました。

重要度、満足度とも前回より評価は下がりましたが、「生涯学習」という精神的なゆとりに関する分野への市民の重要度が低い傾向にあるようです。

課題

- ・ご意見からは、生涯学習の大切さは理解しているものの、興味ある講座の不足や情報発信の不足により、学ぶ機会を得ていない市民の実情が見えてきました。そのほか、仕事を持っている人の参加を求めるものもありました。
- ・生涯学習の事業では、高等教育機関における市民対象講座や情報発信（ブログ等）の講座開設、コロナ禍の中にも新たなイベント開催を求めるものも多く、市民は学ぶ意欲を持っている一方、生涯学習として「実施している事すら知らない。取り組み内容が仕事をしている世代は、いつ、どこでやっている等わからない。」とのご意見もあり、内容も情報発信も不足していることがわかりました。
- ・はちくんダンスへのご意見は21件あり、肯定的意見は6件で、残りの否定的意見では情報発信不足4件、ダンスそのものへの否定的意見10件、テンポが速すぎる1件がありました。高齢者向けの初級編の周知が不足しており、周知することで、肯定的にとらえていただく可能性が考えられます。

課題解決への取り組み

- ・市広報紙やホームページ、フェイスブックのほか、あらゆる世代への情報発信力の強化方法の検討
- ・大館版リカレント教育事業や公民館を活用した講座の開設などの情報発信
- ・各種事業を通じた生涯学習の広報活動、啓発活動を継続的に取り組む
- ・はちくんダンス（初級編）の周知拡大

総合分析

今回、市民には学ぶ意欲はあるものの、求める講座がないといった事業とのミスマッチがあることや、市が展開している生涯学習の方向性、有益性、講座の周知において、情報発信がまだまだ不足していることが判明しました。情報発信力を強化することが必要と言えます。

その上で、いただいたご意見から、「生涯学習」という言葉が伝わりにくく、実は行っているものの認識されていないのではないかと推察されます。「生涯学習」とは、自らが生涯にわたって行う学習活動の総称です。

市民・企業ニーズの把握と情報収集を行い、各種講座数及び参加者を増やし、講座の整備充実と環境整備に努めてまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

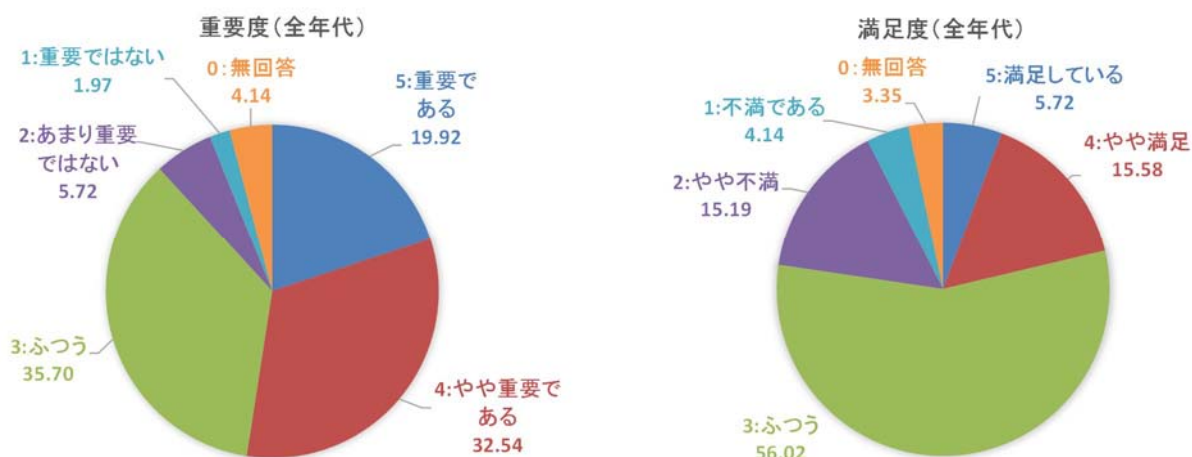
分析担当課	スポーツ振興課
目 標 名	教育文化都市
施 策 名	1 - 4 スポーツ・レクリエーション

1. 施策の平均及び順位

1 - 4	重 要 度					満 足 度				
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減
スポーツ・レクリエーション	3.64	21	3.65	19	0.02	2.96	19	3.04	14	0.08
施策平均	3.88		3.82		0.06	3.09		3.09		0.01

小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布（％）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重 要 度 (年 代 別)						満 足 度 (年 代 別)					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10代	9	3	6	1	0	0	4	2	8	3	2	0
20代	12	20	17	2	2	0	4	12	28	7	2	0
30代	8	19	22	5	2	0	1	7	37	7	4	0
40代	18	26	19	6	1	2	6	15	37	9	3	2
50代	16	25	27	6	2	0	4	13	43	12	4	0
60代	22	31	40	5	2	6	3	15	52	28	4	4
70代以上	10	38	46	3	0	10	5	13	71	10	0	8
不詳（無回答）	6	3	4	1	1	3	2	2	8	1	2	3

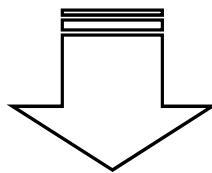
4. 分析

重要度、満足度とも施策平均を下回る結果となっている。満足度では「満足」「やや満足」の合計が前回の調査と比べ微増にとどまっているものの、「やや不満」と「不満」「無回答」の合計が前回の調査と比べ4.06%減少しています。

スポーツに対する関心が高まりつつあり、不満は解消傾向であるものの、満足と感ずるまで至っていない層が多いと考えられます。

課題

- ・過半数を占める「ふつう」層の解消
- ・コロナ前と違うニーズに対応する必要性
- ・スポーツ実施率の低下



課題解決への取組み

- ・動画共有サービスや SNS を活用した情報発信
(AI カメラの設置や情報公開サイトの開設)
- ・一定の評価を得ているイベントのブラッシュアップ
- ・気軽にスポーツ(体を動かすこと)をできる環境づくり

総合分析

スポーツイベントの開催やトップスポーツ観戦などにより、スポーツに関心を持っているだけを増やすことと、気軽に体を動かすことが出来るようなスキームの構築をすすめる。

スポーツに関わる間口を広げ、「スポーツインライフ」による健康寿命の延伸(フレイル予防)と「スポーツツーリズム」の普及による地域活性化(交流人口の拡大)を目指します。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

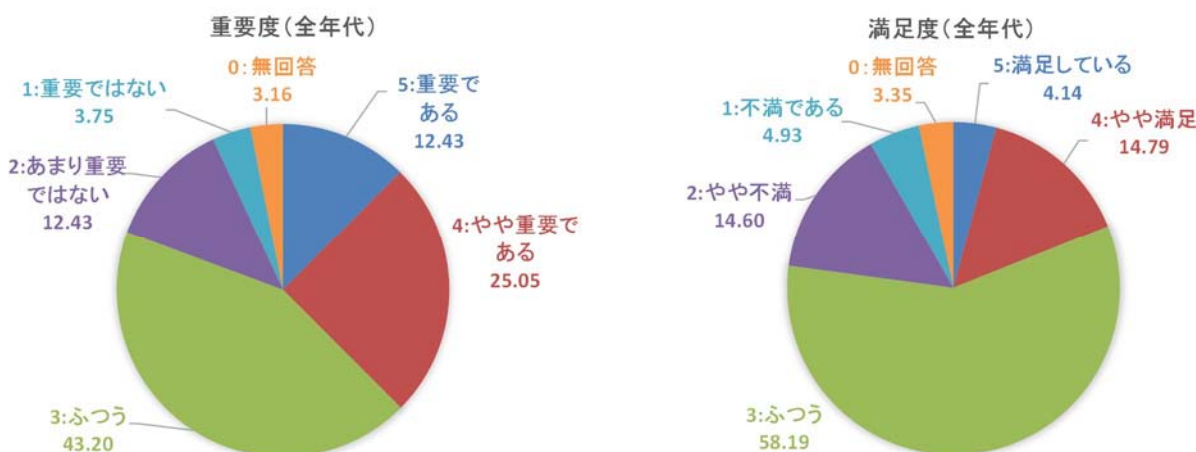
分析担当課	歴史文化課
目 標 名	教育文化都市
施 策 名	1 - 5 地域文化の振興

1. 施策の平均及び順位

1 - 5	重 要 度					満 足 度				
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減
地域文化の振興	3.52	24	3.31	25	0.21	2.97	17	2.99	19	0.01
施策平均	3.88		3.82		0.06	3.09		3.09		0.01

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

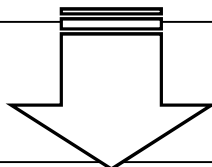
個 数	重要度 (年代別)						満足度 (年代別)					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10代	4	3	10	2	0	0	2	4	11	2	0	0
20代	6	13	26	6	2	0	2	5	32	12	2	0
30代	5	18	25	5	3	0	0	9	34	5	8	0
40代	8	20	26	11	5	2	4	13	38	12	3	2
50代	10	19	34	8	5	0	1	14	44	10	7	0
60代	15	22	46	16	3	4	6	12	62	19	2	5
70代以上	11	26	49	13	0	8	5	17	64	13	0	8
不詳 (無回答)	4	6	3	2	1	2	1	1	10	1	3	2

4 . 分析

重要度の平均値は前回より 0.2 ポイント低下しましたが、満足度の平均値には変化が見られませんでした。他の施策分野と比較しても重要度の平均値が 0.5 ポイント低い結果となりました。

課 題

- ・「この分野に関心がない」
- ・「どのような取り組みがなされているのかわからない」



課題解決への取り組み

- ・ 郷土の自然・文化・歴史などへの関心を高めるために各種講座等を開催するなどしてアウトリーチ活動の強化を検討します。
- ・ どのような取り組みが行われているのか理解していただくために情報発信の仕方を工夫してまいります。ソーシャルメディアを通じた情報発信も有効に活用してまいります。

総合分析

日常生活と直結しないためか「地域の文化に関心がない」と回答される方が多い状況です。個々人の趣味・関心はそれぞれ違いますが、日常のなかで普段何気なく目にしたり聞いたりすることで興味が芽生えることもあるので、ソーシャルメディアを積極的に活用するなどして教育普及活動を地道に展開し、文化財等保護の機運の醸成に努めてまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

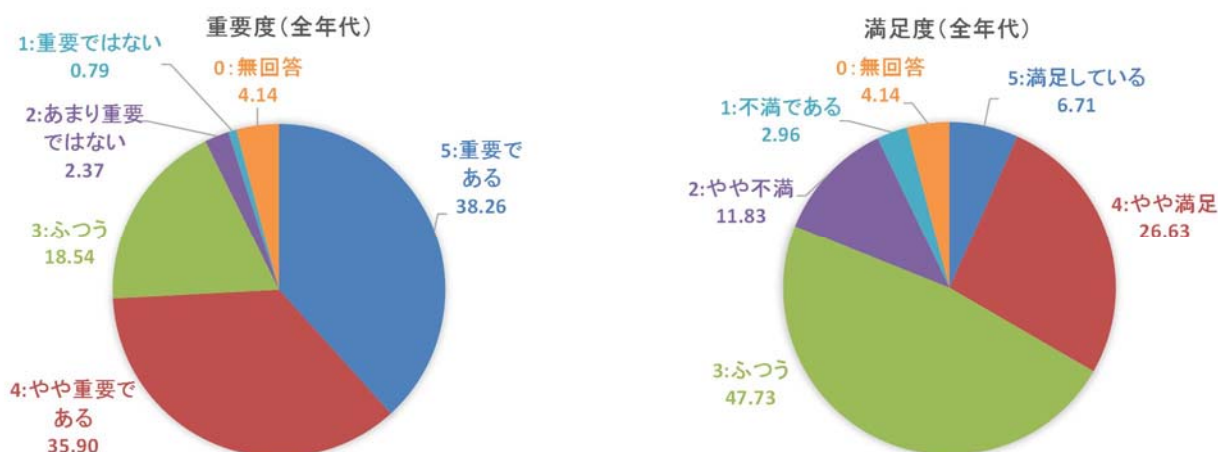
分析担当課	健康課
目 標 名	健康福祉都市
施 策 名	2 - 1 健康づくり・保健活動

1. 施策の平均及び順位

2 - 1	重 要 度					満 足 度						
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減		
健康づくり・保健活動	4.19	4	4.13	4	-	0.06	3.31	4	3.23	4	-	0.08
施策平均	3.88		3.82			0.06	3.09		3.09			0.01

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

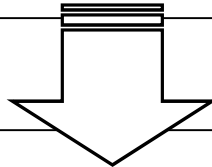
個 数	重 要 度 (年 代 別)						満 足 度 (年 代 別)					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	13	6	0	0	0	0	2	8	8	1	0	0
20 代	23	15	9	3	0	3	0	11	30	6	3	3
30 代	25	24	7	0	0	0	2	10	30	10	4	0
40 代	27	23	18	2	1	1	7	16	35	11	2	1
50 代	23	31	18	2	1	1	3	18	41	10	3	1
60 代	38	45	14	3	1	5	8	30	48	12	2	6
70 代以上	37	35	25	1	0	9	9	36	46	8	0	8
不詳 (無回答)	8	3	3	1	1	2	3	6	4	2	1	2

4. 分析

重要度は高く、「重要である」・「やや重要である」が約7割を占め、健康づくりは市民にとって関心が深いことが伺われます。その反面、満足度は、約半数の方がふつうと回答しており、健康づくり・保健活動施策は十分とは言えず、満足度を上げるための取組みが必要です。

課題

- ・がん検診や特定健康診査の受診体制の充実では、受診しやすい体制作りとして、これまでも日曜検診やがん検診の無料クーポン発行、個別の受診勧奨を実施していますが、さらなる受診率の向上には、若い世代も受けやすい体制作りの取組みが重要です。
- ・健康ポイント事業については、検診の意欲につながるなど概ね良好ですが、参加者数の増加には、内容の検討と更なる周知が必要と考えます。
- ・生活習慣病予防の健康づくり講座の開催や健康情報の提供に努めていますが、より多くの市民に情報発信する取組みが必要です。



課題解決への取組み

- ・健診（検診）を受けやすい体制整備に努める。（複数の検診の同時実施、日曜検診の実施、検診費用の助成拡大、WEBによる検診申し込みの拡大）
- ・健診（検診）未受診者への効果的な勧奨（ソーシャルマーケティングを活用した勧奨）
- ・健康ポイント事業の実施体制及び各年代に応じた事業の周知方法の検討
- ・健康情報の効果的な発信の検討
- ・働き盛り世代への健康づくり支援の推進（健康づくりチャレンジ事業所認定事業）

総合分析

健康づくりは、すべての年代で重要度が高い項目である一方、がん検診や特定健康診査の受診率が低いことから、健康づくりに関しては、市民にとって実践しにくい状況であることが考えられます。そのため、ターゲットに合わせたソーシャルマーケティングを用いた受診勧奨資材による効果的な個別受診勧奨やWEBによる検診申し込み、健康ポイント事業の継続など、市民にとって受診しやすい体制整備に努めます。

健康づくりは、個人だけでなく地域全体で取り組むことが重要であることから、事業所単位で健康づくりを実践する「健康づくりチャレンジ事業所認定事業」を継続支援し、健康づくりに取り組む地域づくりを目指します。

健康寿命日本一を目指し、健康ポイント事業の拡充や健康づくり人材育成事業を推進し、今後も魅力ある実効性の高い事業を展開してまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

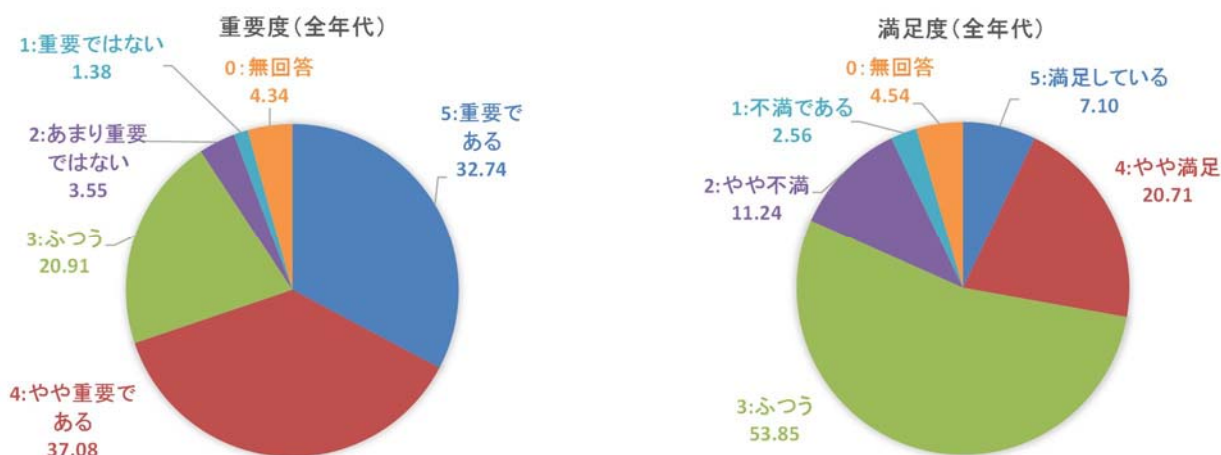
分析担当課	長寿課
目 標 名	健康福祉都市
施 策 名	2 - 2 高齢者福祉

1. 施策の平均及び順位

2 - 2	重 要 度					満 足 度					
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減	
高齢者福祉	4.08	8	4.01	8	-	0.08	3.19	10	3.19	9	0.01
施策平均	3.88		3.82			0.06	3.09		3.09		0.01

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重 要 度 (年 代 別)						満 足 度 (年 代 別)					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	8	6	5	0	0	0	5	4	7	2	1	0
20 代	22	10	13	3	2	3	3	11	29	5	2	3
30 代	13	24	17	1	1	0	4	10	33	8	1	0
40 代	23	29	18	1	0	1	5	15	42	7	2	1
50 代	23	32	17	3	0	1	6	12	44	10	2	2
60 代	41	39	15	4	1	6	4	23	56	14	3	6
70 代以上	29	45	18	4	2	9	7	26	56	9	0	9
不詳 (無回答)	7	3	3	2	1	2	2	4	6	2	2	2

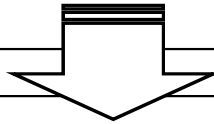
4. 分析

重要度・満足度ともに平均を上回り、回答分布でも重要度は「重要である」「やや重要である」が7割を占め、高齢者福祉施策の重要性を認識いただいています。ただし、満足度では、全年代で「ふつう」を選択される方が最も多く、また高齢者福祉の対象となる60代以上でも「ふつう」を選択される方が過半数を占める結果となっており、施策内容が市民に十分に認知されていないことが理由と考えられます。

課題

「認知症に対する理解が低い」「どのようなサポートが受けられるのか具体的にわかりづらい」「介護認定に関して広報に申請方法を掲載してほしい」などの意見や、高齢者福祉の対象となる60代以上のかたには「認知症バリアフリーの地域づくりを急ピッチで進めてほしい」「認知症バリアフリーや高齢者の成年後見制度などの情報が薄く知らない人が多いのではないか」といった意見をいただき、このような状況が満足度における「ふつう」が過半数を占めた要因と分析されます。これまでも関係機関と連携して高齢者福祉サービスの周知に努めていますが、更なる周知の方法を検討していく必要があります。

また、「高齢者が安心して暮らせるまちにするには、若い人たちが率先して、高齢者が暮らしの中で不便なところを補ってやらなければならないと思う」との意見をいただいております。多世代による地域での支え合いやサービスの提供体制をつくりあげていく必要があります。



課題解決への取組み

- ・市広報紙やホームページ、新聞等のマスメディアを活用した情報発信
- ・関係機関（関係課、地域包括支援センター、地域支え合い推進会議、生活支援コーディネーター）との連携をさらに密にして、各種施策の情報共有により地域包括ケアシステムの構築を推進
- ・施策の継続的な周知・啓発活動を実施しながら、認知症対策の推進と地域における支え合いの仕組みづくりの支援によって、地域で高齢者の生活支援・移動支援に取り組む団体を増やし、高齢者が安心して暮らすことができるまちづくりにつなげる。

総合分析

本市の高齢化率は年々上昇しており、高齢者福祉の重要性がさらに高まることから、高齢者施策の周知・啓発活動の一層の強化とともに、認知症対策の推進と地域での支え合いの仕組みづくりによって高齢者の生活支援・移動支援施策の活用団体の増加を図っていくことが必要であると考えています。

今回の結果を踏まえ、第2次新大館市総合計画後期基本計画の基本目標である「健康で、互いのつながりを大切に支え合う“健康福祉都市”」、第8期介護保険事業計画・高齢者福祉計画に掲げる「高齢者が生きがいと尊厳をもち、安心して暮らす地域社会づくり（ひとりぼっちにさせない地域支え合い）」を基本理念として、すべての高齢者が住み慣れた地域で、生きがいと尊厳をもって暮らせるよう、介護予防や生きがいづくり、地域における見守りや支え合い、医療・介護などの多様な職種の連携による地域包括ケアシステムの構築に向けた施策を引き続き展開していくとともに、関係団体・関係各課と連携を一層強化してまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

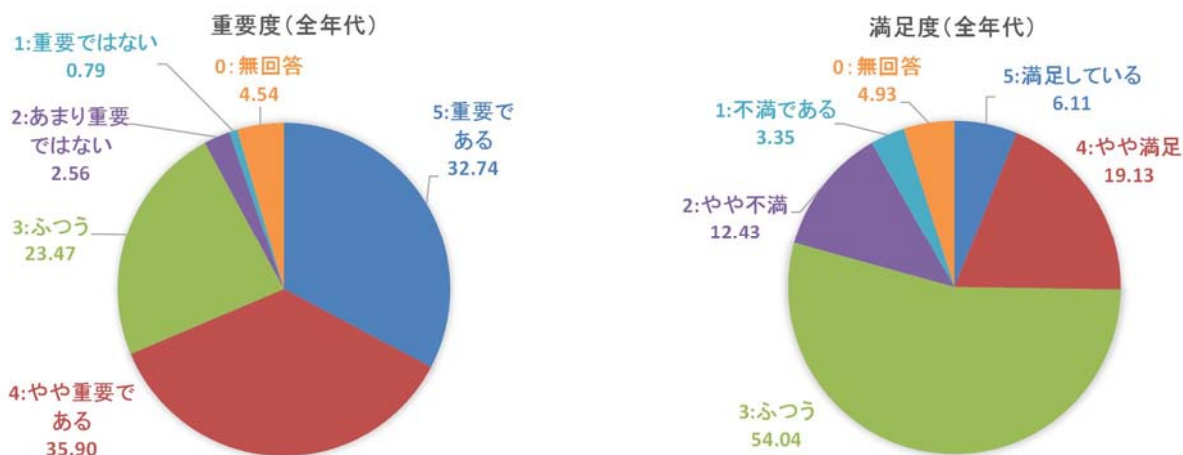
分析担当課	福祉課
目 標 名	健康福祉都市
施 策 名	2 - 3 障害者福祉

1. 施策の平均及び順位

2 - 3	重 要 度					満 足 度				
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減
障害者福祉	4.02	10	4.02	6	0.01	3.15	12	3.13	11	0.02
施策平均	3.88		3.82		0.06	3.09		3.09		0.01

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重 要 度 (年 代 別)						満 足 度 (年 代 別)					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	11	7	1	0	0	0	3	7	8	1	0	0
20 代	20	12	15	2	1	3	3	12	26	6	3	3
30 代	21	18	15	1	0	1	2	7	36	9	1	1
40 代	19	33	17	1	1	1	5	15	40	6	4	2
50 代	25	32	18	1	0	0	4	14	44	10	3	1
60 代	39	34	22	3	1	7	6	17	56	15	5	7
70 代以上	25	41	28	4	0	9	6	23	55	14	0	9
不詳 (無回答)	6	5	3	1	1	2	2	2	9	2	1	2

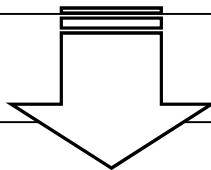
4. 分析

重要度・満足度とも平均を上回り、順位も前回と比較して上昇する結果となっています。

重要度の回答分布では、「重要度である」「やや重要である」で過半数を超え、満足度の回答分布では「ふつう」が過半数を占める結果となりました。また、年代別の重要度では、10代の「重要度である」「やや重要である」を占める割合が高く、障害教育理解によるものと考えられ、年代別の満足度では全年代で「ふつう」が多数を占めています。重要度に満足度が追い付いていない状況が伺えます。

課題

- ・ 障害や障害の特性についての理解・啓発に関する施策の周知不足
- ・ 障害のあるかたの相談窓口の周知方法
- ・ 障害福祉サービスに関する情報発信の仕方



課題解決への取組み

- ・ 「障がい者サポーター養成講座」などの障害に関する理解・啓発セミナー等の継続した開催と周知方法の工夫
- ・ 相談支援専門員が相談支援を行う基幹相談支援センターの周知と障害のあるかたへの情報発信方法の工夫

総合分析

障害福祉に関する意見の多数が、障害や障害の特性についての理解や情報提供、障害者の就労に関するものでした。令和元年度から実施している「障がい者サポーター養成講座」を継続実施し、障害の特性に応じたコミュニケーションに関する事業もあわせて実施していく必要があります。

また、就労に関しては、一般就労や障害福祉サービスの利用などの情報提供について、関係機関（ハローワーク、障害者就業・生活支援センター、基幹相談支援センター）と連携を強化しながら周知を図ってまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

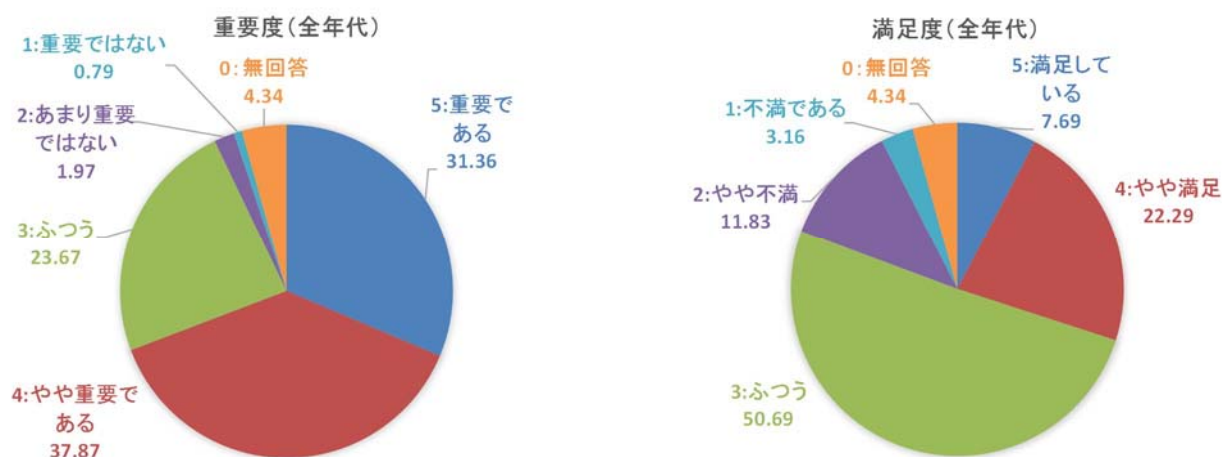
分析担当課	福祉課
目 標 名	健康福祉都市
施 策 名	2 - 4 地域福祉

1. 施策の平均及び順位

2 - 4	重 要 度					満 足 度				
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減
地域福祉	3.88	15	4.01	7	0.13	3.18	11	3.20	7	0.02
施策平均	3.88		3.82		0.06	3.09		3.09		0.01

小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重 要 度 (年 代 別)						満 足 度 (年 代 別)					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10代	11	5	3	0	0	0	3	3	8	5	0	0
20代	16	17	14	2	1	3	4	13	27	4	2	3
30代	15	23	15	2	0	1	4	13	28	8	3	0
40代	25	30	14	1	0	2	7	24	29	9	1	2
50代	23	29	23	0	0	1	3	18	41	9	3	2
60代	36	37	24	1	2	6	5	21	56	14	4	6
70代以上	27	48	22	3	0	7	11	18	61	9	1	7
不詳(無回答)	6	3	5	1	1	2	2	3	7	2	2	2

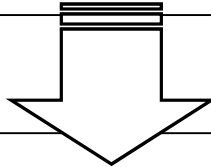
4 . 分析

重要度、満足度ともに施策平均値を上回る結果となり、前回と比較して順位も上昇しています。回答分布を見ると、重要度においては、ほぼすべての年齢層で高いポイントを得ており、「重要である」「やや重要である」が過半数を超え、市民の期待の高さがうかがえます。一方、満足度では、重要度に比べ全体的に分布が推移しており、これも期待の高さゆえの結果と思われるが、「ふつう」の評価が顕著に多く、満足度を上げるための取組が必要と考えます。

課 題

除雪の困りごとに関する意見が大半で、除雪ボランティアの重要性についても多くのご意見をいただきました。市民がわかりやすく、利用しやすいよう、これまで以上に広報等で周知を図り、高齢者福祉とも連携した新たな取り組みを再検討していく必要があります。

また生活困窮や就労支援といった福祉に関する困りごとを相談できる窓口についても、わかりやすく発信し、利用拡大等につながる取り組みを推進していきます。



課題解決への取組み

- ・ 広報、ホームページを活用した情報発信、福祉に関する相談窓口の周知と充実
- ・ 除雪対策事業について、高齢者福祉とも連携した新たな取り組みの再検討
- ・ 除雪ボランティアについて、市内の中学校・高校に募集・登録の依頼
- ・ 総合支所等での臨時相談会の開催や休日の相談窓口開設の周知徹底
- ・ 関係団体（社会福祉協議会）と連携した、広報・啓発活動の継続

総合分析

生活困窮者自立相談支援事業は、そのイメージから生活保護の入り口と捉えられがちですが、実際には経済的な困窮ばかりでなく、ライフスタイルの改善や就労支援、家族関係の問題解決、地域社会との関係性の調整など、この事業が担う役割は多岐にわたります。

新聞や広報、市ホームページ等で、生活困窮者等に関する相談窓口の所在について、周知徹底するよう努めてまいります。また、今後も利用者の立場に寄り添った入口づくりや、多様な相談経路を模索するなど、生活困窮者の自立を助長するための相談機関として支援に取り組んでまいります。

除雪ボランティアは、登録者数・登録団体とも年々増加傾向にありますが、地域の一翼を担う中・高校生のボランティアを育成し、将来を見据えた体制づくりを今後も進めてまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

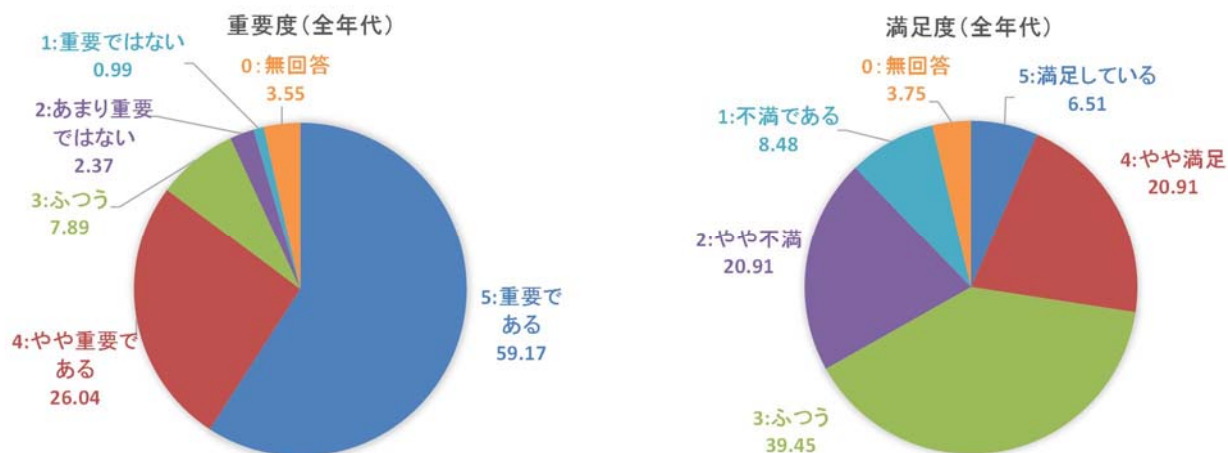
分析担当課	総合病院、扇田病院
目 標 名	健康福祉都市
施 策 名	2 - 5 医療

1. 施策の平均及び順位

2 - 5	重 要 度					満 足 度						
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減		
医療	4.44	1	4.45	1	-	0.01	2.93	22	2.96	22	-	0.03
施策平均	3.88		3.82			0.06	3.09		3.09			0.01

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重 要 度 (年 代 別)						満 足 度 (年 代 別)					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	13	5	1	0	0	0	3	6	8	1	1	0
20 代	33	14	4	2	0	0	6	11	22	10	4	0
30 代	34	16	4	1	1	0	2	8	21	16	9	0
40 代	50	16	5	0	0	1	6	15	29	16	5	1
50 代	46	22	8	0	0	0	3	17	29	20	7	0
60 代	68	18	6	5	2	7	5	16	41	26	9	9
70 代以上	45	39	12	2	1	8	6	30	46	14	4	7
不詳 (無回答)	11	2	0	2	1	2	2	3	4	3	4	2

4 . 分析

重要度は平均を上回り、前回に引き続き順位が1位となり、「重要である」との回答が過半数を超えています。

一方、満足度は前回とほぼ同じ結果(22位)となり、その回答分布は、各年代別をみても「ふつう」が過半数を占める結果となっています。以上より、地域医療や市立病院に対する市民の皆さんの関心が高く最も重要だと思っているものの、期待が大きい分、課題が数多く見受けられるものと考えられます。

課 題

【総合病院】

< 経営企画課 >

- ・「将来に向けた医療体制の整備が必要」との意見が多数ありました。

総合病院と扇田病院の担うべき役割の分担や、開業医の高年齢化と減少などによる一次医療機関の不足など、本地域が抱える医療の問題そのものが課題と考えられます。

- ・「地域救命救急センター整備」の必要性についてのご意見がありました。整備に至った経緯や事業内容の周知不足が課題としてあげられます。

< 総務課 >

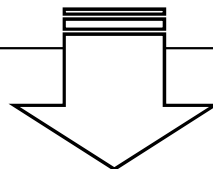
- ・「医師や看護師など医療従事者不足」、「医療の質の向上」など診療体制に対する意見がありました。総合病院としての各診療科の維持や、医師・看護師等の確保が課題としてあげられます。
- ・「職員の態度、言葉遣いが悪い」など、接遇についての意見をいただきました。気持ち良く受診してもらえるよう、職員への教育が課題としてあげられます。

< 医事課 >

- ・長い待ち時間や予約時間の設定について多数のご意見をいただいておりますが、現状では外来診療中に救急搬送された患者や入院患者の急変への対応が加わることで、診療科によっては医師数が少ない中で多くの患者さんの診療を行わなければならない状況があることなどから、予約時間どおりの診察をすることが難しくなり、待ち時間が長くなっております。

【扇田病院】

- ・扇田病院の医療機能に関する意見が大半を占めました。意見の多くは無床化の反対、現状維持での存続という内容ですが、一方で将来の財政的なシミュレーションにより市民が納得できる案を明示するべきという意見もあり、重要な検討課題となっています。



課題解決への取組み

【総合病院】

< 経営企画課 >

- ・県の地域医療構想調整会議での協議を踏まえながら、当地域医療圏に必要な医療機能を担っていきます。
- ・現在策定中の「病院事業経営強化プラン」において、将来にわたり両院が安定した経営を行いながら、必要な医療提供体制を確保し継続できるよう検討を行います。
- ・「地域救命救急センター」の事業内容については、病院広報誌などを活用し市民の皆様への周知を図るとともに、令和6年4月からの開始に向けた施設整備を行います。

< 総務課 >

- ・医師確保については、引き続き弘前大学や秋田大学への派遣要請を行うとともに秋田県の医療人材対策室と連携しながら、新たな医師確保に努めます。また、看護師等の医療従事者確保については、採用試験の時期等の見直しや多様な採用方法を検討することで、医療体制の充実を図ります。
- ・待遇については、毎年実施の患者アンケートの結果を踏まえ、指導教育を行い、改善に努めます。

< 医事課 >

- ・二次救急医療機関である総合病院は、救急患者さんや重篤な患者さんを優先して受け入れ、専門的な治療を提供する体制を確保します。慢性疾患等で定期的な受診が必要な患者さんには、開業医と役割分担しながら地域の医療ニーズに応えることが必要です。今後も「2人主治医制」による紹介、逆紹介や地域連携パスの利用促進を図り、できる限り待ち時間の解消に努めてまいります。

【扇田病院】

- ・将来にわたり持続可能な地域医療体制の構築と将来世代に負担を先送りしないことを念頭に、総合病院と連携して、地域に必要な医療機能を充実させる医療環境づくりを病院事業経営強化プランの策定と並行して検討を進めます。

総合分析

今回の第17回大館市世論調査の結果につきましては、貴重なご意見として院内の各部署で共有し、今後も総合病院の理念である「患者さんが安心と満足を得られる医療」を展開し、扇田病院の理念である「地域の皆様の心の支えとなる病院」づくりに生かしてまいります。

施設設備の保全を行い、引き続き安心・安全な医療を提供できる病院づくりを進めてまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

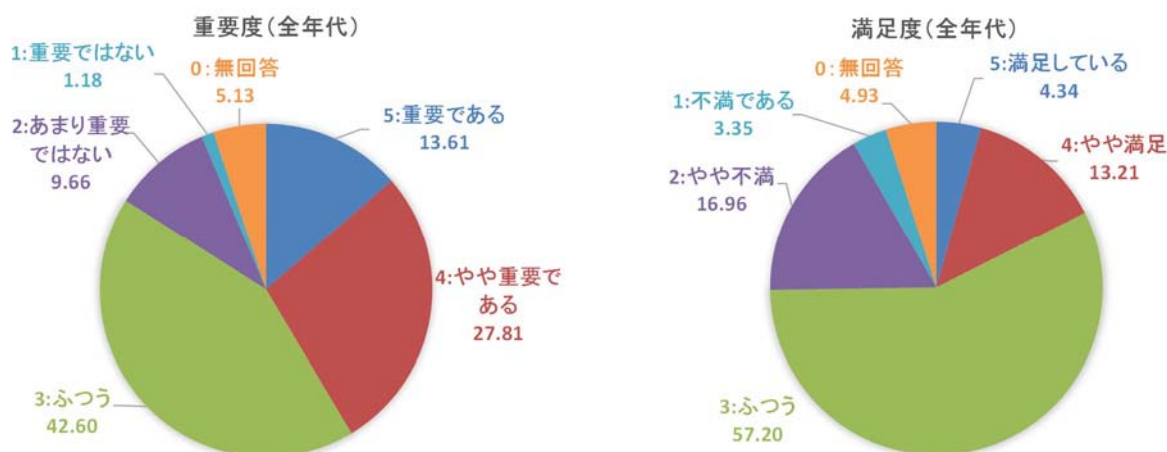
分析担当課	企画調整課
目 標 名	健康福祉都市
施 策 名	2 - 6 地域コミュニティ・協働によるまちづくり

1. 施策の平均及び順位

2 - 6	重 要 度					満 足 度				
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減
地域コミュニティ・協働によるまちづくり	3.69	20	3.45	22	0.23	2.96	18	2.98	20	0.02
施策平均	3.88		3.82		0.06	3.09		3.09		0.01

小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重 要 度 (年 代 別)						満 足 度 (年 代 別)					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10代	6	6	5	2	0	0	4	3	10	2	0	0
20代	9	13	26	4	0	1	4	7	28	10	3	1
30代	3	15	27	10	0	1	1	8	32	10	5	0
40代	4	20	35	9	1	3	3	11	45	9	1	3
50代	12	20	32	9	3	0	3	10	46	14	3	0
60代	20	29	39	7	0	11	3	8	56	27	2	10
70代以上	10	35	48	5	1	8	2	18	66	11	1	9
不詳(無回答)	5	3	4	3	1	2	2	2	7	3	2	2

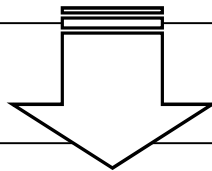
4 . 分析

重要度・満足度ともに前回調査から下降しており、また、依然として施策平均も下回っています。また、回答の傾向としても、「ふつう」が重要度で 42.6%、満足度で 57.2%と大半を占めていますが、これは、施策に関連してどのような取組みがなされているか認識されていないという点と、いただいた意見にもあるとおり、地域の若者が減っているなかで、町内会等が一部の方だけに恩恵のある組織と思われる点に原因があるものと考えます。

さらに、世帯形態の変容等により、地域コミュニティ意識の希薄化、地域コミュニティへの無関心化が進んでいると考えられます。

課 題

- ・「地域コミュニティ・協働によるまちづくり」が、そもそも何を指しているのか分かりづらく、無関心化につながっている。
- ・特に若い世代において、町内会等の地域コミュニティの基礎的単位が、関わりづらいものとなっている。(高齢者が主体、若者の意見が通りづらい等)
- ・地域住民が主体となり、自らが住まう地域の課題解決、活性化に向けた取組みに関わっていくための意識の醸成。



課題解決への取組み

- ・市広報やホームページ、地元新聞を活用した施策に関する情報発信に加え、町内会等が主催する研修会に出向き、支援事業等について直接説明する機会を増やします。
- ・町内会に対する支援メニューの活用時には、一部会員だけではなく、若者から高齢者まで、広く意見を集めながら活動していくことを促します。
- ・地域応援プランや国・県の支援事業等により、地域住民主体の、地域課題解決や活性化に向けた取組みを支援します。

総合分析

地域コミュニティ・協働のまちづくりにおいては、自らが住まう地域の活動や課題等を自分事として捉えることが大切ですが、調査により、本施策に対する認知不足や関心の低さが見て取れる結果となりました。

今後、人口減少が避けられないなかで、地域コミュニティが担う機能を維持していくためには、地域特有の課題を整理し、その解決に向け住民、行政、関係者が連携し取り組んでいく必要があります。今回の調査結果を真摯に受け止め、まずは、本施策の認知度向上や地域コミュニティに関する意識の醸成を図っていきます。また、活動への支援としては、引き続き地域応援プラン、町内会等備品整備支援を中心に、地域コミュニティ活動が充実するよう、積極的に地域と関わり合いながら、ともに地域づくりを進めていきます。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

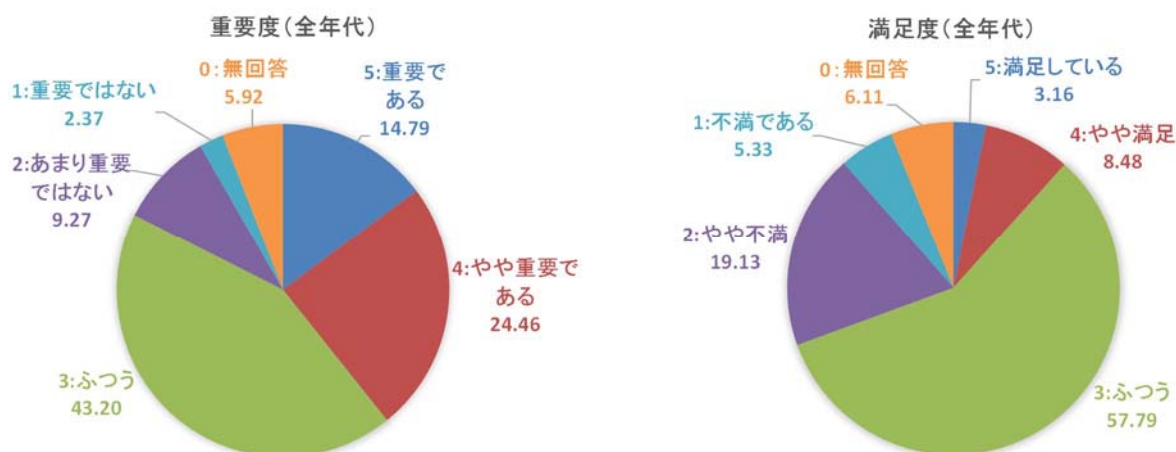
分析担当課	企画調整課
目 標 名	健康福祉都市
施 策 名	2 - 7 男女共同参画・人権

1. 施策の平均及び順位

2 - 7	重 要 度					満 足 度				
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減
男女共同参画・人権	3.42	26	3.43	23	0.01	2.94	20	2.84	27	0.10
施策平均	3.88		3.82		0.06	3.09		3.09		0.01

小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

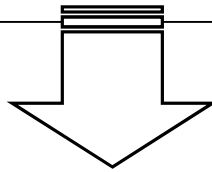
個 数	重要度 (年代別)						満足度 (年代別)					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10代	7	5	4	3	0	0	3	2	10	3	1	0
20代	13	15	20	2	2	1	3	7	33	6	3	1
30代	10	15	23	6	2	0	2	3	31	15	5	0
40代	11	17	31	9	1	3	0	8	40	16	5	3
50代	13	13	37	10	3	0	2	7	47	16	4	0
60代	10	26	46	9	2	13	2	6	62	19	4	13
70代以上	7	30	54	4	1	11	2	9	64	17	3	12
不詳(無回答)	4	3	4	4	1	2	2	1	6	5	2	2

4 . 分析

重要度は前回調査より少し上昇したものの、満足度は大きく順位を下げ、どちらとも平均を下回っております。回答分布をみても「ふつう」が最も多い回答となりました。前回調査同様、約4割近い方が「重要・やや重要である」と回答しているにも係わらず、満足度が伸びてこないということは、施策に係わる事業の周知・認知不足と考えられます。

課 題

- ・「広報活動はしていると思うが、よくわからない」「個人より、企業に理解してもらう必要がある」、「学校教育として、子どもの頃からの教育が必要では」という意見から、周知方法の見直しが必要と考えます。



課題解決への取組み

- ・若い世代向けのセミナーやワークショップの開催
- ・男女共同参画センターや学校関係機関等と連携し、法人向けや子ども向けの広報活動及び啓蒙活動
- ・市広報紙やホームページを活用した情報発信

総合分析

令和3年3月に世界経済フォーラムから公表された「ジェンダー・ギャップ指数」では、日本は156か国中120位であることに表れているように、男女共同参画の現状は立ち遅れていると言わざるをえない状況です。人生100年時代を迎え、女性の人生と家族の姿は多様化しており、男性もまた女性の社会における活躍と歩調を合わせ、育児等への参画や地域活動への参加を促す必要があります。

市としましては、男性市職員の育児休暇取得の推進や各種委員会・審議会への女性委員登用、新規採用職員を対象とした講習や秋田県男女共同参画センターと共催し、法人向けのセミナーを開催したところですが、行政として、市民の皆さまから満足が得られる取り組みが求められております。

引き続き、関係団体・関係各課と連携を強化し、「男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会」の実現に向け、一層努めてまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

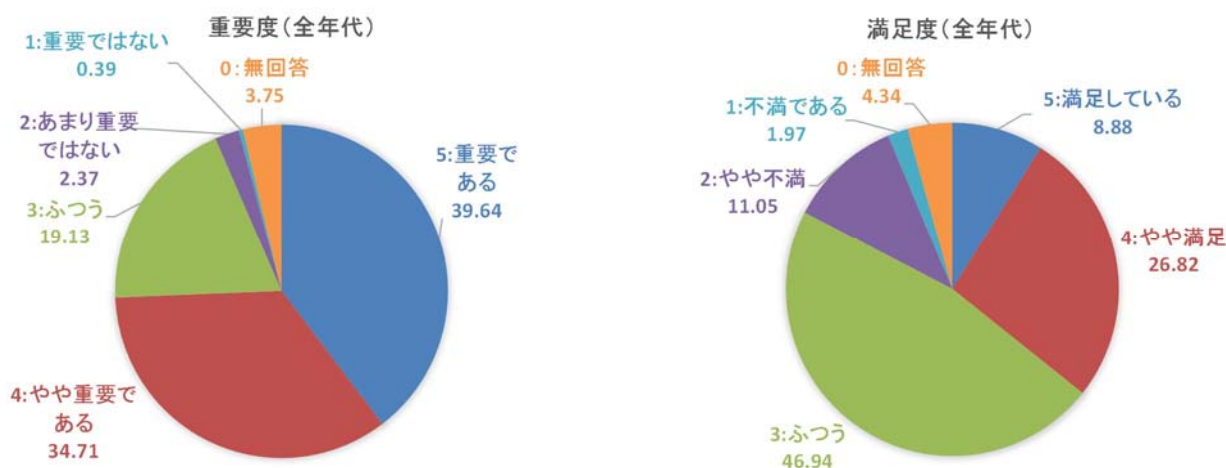
分析担当課	消防本部
目 標 名	健康福祉都市
施 策 名	2 - 8 消防・救急救助体制・防災

1. 施策の平均及び順位

2 - 8	重 要 度					満 足 度						
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減		
消防・救急救助体制・防災	4.25	3	4.15	3	-	0.09	3.34	3	3.31	3	-	0.03
施策平均	3.88		3.82			0.06	3.09		3.09			0.01

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

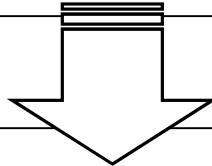
個 数	重 要 度 (年 代 別)						満 足 度 (年 代 別)					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	12	7	0	0	0	0	3	7	8	1	0	0
20 代	20	19	9	4	0	1	7	16	20	9	0	1
30 代	24	14	18	0	0	0	4	13	30	6	3	0
40 代	33	27	11	0	0	1	7	26	32	4	1	2
50 代	29	30	14	3	0	0	8	15	42	10	1	0
60 代	43	40	13	3	0	7	7	27	44	16	2	10
70 代以上	31	37	28	2	1	8	7	26	57	9	1	7
不詳 (無回答)	9	2	4	0	1	2	2	6	5	1	2	2

4. 分析

重要度・満足度ともに施策平均を超えています。前回調査の数値と比較するとどちらも下回る結果となりました。回答分布をみると、重要度では「重要である」と「やや重要である」との回答が74%を占め、依然として消防・救急救助体制・防災は市民にとって関心が高いことが伺えます。満足度では「ふつう」が47%と一番多く、事業内容の見直しや改善等が必要と考えられます。

課題

- ・災害等に関する情報伝達のあり方について、「携帯電話を持ちたくない家庭はどのようなのか」「携帯電話を持っていてもメール等はやっていない」等の意見をいただきました。デジタル化が少しずつ進行し、便利な世の中になってきている一方で、それを不便に感じている方も多いということが分かりましたので、情報伝達方法の改善や拡充が重要な課題だと考えます。
- ・消防団の活動について疑問を有している方が多いようですので、地域における消防・防災体制の必要性と活動内容の周知が必要であると考えます。



課題解決への取組み

- ・災害時に情報難民を出さないため、テレフォンサービスやソーシャルネットワーキングサービスを利用した情報提供の他にも、自主防災組織に情報を伝達してもらう等の方法が考えられるため、関係課と協議を重ねる等して新たな情報伝達方法について検討してまいります。
- ・近年、消防団については、コロナ禍に伴い大勢の団員が集まる防災活動は縮小せざるを得ませんでした。地域防災力を充実強化していくために、消防団員やその家族の負担も考慮しながら、活動計画を見直していきます。

総合分析

近年、風水害を中心とする災害が多発化、激甚化しており市民の防災意識は年々高まっていると分析できます。災害発生時において被災を防ぐためには、適切かつ迅速に避難できるよう、避難情報を早期に確実な方法で提供する必要があります。

また、人口減少、少子高齢化などの社会情勢も変化していることから、地域における消防団、自主防災組織、町内会等との連携を一層強化し、さらに実災害に即した地域ぐるみの防災訓練等を繰り返し行うことで防災基盤を強固にしていきます。そして防災力を充実させることで、災害に強く市民が安全安心して暮らせるまちづくりに繋げてまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

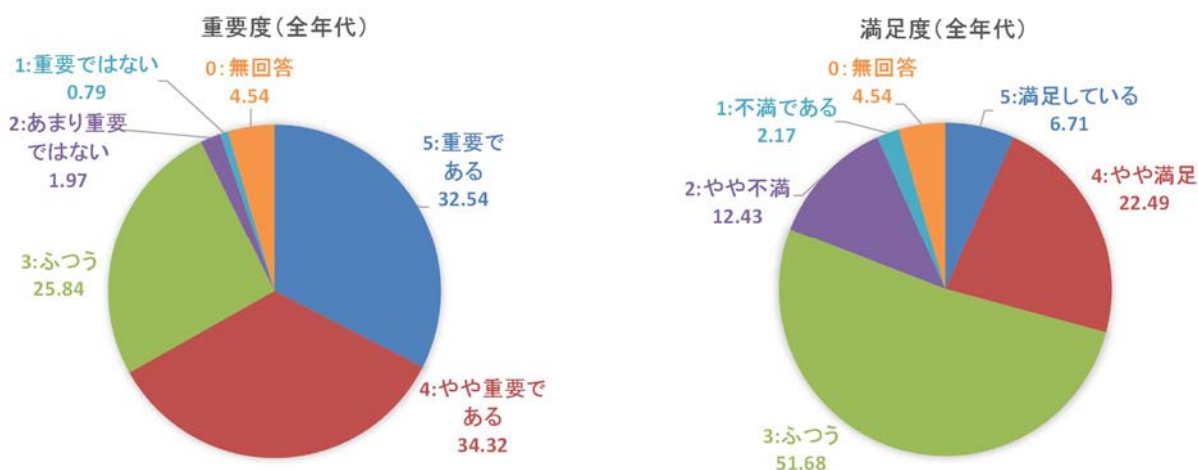
分析担当課	市民課
目 標 名	健康福祉都市
施 策 名	2 - 9 防犯・交通安全

1. 施策の平均及び順位

2 - 9	重 要 度					満 足 度					
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減	
防犯・交通安全	4.09	7	4.00	9	0.08	3.21	8	3.20	8	-	0.01
施策平均	3.88		3.82		0.06	3.09		3.09			0.01

小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布（％）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重 要 度（年代別）						満 足 度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10代	10	8	0	0	0	1	5	5	8	0	0	1
20代	21	14	17	1	0	0	8	14	23	7	0	1
30代	23	16	14	2	0	1	3	10	33	8	2	0
40代	21	25	24	0	0	2	2	24	34	7	3	2
50代	25	30	19	1	0	1	4	13	46	10	2	1
60代	38	35	21	3	1	8	4	18	55	19	1	9
70代以上	19	43	34	2	1	8	6	26	57	9	2	7
不詳（無回答）	8	3	2	1	2	2	2	4	6	3	1	2

4 . 分析

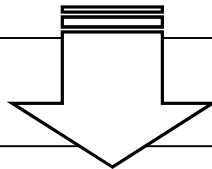
重要度・満足度については前回調査をわずかに下回るものの、いずれも施策平均を上回る結果となり、依然として安全・安心なまちづくりに対する期待が大きいことが伺えます。

しかし、満足度については「ふつう」が過半数を占めており、施策自体は重要であると認識されているものの、満足度を感じられていない層も多いものと考えられます。

課 題

「街灯が少ない地域がある」「夜の道が暗い」といった意見のほか、防犯灯、道路、カーブミラー、信号など施設に関する意見を多くいただきました。これまでも施設の整備・維持管理については限られた予算の中で適切に実施していますが、新規の街灯設置が必要な場所については関係部署と連携して、環境整備を進めていく必要があります。

また、交通指導隊の活動については「交通安全教室実施など意識を高める工夫がある」など評価する声があったものの他の意見は少なく、防犯指導隊については関連する意見そのものが見受けられなかったことから、両指導隊を含む防犯、交通安全団体の取組みの認知不足が伺えます。そのため、両指導隊の活動を継続していくとともに、関係団体と連携し、街頭活動及び広報活動を積極的に実施し、市民に関心を持って頂く必要があります。



課題解決への取組み

- ・ 関係機関と連携し、施設の維持管理と改善に取り組む。
- ・ 関係機関と連携し、防犯・交通安全の活動を広く市民へ推進・発信していく。

総合分析

防犯灯やカーブミラー、道路など関連施設に関する意見が多いことから、市民の安心安全を確保するために防犯・交通安全施設の維持管理と改善が必要と分析されます。今後も定期的に施設を巡回し、管理状況の確認を行うとともに、適切な施設維持に努めます。

また、防犯・交通安全は未然防止が重要であることから、市民一人ひとりが犯罪や事故の発生をなくすという視点に立って、防犯・交通安全への活動がより一層推進されるよう、関係機関と連携して活動し、市民意識の醸成を図ります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

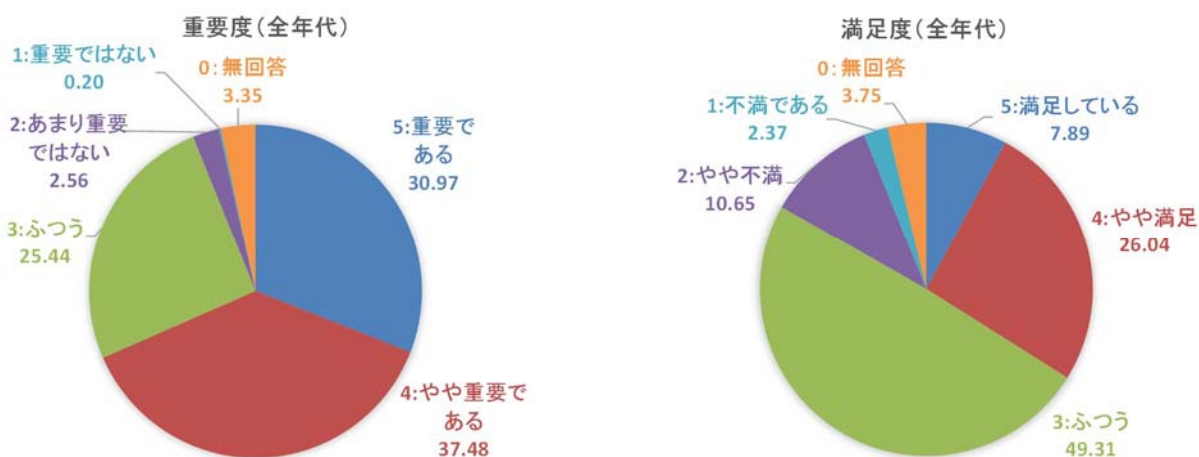
分析担当課	農政課
目 標 名	産業創造都市
施 策 名	3 - 1 A 農業

1. 施策の平均及び順位

3 - 1 A	重 要 度					満 足 度					
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減	
農業	-	-	4.00	-	-	-	-	3.27	-	-	-
施策平均	3.88		3.82		0.06	3.09		3.09			0.01

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

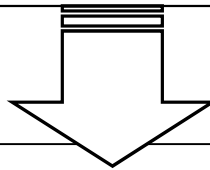
個 数	重 要 度 (年 代 別)						満 足 度 (年 代 別)					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10代	7	6	6	0	0	0	3	3	11	2	0	0
20代	17	16	17	3	0	0	6	13	25	5	4	0
30代	19	19	17	1	0	0	6	16	26	4	4	0
40代	24	30	16	0	0	2	7	24	29	10	0	2
50代	29	26	19	2	0	0	3	22	41	8	2	0
60代	31	42	26	5	0	2	3	23	61	13	1	5
70代以上	27	46	25	0	1	8	9	28	51	11	1	7
不詳(無回答)	3	5	3	2	0	5	3	3	6	1	0	5

4 . 分析

重要度・満足度ともに施策平均を上回る結果となりました。重要度については、7割近い方が「重要」または「やや重要」と答えており、農業施策の重要性は認識されているものと考えています。その反面、満足度については、約半数が「ふつう」と答えていることから、施策の成果が十分に得られていない、あるいは、専門的な分野になってしまうので、結果、満足度における「ふつう」という回答が約半数を占める結果になったものと分析されます。

課 題

- ・「担い手の不足の改善」、「大館産ブランド強化の継続」、「マーケティングが弱い印象」
- ・実際の施策が広く市民に知られていない



課題解決への取組み

- ・地域農業の担い手確保と担い手への農地集積を進め、持続可能な農業・農村の実現を目指します。
- ・大区画化を伴うほ場整備事業の推進など農業生産基盤の条件整備を進めます。
- ・重点戦略作物（枝豆、山の芋、アスパラなど）の作付拡大を進め、複合経営による農業所得の安定化に努めます。
- ・「比内地鶏」、「とんぶり」、「山の芋」などのブランド確立に向け、品質向上対策に取り組みます。

総合分析

農産物のブランド強化や後継者対策、所得向上対策に関する意見が多かったことから、市民の声を今後の施策に反映するとともに、併せて、市民へのPRも行っていく必要があると考えます。

また、次代を担う農業者を確保することは、農業・農村を維持していく上で最も重要な要素です。そのため、市としましても、生産基盤の条件整備や複合作物の導入・拡大に向けた支援、農産物のブランド化や6次化の取り組みなどを通じて、農業所得の向上を図りながら、農業を魅力ある成長産業にしていくため、一層推進してまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

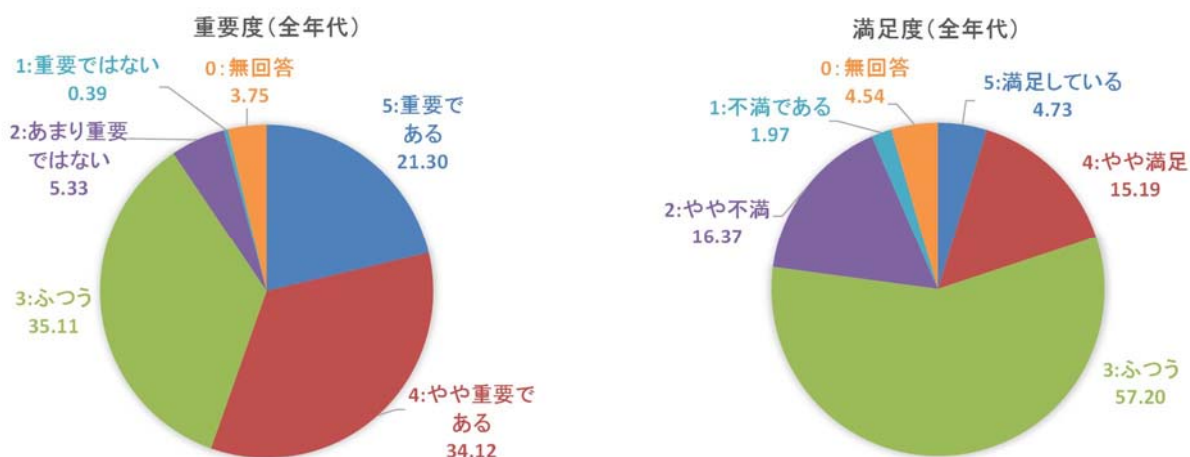
分析担当課	林政課
目 標 名	産業創造都市
施 策 名	3 - 1 B 林業

1. 施策の平均及び順位

3 - 1 B	重 要 度					満 足 度					
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減	
林業	-	-	3.73	-	-	-	-	3.05	-	-	-
施策平均	3.88		3.82		0.06	3.09		3.09			0.01

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度 (年代別)						満足度 (年代別)					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10代	7	7	5	0	0	0	4	6	7	2	0	0
20代	9	21	19	4	0	0	4	12	27	9	1	0
30代	11	18	22	5	0	0	3	8	35	7	3	0
40代	13	22	31	3	0	3	2	11	44	12	0	3
50代	17	23	32	3	1	0	2	12	49	12	1	0
60代	27	37	31	7	1	3	3	10	63	17	5	8
70代以上	21	38	35	5	0	8	3	16	59	22	0	7
不詳(無回答)	3	7	3	0	0	5	3	2	6	2	0	5

4 . 分析

重要度・満足度ともに施策平均をやや下回る結果となりました。重要度については、半数以上の方が「重要である」または「やや重要である」と答えており、全ての年代層において同じような回答傾向となっていることから、林業施策の重要性は広く認識されているものと考えています。

満足度については、半数以上の方が「ふつう」と答えていることから、林業施策の成果が十分に認知されていないという点と、林業施策が身近なものとして捉えられていない点があると受け止めています。

課 題

- ・「間伐・再造林」や「災害対策」など、適切な森林管理が求められています。
- ・「有害鳥獣対策の強化」が求められており、実施隊員の高齢化も問題視されています。
- ・「木材のまち大館の復活」や「豊かな森林を活かすまち」に向けた林業の成長産業化の一層の推進が求められます。
- ・「近年、木育に関する取り組みが多くなってきている」との評価の声も頂いていますが、様々な年代の方々に木に対する理解を深めてもらう取り組みの充実が必要です。
- ・林業施策に関する情報発信を積極的に実施し市民に関心を持って頂く必要があります。

課題解決への取組み

- ・再造林推進事業による補助金の充実を図るほか、森林経営管理制度による適切な森林管理の推進
- ・有害鳥獣の目撃情報を基にしたパトロールや捕獲活動の強化、鳥獣被害対策実施隊員への活動支援の充実
- ・豊富な森林資源の最大活用と確実な資源循環を図ることによる林業成長産業化の実現
- ・新生児等へ木製おもちゃを配布するウッドスタート推進事業と市民が木とふれあい、木に学び、木と生きる「木育」のリーダーとなる木育インストラクターの養成
- ・森林、林業、木材産業に関する WEB セミナー「WOOD CHANGE ODATE ウェビナーシリーズ」の開催や林業、木材に関する知識などの情報提供を目的とした「教えてはちくん！木づかい通信」の発行

総合分析

適切な森林管理や有害鳥獣対策の強化に関する意見が多かったことから、市民の声を今後の施策に反映していくとともに、林業施策の市民認知度向上のため、PRや情報提供も継続して行っていく必要があると分析されます。

地域の森林・林業の“マスタープラン”となる「大館市森林整備計画」の実行とともに、木育の推進による市民の木に対する理解の醸成や、産学官連携による新たな需要創造と雇用創出、良質な秋田スギ産地としての価値向上を図り、林業の成長産業化の実現を目指してまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

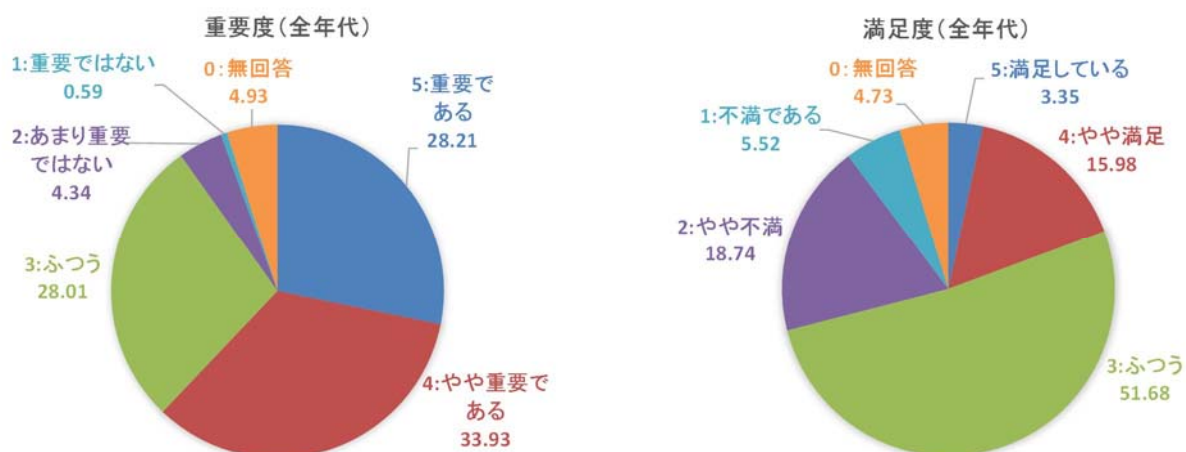
分析担当課	商工課
目 標 名	産業創造都市
施 策 名	3 - 2 商工業

1. 施策の平均及び順位

3 - 2	重 要 度					満 足 度				
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減
商工業	3.88	16	3.89	15	0.01	2.87	26	2.93	24	0.05
施策平均	3.88		3.82		0.06	3.09		3.09		0.01

小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度(年代別)						満足度(年代別)					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10代	9	7	3	0	0	0	2	4	9	4	0	0
20代	21	16	11	5	0	0	4	7	30	8	4	0
30代	15	17	19	2	2	1	0	10	31	8	7	0
40代	16	31	21	1	0	3	1	14	31	17	5	4
50代	25	22	28	1	0	0	3	10	44	15	4	0
60代	30	39	22	6	1	8	3	18	51	21	5	8
70代以上	23	35	37	4	0	8	3	15	61	19	2	7
不詳(無回答)	4	5	1	3	0	5	1	3	5	3	1	5

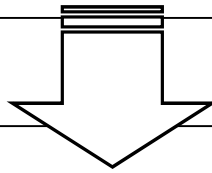
4. 分析

重要度については、全ての世代で「重要である」「やや重要である」が過半数を占めました。一方、満足度については、前回調査に比べ上昇したものの、回答分布では「ふつう」が過半数を占め、続く「やや不満」が「やや満足」を上回る結果となりました。

課題

中心市街地の空き店舗対策や若者の集客性が高い施設の誘致などを望む声が多く寄せられており、中心市街地の活性化に向けた施策の強化が求められています。

また、若者が働きたいと思える企業の誘致を期待する声に加え、「住み続けたい、働きたいと思える環境作りが重要」との意見が寄せられており、働く場所の確保だけでなく、ワーク・ライフ・バランスの充実を図る施策が求められています。



課題解決への取組み

- ・ 空き店舗対策や創業支援などを含めた市街地活性化策の見直しと情報発信の強化
- ・ より生産性の高い情報サービス産業の創出や誘致
- ・ サテライト・オフィス体験やワーケーションなど、仕事と生活の両立を充実させる施策の推進

総合分析

満足度が主な低い要因は、集客力の高い商業施設の不足や空き店舗が目立つことなど、中心市街地の活気が求められる水準に達していない点にあることから、空き店舗対策の見直しや創業支援制度の周知強化などを図る必要があると考えます。

働く場所の確保については、より一層、積極的な企業誘致活動を続けていくとともに、働く場の多様性やワーク・ライフ・バランスの充実も踏まえて各施策も進めていくことが重要と考えます。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

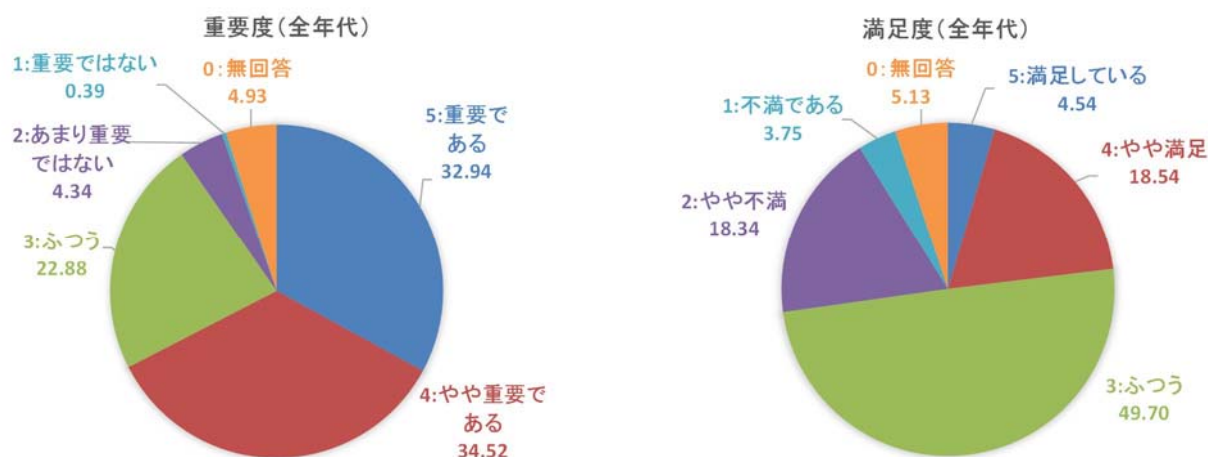
分析担当課	商工課
目 標 名	産業創造都市
施 策 名	3 - 3 雇用対策・新たな産業の育成

1. 施策の平均及び順位

3 - 3	重 要 度					満 足 度				
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減
雇用対策・ 新たな産業の育成	4.07	9	4.00	10	0.07	2.91	24	3.02	16	0.11
施策平均	3.88		3.82		0.06	3.09		3.09		0.01

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

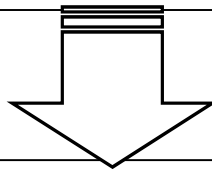
個 数	重 要 度 (年 代 別)						満 足 度 (年 代 別)					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	7	6	6	0	0	0	2	5	9	3	0	0
20 代	19	16	13	4	1	0	3	9	27	11	3	0
30 代	19	21	14	2	0	0	2	9	29	10	6	0
40 代	22	24	22	1	0	3	2	19	33	10	5	3
50 代	29	22	21	3	0	1	2	11	44	17	1	1
60 代	41	36	17	5	1	6	5	13	55	22	3	8
70 代以上	27	46	21	4	0	9	6	26	51	15	1	8
不詳 (無回答)	3	4	2	3	0	6	1	2	4	5	0	6

4 . 分析

重要度については、全ての年代で高く、また、施策全体でも上位に位置することから、市民の関心の高さが伺えます。一方、満足度については、前回調査から 0.11 ポイント上昇したものの、全年代を通じて「ふつう」の回答が多く、また施策全体の平均を下回っており、市民の皆様の期待に十分にこたえられていないことが伺えます。

課 題

「働く場所が少ない」、「就きたい仕事がない」といった指摘が多く、幅広い年代において、それぞれの希望職種やライフスタイルに合った仕事ができる環境づくりが求められています。また、新たな産業の育成を期待する意見もあることから、様々な業種の企業誘致や創業が求められています。



課題解決への取組み

- ・ 関係機関との連携し、各種支援制度の利用促進
- ・ 多様な働き方につながる企業誘致と新規産業の創出
- ・ 市広報誌やホームページ等を活用した情報発信の強化

総合分析

市では、資格取得支援や奨学金返還助成、インターンシップ支援などのほか、国や県等の関係機関と連携して就職相談や企業紹介などを実施してきたところですが、更なる周知の強化が必要と考えます。近年、企業にとって慢性的な人手不足の状況が続いているものの、希望職種や雇用形態などの不一致により、就労につながらない事例が多いことから、引き続き、ITや農業関連をはじめ様々な業種の誘致や創業支援に取り組み、雇用創出や多様な働き方の実現に取り組んでいく必要があります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

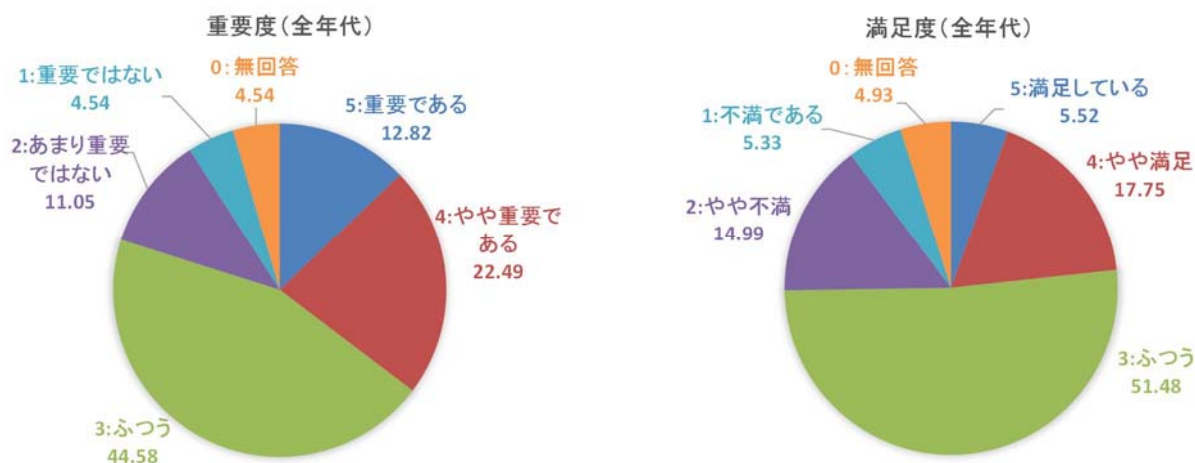
分析担当課	企画調整課
目 標 名	多文化交流都市
施 策 名	4 - 1 地域間交流

1. 施策の平均及び順位

4 - 1	重 要 度					満 足 度					
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減	
地域間交流	3.40	27	3.29	27	-	0.11	3.12	13	3.03	15	0.09
施策平均	3.88		3.82			0.06	3.09		3.09		0.01

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重 要 度 (年 代 別)						満 足 度 (年 代 別)					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	4	2	10	2	1	0	2	4	7	5	1	0
20 代	9	10	27	6	1	0	2	10	29	9	3	0
30 代	5	9	30	6	6	0	4	4	29	12	7	0
40 代	5	18	37	6	5	1	5	13	36	11	6	1
50 代	9	16	36	9	5	1	2	14	45	10	4	1
60 代	16	28	36	18	2	6	3	23	54	13	4	9
70 代以上	14	29	48	5	2	9	9	20	58	11	1	8
不詳 (無回答)	3	2	2	4	1	6	1	2	3	5	1	6

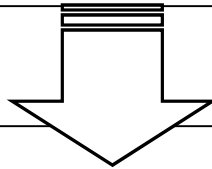
4. 分析

重要度・満足度ともに前回調査から下降し、施策平均も下回る結果となっています。いずれも「ふつう」が回答の多くを占めていますが、一方で、「重要である / やや重要である」と回答した方も一定割合いることから、今後も施策を継続し、地域間交流の活発化、「仲間づくり」を進めていく必要があると考えます。

また、重要度が高く、満足度が低いことから、満足度を高めるための事業展開の検討が求められます。

課題

- ・意見からは、八チ公や青ガエルによる渋谷区との交流など、認知はされているもののその効果が市民に波及していないと考えられます。
- ・魅力ある様々な資源をそのままにしておくのではなく、発展的に活用していくことが必要です。(秋田犬の里、青ガエルなどの活用方法の工夫)
- ・市民が生活のなかで、他地域との交流を身近に感じられるような仕掛けづくりが必要です。(情報発信、市民が参画しやすい交流イベントの開催等)



課題解決への取組み

- ・市民に「ワクワク」を届けられるよう、市民を巻き込んだ交流を展開します。
- ・他地域との交流事業助成制度について、広報やホームページにより情報発信するほか、交流による民間への効果の周知も図り、制度活用を促進します。
- ・魅力的な資源をさらに磨き上げ、他地域との交流人口を拡大していくとともに、市民が誇りを持てるまちづくりを進めます。

総合分析

現在市では、八チ公生誕 100 年記念と、これからの 100 年を紡いでいくため「HACHI100 プロジェクト」を展開し、渋谷区との交流をさらに深めているところです。また、民間団体が、縁のある区市町村や友好都市等との教育・文化・観光など多面的な交流を図る場合や、国際交流をする場合の費用の一部助成をしていますが、アンケート結果からも、市民の満足度につながっていないことは否めないと考えています。

これは、上述のとおり、取組み自体の認知度はあるものの、その効果を市民が日常生活において実感するに至っていないことが要因であることから、今後、地域間交流の取組みに市民も参画しやすい環境、仕掛けづくりに努めます。

また、他地域の歴史・文化等に触れることは、同時に、本市の歴史等の魅力の再発見につながる機会となり、結果地域への愛着にもつながると考えていることから、今後は、地域間交流を一部当事者間だけの取組みにとどまらず、市民を巻き込みながら進めていきます。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

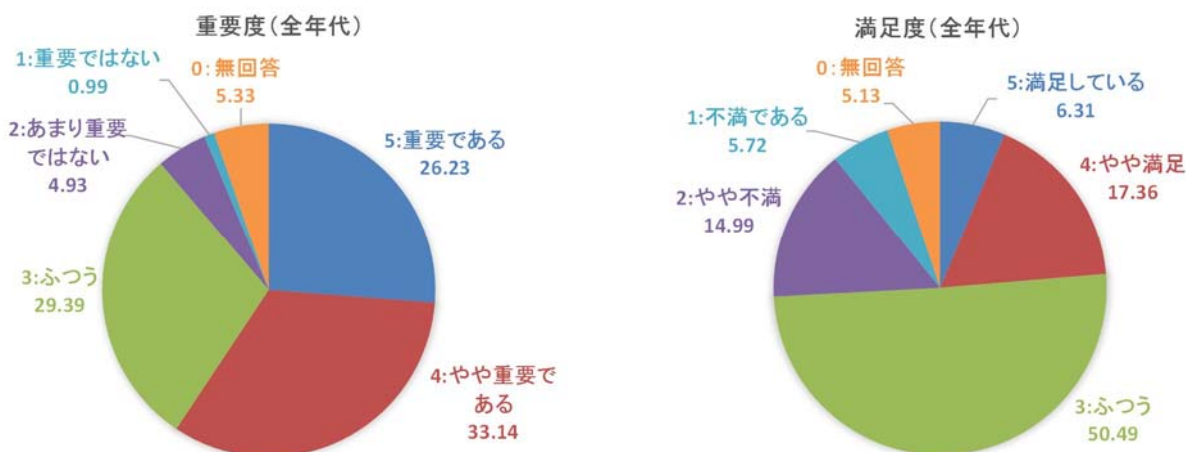
分析担当課	観光課
目 標 名	多文化交流都市
施 策 名	4 - 2 交流人口の拡大

1. 施策の平均及び順位

4 - 2	重 要 度					満 足 度				
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減
交流人口の拡大	3.71	19	3.83	17	0.12	3.03	16	3.04	13	0.01
施策平均	3.88		3.82		0.06	3.09		3.09		0.01

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

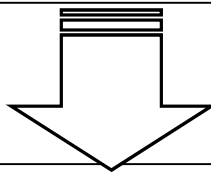
個 数	重 要 度 (年 代 別)						満 足 度 (年 代 別)					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10代	7	8	4	0	0	0	1	4	10	2	2	0
20代	14	17	17	3	1	1	2	5	34	8	3	1
30代	17	13	23	3	0	0	5	5	24	12	10	0
40代	17	21	28	2	1	3	4	9	39	13	3	4
50代	20	30	20	4	1	1	4	16	38	11	6	1
60代	28	37	26	7	1	7	7	16	57	16	4	6
70代以上	28	40	26	3	1	9	7	31	49	11	1	8
不詳(無回答)	2	2	5	3	0	6	2	2	5	3	0	6

4 . 分析

重要度は半数以上が「重要と認識している」となり、前回より微増となっていますが、満足度は3割に満たない結果となりました。各年代で重要度が高いものの、満足度の低さは施策の広報・周知不足も上記結果につながったものと考えられます。

課 題

交流人口拡大のため、地域連携DMO秋田犬ツーリズム、広域の自治体、忠犬八公の縁でつながる渋谷区等様々な連携に取り組みながら、市内外への大館の観光をPRしておりましたが、そうした取り組みの市民への広報・周知が不足していると思われます。



課題解決への取組み

- ・市広報やホームページ、SNS等、様々な媒体を活用した情報発信
- ・出前講座等の開催による周知
- ・関係団体と連携し、継続して広報活動・情報発信に取り組む

総合分析

秋田犬が国内外で注目されており、また、2023年は忠犬八公の生誕100年となることから更なるチャンスと捉え、観光誘客に結びつける取組みを積極的に実施していくにあたり、地域連携DMO秋田犬ツーリズム、広域の自治体、忠犬八公の縁でつながる渋谷区等と連携しながら交流人口の拡大に向けて国内外に情報発信していくと同時に、その取組みが市民の皆さまにも広く認知していただけるよう、市民の皆さまに向けた情報発信についても一層強化してまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

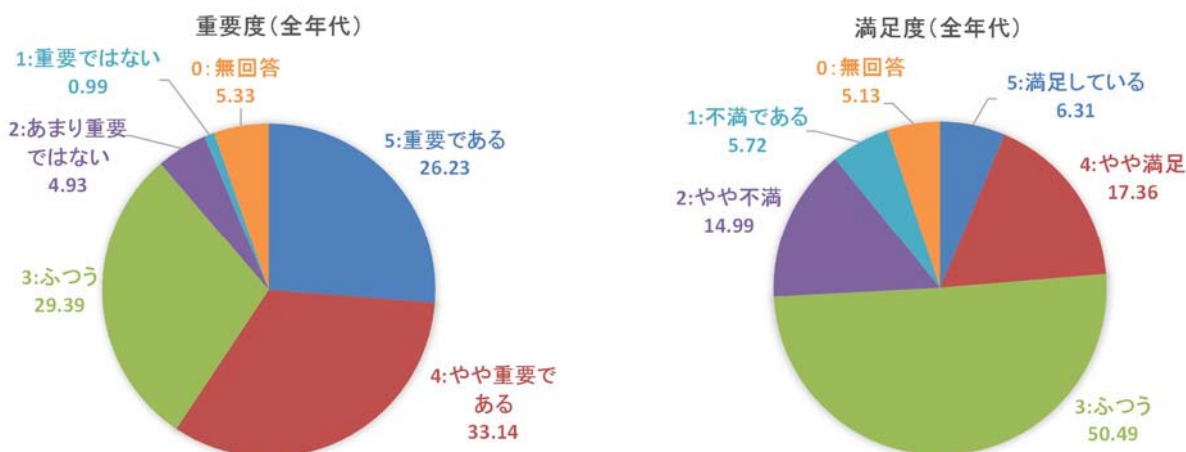
分析担当課	まちづくり課
目 標 名	多文化交流都市
施 策 名	4 - 2 交流人口の拡大

1. 施策の平均及び順位

4 - 2	重 要 度					満 足 度				
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減
交流人口の拡大	3.71	19	3.83	17	0.12	3.03	16	3.04	13	0.01
施策平均	3.88		3.82		0.06	3.09		3.09		0.01

小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度 (年代別)						満足度 (年代別)					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10代	7	8	4	0	0	0	1	4	10	2	2	0
20代	14	17	17	3	1	1	2	5	34	8	3	1
30代	17	13	23	3	0	0	5	5	24	12	10	0
40代	17	21	28	2	1	3	4	9	39	13	3	4
50代	20	30	20	4	1	1	4	16	38	11	6	1
60代	28	37	26	7	1	7	7	16	57	16	4	6
70代以上	28	40	26	3	1	9	7	31	49	11	1	8
不詳(無回答)	2	2	5	3	0	6	2	2	5	3	0	6

4 . 分析

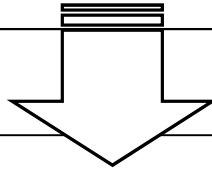
重要度は平均点を上回る結果でしたが、満足度は平均点を下回る結果となりました。回答分布をみると、施策の重要度は「重要である」と「やや重要である」が約 60%と過半数に達しているのに対し、満足度は「ふつう」が約 50%近くあり、すべての年代において多数を占める結果となっています。

この結果から施策としての歴史まちづくり事業の重要度は高く、今後も継続すべき施策と推察されますが、市民への施策の認知度が低いと考えられます。

課 題

「定住する住民がまちに魅力を感じない」、「小坂町や弘前市とは違う」などの意見をいただいております。

城下町大館を醸しだせる街なみ景観の保全に向け、大館城本丸跡の修景整備や歴史的建造物を巡る回遊性向上を図る道路美化化や城下町名標柱の設置などハードの取り組みのほか、地域文化遺産の保全にむけたソフトの取り組みを推進してきました。その取り組みが少しずつではありますが、目に見える形となってきていることから、取り組みの認知度を高める情報を広く発信し、生まれ育った大館に愛着や誇りを持っていただける取り組みを着実に推進していく必要があります。



課題解決への取り組み

- ・ 歴史的風致の維持向上と歴史まちづくり事業（ハード・ソフト）の確実な遂行
- ・ 市広報紙、ホームページ（SNS 含む）、報道機関を活用した情報発信
- ・ シンポジウムや出前講座などの開催による認知度の向上
- ・ ふるさとキャリア教育との連携を深め、先人から受け継いだ歴史・伝統・文化の理解を高めるための学習機会や児童生徒に対する教育の推進
- ・ 民間主導のまちづくり実行委員会と連携し、引き続き後継者育成や継承活動に積極的に取り組む。

総合分析

歴史的風致維持向上計画に基づき、平成 29 年度から取り組んできた歴史まちづくり事業の認知度が低いことから、情報発信の方法を見直すとともに、更なる情報発信が必要と分析されます。併せて、施策の重要度が平均点より高いことから、市民との意見交換の場を増やし、市民協働で取り組んでまいります。

今回の結果を踏まえ、歴史的風致維持向上計画の理念である“市民がふるさと「おおだて」に、「自信と誇り」を持って暮らしていただくこと”の実現に向け、歴史的建造物の保全や良好な街なみ景観の形成を図る施策を積み重ね、「住んでよし・訪れてよし」のまちづくりを推進し、交流人口の拡大を図ってまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

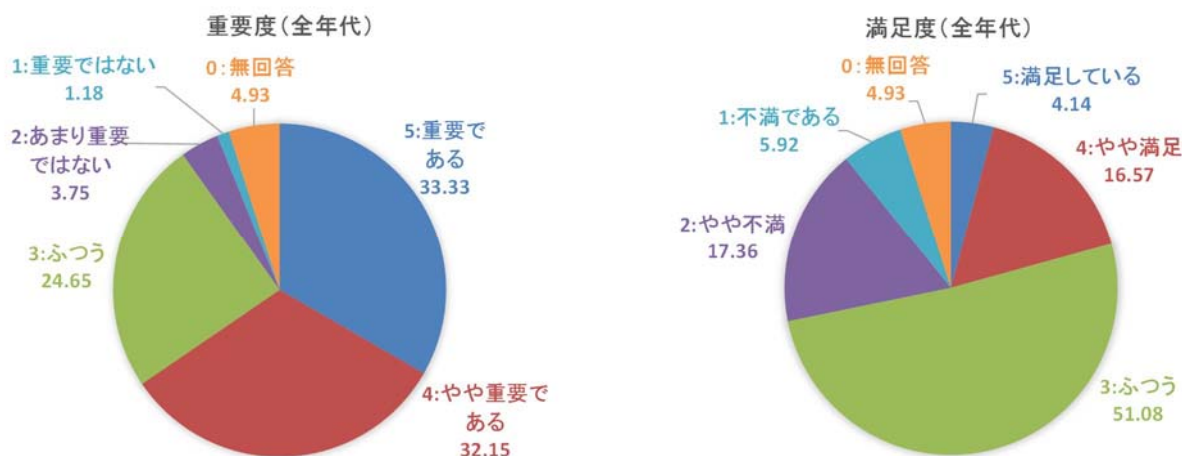
分析担当課	交流推進課
目 標 名	多文化交流都市
施 策 名	4 - 3 A ターン・定住促進

1. 施策の平均及び順位

4 - 3	重 要 度					満 足 度					
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減	
A ターン・ 定住促進	4.00	11	3.98	11	-	0.03	2.90	25	2.95	23	0.06
施策平均	3.88		3.82			0.06	3.09		3.09		0.01

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重 要 度 (年 代 別)						満 足 度 (年 代 別)					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	8	6	5	0	0	0	2	3	9	4	1	0
20 代	19	14	16	2	2	0	2	3	33	9	6	0
30 代	17	19	11	6	2	1	2	8	25	13	7	1
40 代	23	25	20	2	1	1	1	14	39	10	7	1
50 代	23	30	17	4	0	2	1	15	40	12	6	2
60 代	38	31	25	4	1	7	4	16	58	18	1	9
70 代以上	36	35	27	1	0	8	9	22	49	20	1	6
不詳 (無回答)	5	3	4	0	0	6	0	3	6	2	1	6

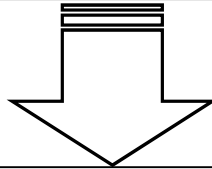
4 . 分析

重要度は施策平均を上回っており、「重要である」「やや重要である」が全体の65.48%を占め、全ての世代で「重要である」「やや重要である」が60%を超えていることから、本施策に対する重要性は一定程度共有できているとみられます。

しかし、満足度は「満足している」「やや満足」が20.71%にとどまり、「やや不満」「不満である」が23.28%、「ふつう」が51.08%と、取組不十分と認識されているものと考えられます。また、世代別に見ると、20代で「満足している」「やや満足」の割合が特に少なく、30代で「やや不満」「不満である」の割合が特に高いことから、若い世代に対するアプローチに課題が見られます。

課 題

回答分布において「満足している」「やや満足」と「やや不満」「不満である」とがほぼ同じ割合であり、「どちらとも言えない」が過半数を占めています。また、「協力隊が何をしているか分からない」「事業成果を知りたい」など、情報の不足を訴える意見が寄せられています。これらのことから、施策の情報発信が課題と考えられます。



課題解決への取組み

- ・市広報や新聞、市ホームページ、SNS等を活用した情報発信を行う。特にホームページやSNSなどデジタルによる情報発信に力を入れる。
- ・首都圏等における移住フェアへの参加や移住相談会の開催を継続し、Aターン者の確保に努める。
- ・関係課・団体と連携し、継続して広報活動・啓発活動に取り組む。
- ・移住プロデューサー（地域おこし協力隊）が持つ外の視点による、魅力の再発見及び情報発信

総合分析

首都圏などでの移住フェアへの参加や移住相談会の開催、移住者を対象にした支援策として定住奨励金の支給などに取り組んでいますが、市民の皆さまの目に見える形でお伝えできていない現状にあります。今回の結果をもとに皆さまに伝わる情報発信に努め、随時、新鮮な話題や情報の提供に邁進します。

また、関係団体・関係各課との連携を一層強化し、Aターン・定住の促進に取り組んでまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

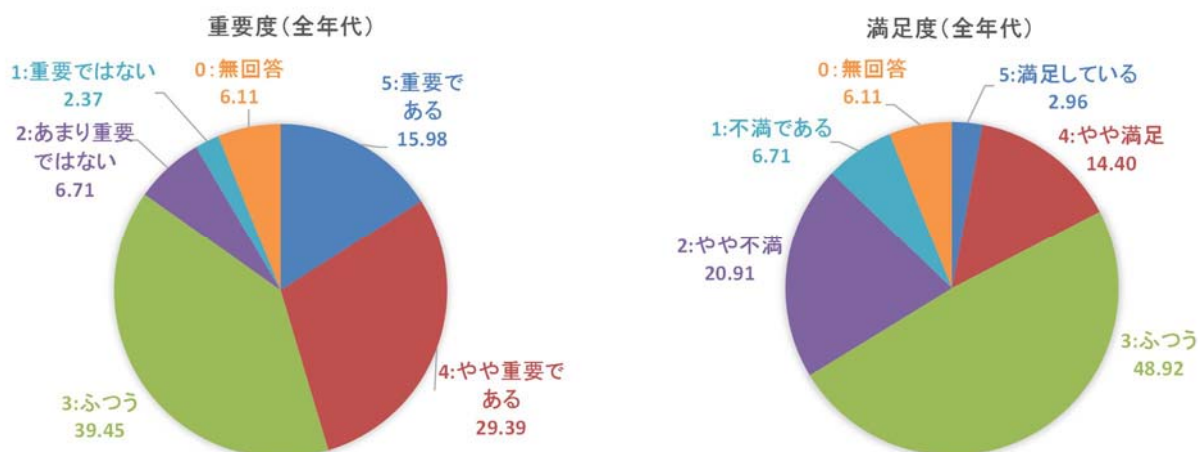
分析担当課	まちづくり課
目 標 名	環境共生都市
施 策 名	5 - 1 土地利用・整備

1. 施策の平均及び順位

5 - 1	重 要 度					満 足 度				
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減
土地利用・整備	3.60	22	3.53	21	0.06	2.77	27	2.85	26	0.08
施策平均	3.88		3.82		0.06	3.09		3.09		0.01

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度 (年代別)						満足度 (年代別)					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10代	6	5	6	2	0	0	3	4	6	4	2	0
20代	7	13	24	2	5	2	1	12	25	8	5	2
30代	11	19	21	4	1	0	1	8	29	10	8	0
40代	14	17	29	5	2	5	1	14	31	16	5	5
50代	12	24	34	5	0	1	0	10	44	17	5	0
60代	20	27	38	11	2	8	2	11	52	27	4	10
70代以上	10	39	44	3	2	9	7	13	54	20	5	8
不詳(無回答)	1	5	4	2	0	6	0	1	7	4	0	6

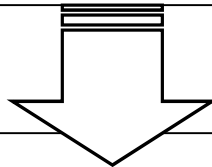
4. 分析

重要度・満足度ともに平均を下回る結果となりました。全年代において、重要度は「やや重要である」「重要である」が4割を超える結果となりましたが、満足度は「ふつう」「やや不満」が多数を占めています。

課 題

「市街地が静か」「大町は昔に比べて淋しい」「大町商店街が昔みたいに、賑やかになればよい」という意見をいただきました。大町周辺の再興は重要課題であると認識しており、これまでも、地元商店街や関係各課と協議しながら、旧正札竹村跡地を含めた再開発を検討しておりますが、より具体的な対策を見出し、大館市の顔として発展してきた大町街区の再興に取り組んでいく必要があると考えています。

また、大館駅から長木川までの県道沿線は、御成町南地区土地区画整理事業などにより「R大館駅前や街並みの環境整備が徐々に見える形になってきておりますが、この整備をどのように活性化に生かしていくかが今後の課題と捉えています。



課題解決への取組み

- ・土地区画整理事業をはじめとする各種環境整備事業の早期完了を目指す。
- ・地元商店街など関係者との連携しながら、イベント開催など活性化に取り組む。
- ・地域住民の意見を反映した形で市有地の有効活用を図っていく。

総合分析

大町街区については、旧正札竹村の全盛期を知る人にとっては、現在の状況は非常に「物足りない」と感じていると考えられます。大館駅前から大町に至る広域なエリアにおいて賑わいを取り戻すため、各種補助事業を活用した環境整備に取り組みながら、沿線の商店事業者や関係団体との連携を強化し、官民協働での街並みづくりを進めてまいります

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

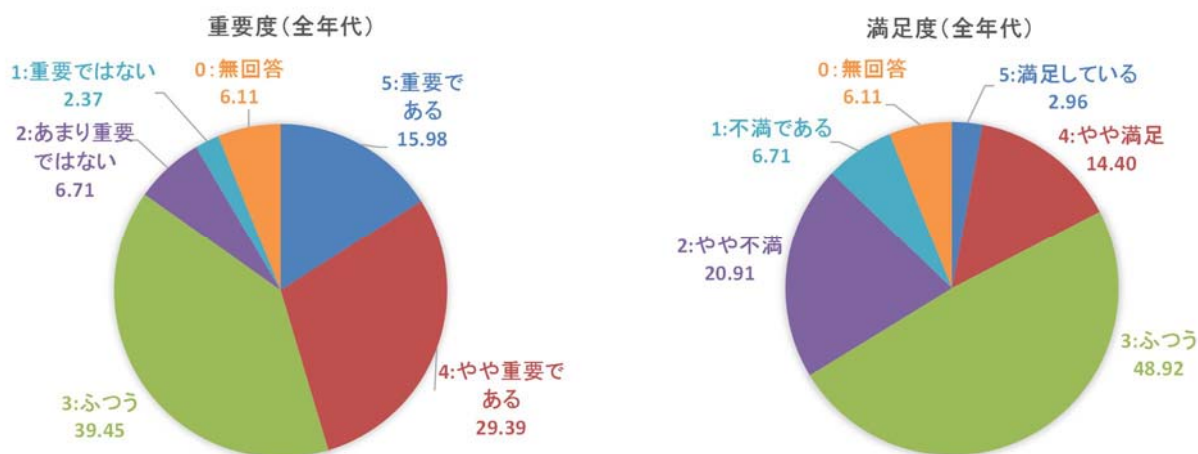
分析担当課	都市計画課
目標名	環境共生都市
施策名	5 - 1 土地利用・整備

1. 施策の平均及び順位

5 - 1	重要度					満足度				
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減
土地利用・整備	3.60	22	3.53	21	0.06	2.77	27	2.85	26	0.08
施策平均	3.88		3.82		0.06	3.09		3.09		0.01

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度 (年代別)						満足度 (年代別)					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10代	6	5	6	2	0	0	3	4	6	4	2	0
20代	7	13	24	2	5	2	1	12	25	8	5	2
30代	11	19	21	4	1	0	1	8	29	10	8	0
40代	14	17	29	5	2	5	1	14	31	16	5	5
50代	12	24	34	5	0	1	0	10	44	17	5	0
60代	20	27	38	11	2	8	2	11	52	27	4	10
70代以上	10	39	44	3	2	9	7	13	54	20	5	8
不詳 (無回答)	1	5	4	2	0	6	0	1	7	4	0	6

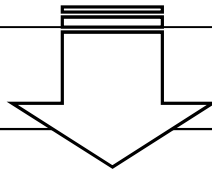
4 . 分析

重要度・満足度ともに平均を下回る結果となりました。重要度では「重要である」または「やや重要である」が約半数を占めておりますが、満足度では「満足している」または「やや満足」が2割未満となっており、十分な満足度を得られていない状況であると考えられます。

課 題

「将来どんな姿を想定しているのか?」「内容が良くわからない」「もっとPRしてほしい」という意見をいただきました。これは市民へ周知が不足している結果であると分析されます。

これまでも市広報やホームページ、出前講座などを活用した情報発信をしておりますが、さらに市民が理解しやすい周知方法や情報発信方法を検討していく必要性があります。



課題解決への取組み

- ・市広報やホームページ、SNS等を活用した情報発信の継続
- ・ワークショップや出前講座の開催
- ・関係団体と連携した、広報活動・啓発活動

総合分析

重要度、満足度ともに平均には満たないものの、「中心街を絞って重点的に活性化すべき」、「点在している公共施設を市内に集約すべき」などの具体的な意見もみられることから、重要な施策と捉えていただいていることが伺えますが、満足度が低いことから、市民の皆さまから満足が得られる取組が足りないと考えます。

その為には、市の将来の方向性を示し、市民に方向性を共有することが重要と考えております。

平成30年度に策定した都市再興基本計画においても、「もっとまちなかを活用する」を基本方針の一つとしており、市広報紙やホームページへの掲載、出前講座の開催など情報発信・情報収集を実施しておりますが、周知が不足していることから一層の強化が必要です。

今回の結果を念頭に、都市再興基本計画の基本理念である、「未来を担う若者が主人公となるまちなか活用・そこからつながる多世代が快適なくらしづくり」の実現に向けた施策を展開していくとともに、市民・関係団体・関係各課との連携を一層強化してまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

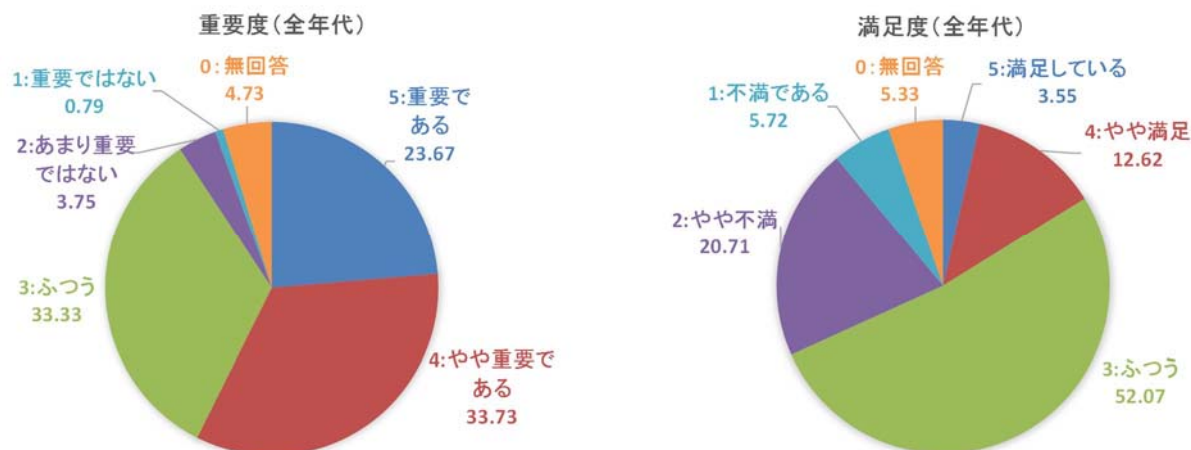
分析担当課	都市計画課
目 標 名	環境共生都市
施 策 名	5 - 2 住環境・生活空間

1. 施策の平均及び順位

5 - 2	重 要 度					満 足 度				
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減
住環境・生活空間	3.90	14	3.80	18	0.10	2.91	23	2.87	25	0.04
施策平均	3.88		3.82		0.06	3.09		3.09		0.01

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

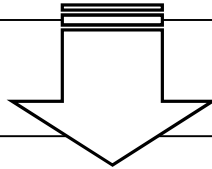
個 数	重 要 度 (年 代 別)						満 足 度 (年 代 別)					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	9	4	6	0	0	0	3	4	8	4	0	0
20 代	15	16	17	3	0	2	1	10	27	10	3	2
30 代	18	24	13	1	0	0	0	9	24	11	11	1
40 代	16	21	28	2	1	4	1	8	37	17	5	4
50 代	14	24	35	1	1	1	1	7	45	19	4	0
60 代	25	38	31	6	1	5	5	7	62	19	3	10
70 代以上	21	39	37	4	0	6	7	16	56	23	1	4
不詳 (無回答)	2	5	2	2	1	6	0	3	5	2	2	6

4 . 分析

重要度・満足度ともに平均を下回る順位となりましたが、重要度は「重要である」「やや重要である」がどの年代でも半数以上を占めています。満足度では「ふつう」が過半数となっており、施策の周知・認知不足が原因であると考えられます。

課 題

- ・市営住宅に関し、「市営住宅は少ない。」「市営住宅の設備は民間と同等にして欲しい。」「さらには「市営住宅はいらない。」など様々な意見があることから、制度の意義や仕組みを理解していただく必要があります。
- ・老朽化した市営住宅に関し「古い市営住宅、見苦しい、早目の更新を。」「御成町二丁目のアパート、ボロい。」という意見をいただきました。住宅の更新計画を市民に分かりやすく説明する必要があります。
- ・公園に関しては、計画的に整備・維持管理を進めているにもかかわらず「利用不可のまま遊具が残されている。」「公園の整備はしっかりやってほしい。」「公園の草刈りがされていなくて不便」という意見をいただいていることから、取組み自体が住民に周知されていないものと思われる。



課題解決への取組み

- ・公営住宅等長寿命化計画に基づく、市営住宅の計画的な更新
- ・公園等の遊具更新及び維持管理の取組み強化
- ・広報等による市営住宅制度や、公園の遊具更新等のPR

総合分析

市営住宅については、令和4年3月に策定した長寿命化計画に基づき、今後、建替えを進めるとともに、適切に維持管理してまいります。市民向けには、公営住宅制度の周知をしていく必要があると強く感じています。

また、公園については、住み良い環境を供給するために、公園の遊具等更新や適切な維持管理に取り組んできましたが、満足度で平均を下回った結果から、市民の皆さまから満足が得られるよう一層の強化が必要と分析されます。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

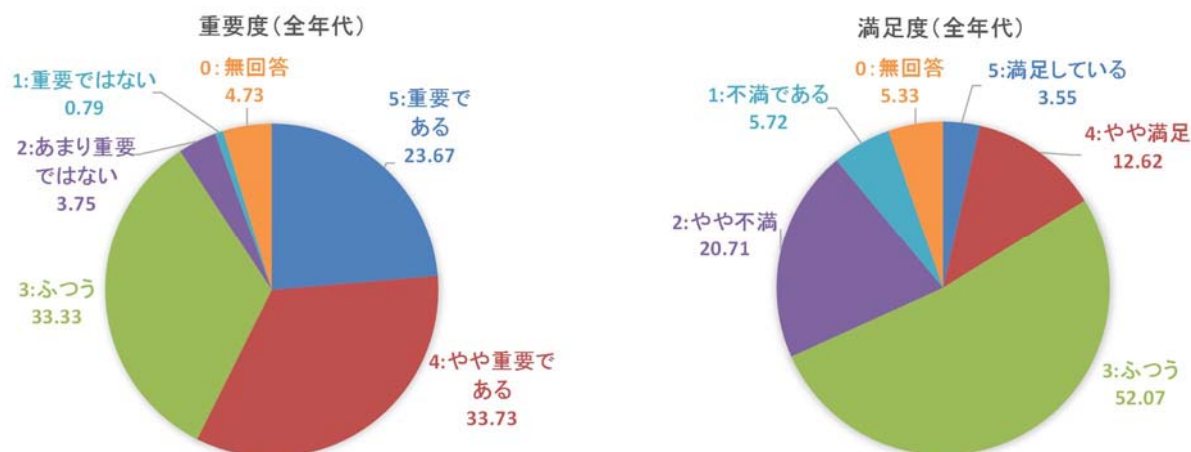
分析担当課	危機管理課
目 標 名	環境共生都市
施 策 名	5 - 2 住環境・生活空間

1. 施策の平均及び順位

5 - 2	重 要 度					満 足 度				
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減
住環境・生活空間	3.90	14	3.80	18	0.10	2.91	23	2.87	25	0.04
施策平均	3.88		3.82		0.06	3.09		3.09		0.01

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

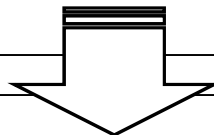
個 数	重 要 度 (年 代 別)						満 足 度 (年 代 別)					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	9	4	6	0	0	0	3	4	8	4	0	0
20 代	15	16	17	3	0	2	1	10	27	10	3	2
30 代	18	24	13	1	0	0	0	9	24	11	11	1
40 代	16	21	28	2	1	4	1	8	37	17	5	4
50 代	14	24	35	1	1	1	1	7	45	19	4	0
60 代	25	38	31	6	1	5	5	7	62	19	3	10
70 代以上	21	39	37	4	0	6	7	16	56	23	1	4
不詳 (無回答)	2	5	2	2	1	6	0	3	5	2	2	6

4 . 分析

重要度並びに満足度ともに前回からやや順位を下げております。回答分布をみると、どの世代でも重要度では、「重要である」「やや重要である」が半数以上を占め、住環境、空き家問題への関心の高さが伺えます。満足度では、「ふつう」が半数を超え、市の施策が市民のニーズになかなか追い付いていないことが読み取れる一方で、「少しずつではあるが、空き家の問題解消に努力が見られる」などといった意見もあることから、対策に一定の評価もいただいているものと考えます。

課 題

「空き家の積極的な関与を希望する」「危険空家補助金の審査条件を緩和すべき」「空き家対策の重要性を感じた」などの意見をいただきましたが、空き家の問題は、所有者がその責任で建物の適切な管理に積極的に努めなければなりません。しかしながら、所有者が市外・県外在住の場合や施設入所する場合、定期的な建物管理が難しくなります。当初は丈夫でも放置状態が続き、劣化や損傷が進むと周辺に支障を及ぼす危険な空き家となります。危機管理課では空き家対策の総合窓口として、住民から危険空家の苦情を受けた際、適正管理の指導を所有者に行うほか、危険度が高い空き家については所有者に対し解体工事費の一部を補助金交付することで解体を促進しています。以上の取り組みは市広報やホームページでお知らせしていますが、「よくわからない。もっとアピールしてほしい」という意見や、満足度における「ふつう」が半数を超えるという点において、いまだ施策の周知がしっかり図られていないと考えます。「危険空家等解体撤去費補助金制度」のさらなる周知、また、危険な空き家を生み出さないよう、空家解体補助金制度の拡充、専門家団体との連携を強化して対策を講じる必要があります。



課題解決への取組み

空き家等現況調査を令和5年度に行い、最新の空き家状況を把握・分析し、時局に合わせた対策に取り組むこととしています。また、危険な空き家等の解体をさらに推進するため、一定程度の危険性がある老朽化した空き家については、専用住宅に限らず、商店などの事業用として一部使用していた併用住宅に対しても柔軟に補助できるよう制度の拡充を検討しています。そのほか、危険空家とならないよう、空き家所有者または相続人に向けた利活用やリスクを学んでもらうセミナー及び個人相談会の開催も検討しております。

総合分析

良好で安全な住環境は誰もが求めるところですが、人口減少を伴う少子高齢化の進行等により空き家及び危険空家の加速的な増加が見込まれます。

市としましても安全な住環境の保全を図るため、広報やホームページを通じて、空き家バンク制度や住宅リフォーム支援事業を通じた空き家の有効活用、危険空家解体に係る補助金制度、また、空き家の維持管理の重要性の周知・浸透を図りながら、大館市空家等対策計画に掲げる総合的な空き家対策をより一層推進してまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

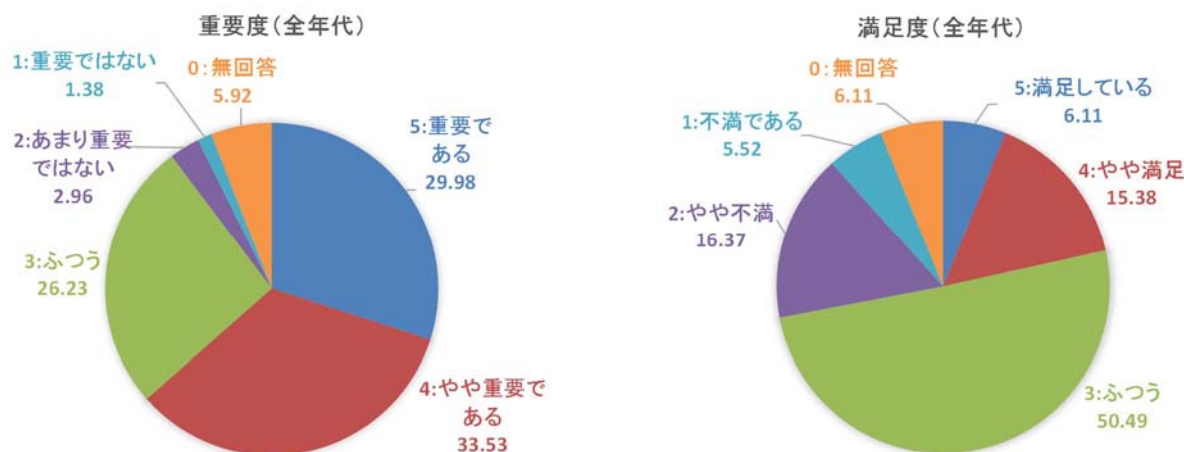
分析担当課	土木課
目 標 名	環境共生都市
施 策 名	5 - 3 道路・交通網・情報基盤

1. 施策の平均及び順位

5 - 3	重 要 度					満 足 度					
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減	
道路・交通網・ 情報基盤	3.90	13	3.93	13	-	0.03	2.94	21	3.00	18	0.07
施策平均	3.88		3.82			0.06	3.09		3.09		0.01

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重 要 度 (年 代 別)						満 足 度 (年 代 別)					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	7	9	2	1	0	0	3	3	8	4	1	0
20 代	19	20	11	0	1	2	3	10	23	10	5	2
30 代	19	18	15	1	2	1	4	7	28	9	7	1
40 代	19	24	20	4	0	5	3	14	37	10	3	5
50 代	28	16	28	2	0	2	3	12	42	13	5	1
60 代	24	47	22	4	3	6	4	11	54	23	4	10
70 代以上	30	33	33	2	1	8	10	17	61	11	2	6
不詳 (無回答)	6	3	2	1	0	6	1	4	3	3	1	6

4 . 分析

「道路・交通網・情報基盤」について、重要度の順位が 13 位と市民のニーズは高く、年代が上がるほど高い傾向となっています。

これについての満足度は、「満足」「やや満足」と「不満」「やや不満」が約 2 割と同程度で、「ふつう」が約 5 割と、前回より不満が減少しており、施策の効果が少し現れてきています。

課 題

ご意見については、舗装補修など道路の維持補修に関して数多く寄せられており、続いて、アンケート実施時期に関係なく除雪に関するものとなっており、いずれも改善要望がほとんどを占めています。

特に道路については、劣化に伴う路面状況の悪化や老朽化した側溝の改善要望、生活道路や歩道の整備促進などが求められています。

また、除雪については、除雪車運行管理システムや降雪センサーを導入して、除雪体制の見直しを行っているが、高齢化の進展に伴う間口除雪や除雪方法等のさらなる改善が求められています。

ほかには、通勤時の渋滞対策に関する意見も、新たに寄せられています。

課題解決への取組み

- ・ きめ細やかな除雪体制の確立と強化
- ・ 路面欠損への早急な対応
- ・ 生活道路の計画的な補修・整備の実施
- ・ 学校周辺の通学路の未整備解消への取組み

総合分析

除雪車運行管理システムを活用した公開サイトを通じ、市民への除雪情報の提供を進めると共に苦情や要望箇所を登録して除雪業者へ対応の指示出しを行っています。

また、除雪業者へのヒアリングによる路線の見直し、降雪センサーによる降雪状況の把握やそれに基づく出動指示など、除雪体制の見直しを行い、より一層の体制強化が必要と分析されます。

道路は市民生活に密着するライフラインであり、路面や側溝の補修については、重点施策として取り組みを図っているため、今後も市民ニーズに応えるよう継続した実施が必要であると考えます。

引き続き、道路パトロールの強化やインフラメンテナンスに係る包括的民間委託導入による業務の見直しを図りながら、的確な路面状況の把握と補修の早期対応や計画に基づいた生活道路の効率的な整備の実施に努めるほか、冬期の市民生活を支える除雪については、降雪状況や高齢化社会の進展等に伴った、更なるきめ細かな除雪体制への強化に努めてまいります。

新たに寄せられている通勤時の渋滞解消に向け、国土交通省が進めている「渋滞対策推進協議会」での TDM（交通需要マネジメント）施策を反映させ、国・県と連携しながら対策に努めてまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

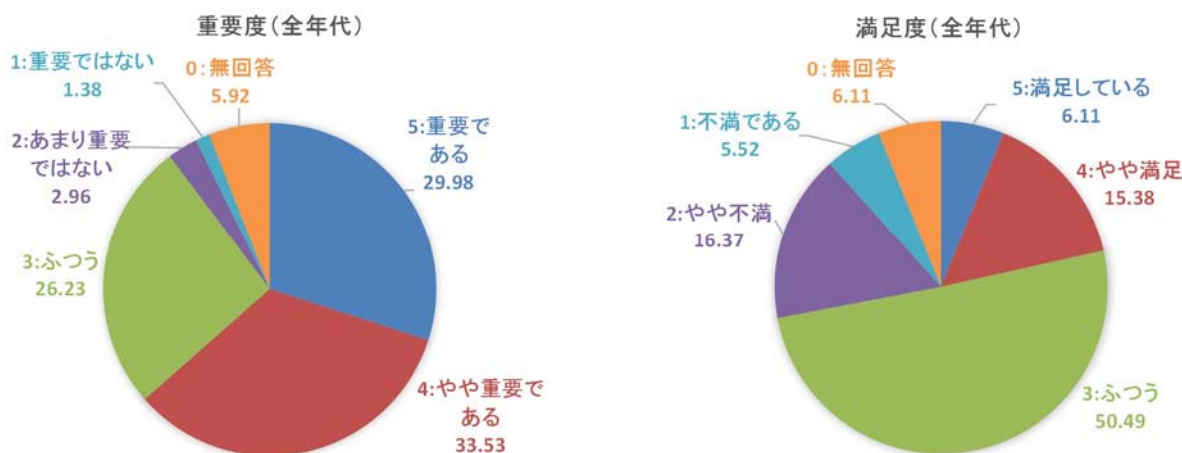
分析担当課	都市計画課
目 標 名	環境共生都市
施 策 名	5 - 3 道路・交通網・情報基盤

1．施策の平均及び順位

5 - 3	重 要 度					満 足 度					
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減	
道路・交通網・ 情報基盤	3.90	13	3.93	13	-	0.03	2.94	21	3.00	18	0.07
施策平均	3.88		3.82			0.06	3.09		3.09		0.01

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2．回答分布（％）



3．年代別の回答傾向

個 数	重 要 度（年代別）						満 足 度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10代	7	9	2	1	0	0	3	3	8	4	1	0
20代	19	20	11	0	1	2	3	10	23	10	5	2
30代	19	18	15	1	2	1	4	7	28	9	7	1
40代	19	24	20	4	0	5	3	14	37	10	3	5
50代	28	16	28	2	0	2	3	12	42	13	5	1
60代	24	47	22	4	3	6	4	11	54	23	4	10
70代以上	30	33	33	2	1	8	10	17	61	11	2	6
不詳（無回答）	6	3	2	1	0	6	1	4	3	3	1	6

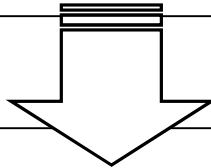
4. 分析

重要度に関しては、平均を上回る結果となりました。また、満足度に関しては、前回調査より数値は上がっておりますが、平均を下回る結果となりました。回答分布をみると重要度に関しては「重要である」、「やや重要である」が6割を超える結果となったが、満足度に関しては「ふつう」が半数を占める結果となりました。世代別に見ると重要度ではほぼ全ての世代で「重要である」、「やや重要である」が多数を占めているが、満足度ではほぼ全ての世代で「ふつう」が多数を占めています。このことから、施策の周知・認知不足と考えられます。

課題

生活に直接関わる施策のため、重要度では「重要である」、「やや重要である」という回答が過半数を占める結果になりましたが、満足度では「ふつう」が多数を占めていることから、取組自体が住民に周知されていないものと思われます。

また、「バスの本数を増やして」、「車を持たない高齢者にとってバスの運行は大きな関心事、通勤、買い物、安心して暮らすために公共交通網を整備してほしい」等、という意見をいただいていることから、既存の公共交通の利用環境を向上させるほか、公共交通不便地域における移動手段の確保について取り組んでいく必要があります。



課題解決への取組み

- ・市広報紙やホームページ、チラシを活用した情報発信の継続
- ・関係団体と連携した広報活動
- ・多様な運行形態による移動手段の検討
- ・市内各地域での座談会の開催

総合分析

重要度が高い反面、満足度が低いことから、高齢者や障害者を対象にした「大館市得とく定期券」や、持続可能な公共交通の姿を実現するための目標及び施策体系を示す「大館市地域公共交通網形成計画」について更なる周知を行うほか、利用者の意見を公共交通に反映させるため、市内各地域での座談会等を通じて情報発信と地域のニーズの把握が必要と分析されます。

今回の結果を踏まえ、利用しやすい公共交通サービスの実現や、公共交通不便地域の解消、多様な運行形態による移動手段の確保の施策を展開するとともに、市民・関係団体・関係各課との連携を一層強化してまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

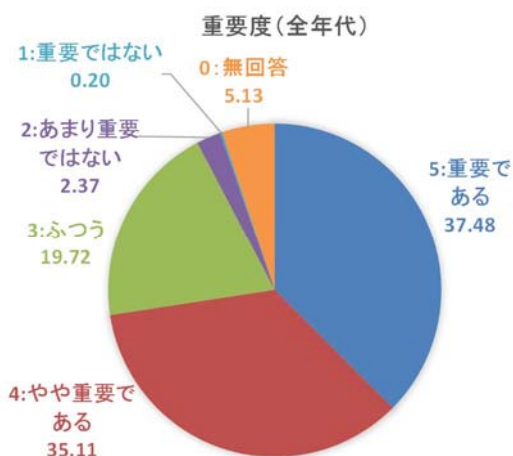
分析担当課	水道課
目 標 名	環境共生都市
施 策 名	5 - 4 上下水道

1. 施策の平均及び順位

5 - 4	重 要 度					満 足 度					
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減	
上下水道	4.10	6	4.13	5	0.03	3.42	1	3.41	1	-	0.01
施策平均	3.88		3.82		0.06	3.09		3.09			0.01

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度 (年代別)						満足度 (年代別)					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10代	12	6	1	0	0	0	6	8	4	1	0	0
20代	18	16	15	2	0	2	7	13	24	6	1	2
30代	24	20	10	1	0	1	7	15	25	3	6	0
40代	29	27	10	2	1	3	12	20	26	7	4	3
50代	26	26	22	1	0	1	9	19	37	8	3	0
60代	41	41	16	3	0	5	9	31	51	4	2	9
70代以上	35	40	22	2	0	8	11	34	49	7	0	6
不詳(無回答)	5	2	4	1	0	6	0	4	6	2	0	6

4. 分析

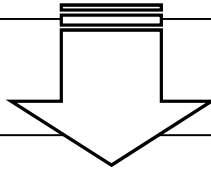
重要度・満足度ともに施策平均を上回り、特に満足度においては全体でも1位となりました。重要度では「重要・やや重要」の評価が7割を超えておりますが、満足度では「満足・やや満足」と「ふつう」の評価がどちらも4割程度となっており、20代以降では「ふつう」の方が上回る結果となりました。

課題

「水がおいしい」「水は大切」「今後も続くように願う」との意見がある一方、「水道水が薬臭い」との意見もあり、今後も安全でおいしい水を安定して供給し続ける必要があります。

また、大雨の影響により、災害時の対応についての意見が多くあり、大規模災害等にも耐えるような水道施設の耐震・強靱化や断水時の迅速な対応も求められています。

「水道料金が低い」との意見もありますが、水道施設や管路等の更新を実施する上で今後は人口減少に伴う収入減が想定されており、健全経営とともに施設の計画的な強化と更新が課題となっています。



課題解決への取組み

- ・老朽化した水道施設や管路等の更新計画の策定及び実行
- ・市広報紙やホームページを活用した情報発信
- ・BCP(事業継続計画)の策定
- ・広域連携や官民連携の推進

総合分析

安全でおいしい水の安定供給は、豊かで潤いのある快適な生活の実現や公衆衛生の確保、社会経済活動の維持・発展に不可欠であり、今回の調査結果で重要度・満足度ともに高く評価されていることから、上下水道の大切さが市民の皆様にも十分認識されていることがわかります。

また、添えられた意見からは、災害に強い水道施設の整備や水のおいしさなど、安全・安心への皆様の要望が高まっていることも伺えます。

今回の結果を踏まえ、大館市新水道ビジョンの基本理念である「豊かさを未来を紡ぐ大館の水」の実現に向けた施策を展開していくとともに、関係団体・関係各課と連携を一層強化し、安全でおいしい水の安定供給に努めてまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

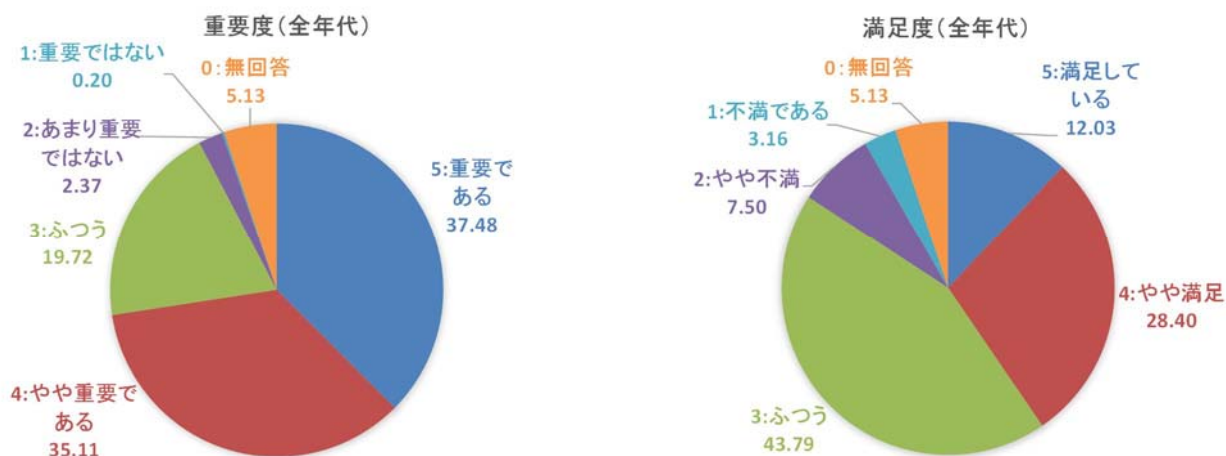
分析担当課	下水道課
目 標 名	環境共生都市
施 策 名	5 - 4 上下水道

1. 施策の平均及び順位

5 - 4	重 要 度					満 足 度					
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減	
上下水道	4.10	6	4.13	5	0.03	3.42	1	3.41	1	-	0.01
施策平均	3.88		3.82		0.06	3.09		3.09			0.01

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

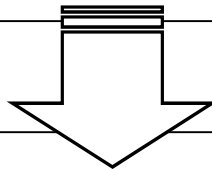
個 数	重 要 度 (年 代 別)						満 足 度 (年 代 別)					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10代	12	6	1	0	0	0	6	8	4	1	0	0
20代	18	16	15	2	0	2	7	13	24	6	1	2
30代	24	20	10	1	0	1	7	15	25	3	6	0
40代	29	27	10	2	1	3	12	20	26	7	4	3
50代	26	26	22	1	0	1	9	19	37	8	3	0
60代	41	41	16	3	0	5	9	31	51	4	2	9
70代以上	35	40	22	2	0	8	11	34	49	7	0	6
不詳(無回答)	5	2	4	1	0	6	0	4	6	2	0	6

4. 分析

第 16 回に引続き、重要度・満足度ともに「環境共生都市」の中で 1 位となり、満足度は全体でも 1 位ではあるが、前回より 0.01 ポイント減となりました。重要度の中では、「重要である」「やや重要である」が 7 割近くあり、重要施策であると認識されているが、満足度では「満足である」「やや満足である」が「ふつう」と同程度の 4 割となっております。

課題

- ・大館市の下水道の普及率は、令和 4 年度当初で 61.5 パーセントであり、全国平均や県平均に比べても遅れており、「いつになったら整備されるのか」「下水道がない地域もあるため、しっかり整備してほしい」など、早期に下水道の整備を望む意見を多数いただいております。
- ・令和 3 年度より生活排水処理整備構想の見直しを進めており、高齢世帯や独居世帯を中心に下水道整備を望まない世帯や下水道整備の変更により迷惑しているとの意見をいただいております。
- ・本市における公共下水道の普及率は、令和 8 年度までに 91 パーセントとすることにしております。



課題解決への取組み

下水道供用開始区域では、未接続者の下水道接続を図り、整備予定区域以外においては、合併処理浄化槽による水洗化の向上に取り組む。

総合分析

生活排水処理整備は、公共下水道をはじめ、農業集落排水・合併処理浄化槽による水洗化の向上は、公共用水域の水質保全や住環境向上及び衛生対策を目的としております。

下水道は重要であるという認識はしていただいているものの、満足度に関しては、全体の 4 割にとどまっており、公共下水道区域内の未接続者への接続及び下水道未整備地区の方々へ合併処理浄化槽の設置の促進を進め生活環境の整備が必要となってきます。

これから下水道整備を進めるにあたり、少子高齢化により激変する社会情勢や住民からの意見などを考慮し令和 8 年度概成とする大館市生活排水処理整備構想の見直しを行っております。

今後も安全安心に暮らせる生活環境を支えるため、水洗化への啓発活動を進め、公共下水道への接続及び合併処理浄化槽の設置促進に努めてまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

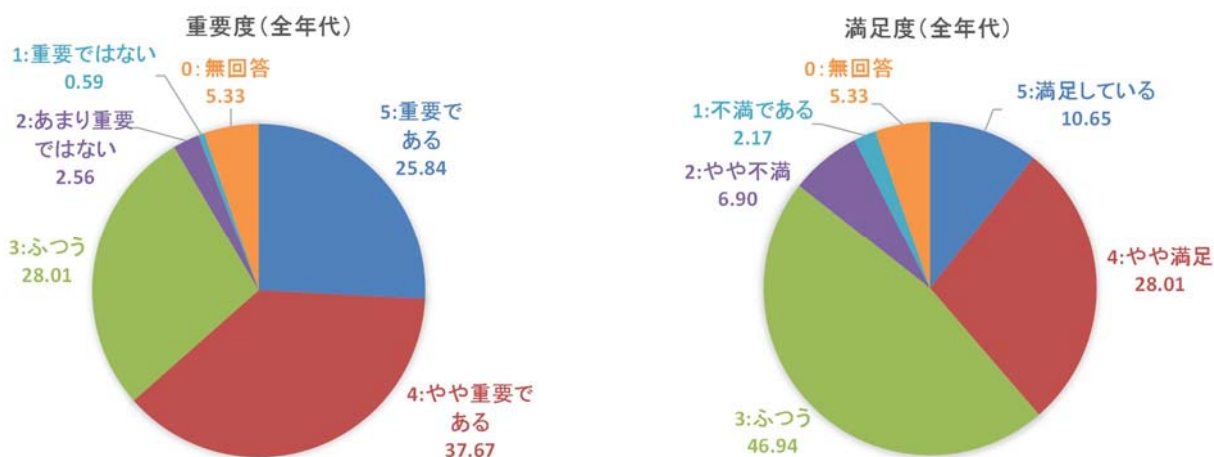
分析担当課	環境課
目 標 名	環境共生都市
施 策 名	5 - 5 環境保全・循環型社会

1. 施策の平均及び順位

5 - 5	重 要 度					満 足 度					
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減	
環境保全・循環型社会	3.87	17	3.90	14	0.04	3.40	2	3.40	2	-	0.00
施策平均	3.88		3.82		0.06	3.09		3.09			0.01

小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

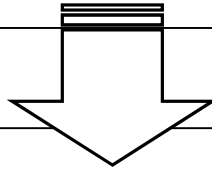
個 数	重要度 (年代別)						満足度 (年代別)					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10代	8	4	6	1	0	0	6	4	9	0	0	0
20代	13	20	14	3	1	2	4	14	27	3	3	2
30代	15	23	15	2	1	0	9	15	21	7	4	0
40代	18	28	19	1	1	5	9	21	28	6	3	5
50代	19	23	31	2	0	1	8	21	39	8	0	0
60代	28	44	26	1	0	7	6	32	53	6	0	9
70代以上	25	46	27	3	0	6	11	30	56	4	1	5
不詳(無回答)	5	3	4	0	0	6	1	5	5	1	0	6

4. 分析

重要度は平均を上回り、また「重要である」「やや重要である」を合わせると6割を超えており市民の皆様が環境保全・循環型社会を重要視していることが伺われます。満足度に関しては、全体の2位となり、「満足である」「やや満足」を合せると約4割となっております。

課題

- ・不法投棄や空き缶等のポイ捨てが依然として見受けられます。
- ・「環境やゴミの処理、リサイクルへの取り組みはいい」という意見がある一方、「ごみ分別が細かすぎて解り難い」、「ステーションにごみ（未分別）が残されている」などの意見をいただいております。より分かり易い分別ルールの浸透を図ること、廃棄物の減量化と資源化につなげることが課題となっております。
- ・温室効果ガス排出削減として、公共施設への木質バイオマス燃料などの再生可能エネルギーの利用促進に取り組む必要があります。
- ・市民や事業主の方にゼロカーボン達成に向けた取り組みを周知していく必要があります。



課題解決への取組み

- ・不法投棄については、不法投棄監視員を委嘱し投棄個所の把握に努めております。また、関係機関と連携し監視カメラの設置等防止対策や市内の環境美化を目的に、春と秋に清掃デーを実施しております。
- ・広報、ホームページを活用した情報発信の継続
- ・エコプラザや出前講座などを活用した3Rの普及啓発
- ・ごみ分別、ごみの適正処理とリサイクルの推進
- ・再生可能エネルギーの導入・推進と地球温暖化対策

総合分析

環境保全・循環型社会を次世代へ継承し、豊かで安心して暮らせるまちづくりを推進していく必要があります。

現在、ゼロカーボンと地域経済活性化の両立を目指すための大館市地球温暖化対策実行計画を策定中であり、一部の関係者だけが行うのではなく市民・事業者・行政が協働で行うことで、市全体の計画と対策につながるよう取り組んでまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

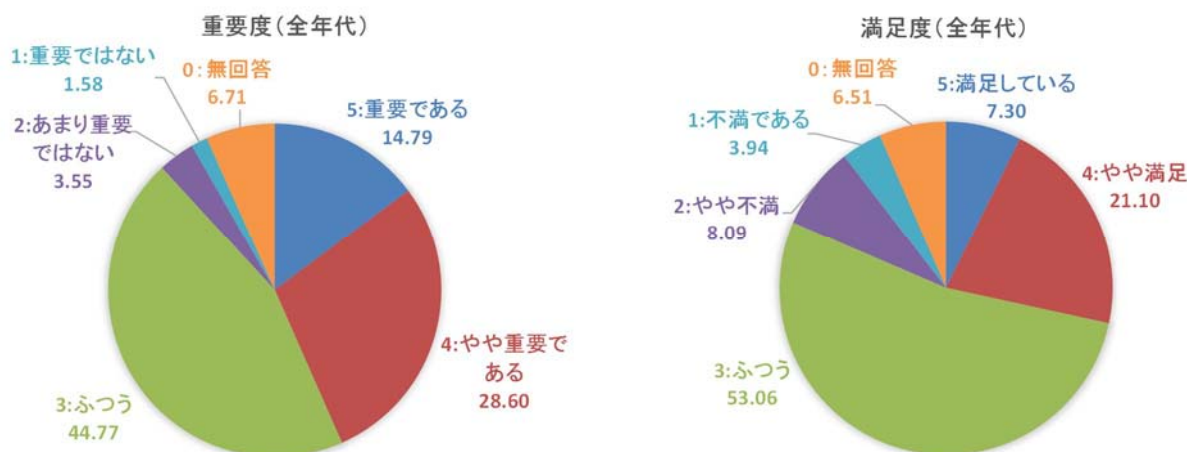
分析担当課	企画調整課
目標名	行財政運営
施策名	6 - 1 行財政運営

1. 施策の平均及び順位

6 - 1	重要度					満足度				
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減
行財政運営	3.72	18	3.55	20	0.17	3.25	5	3.21	6	0.04
施策平均	3.88		3.82		0.06	3.09		3.09		0.01

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

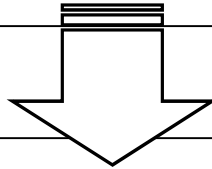
個 数	重要度 (年代別)						満足度 (年代別)					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10代	7	3	8	1	0	0	2	4	11	2	0	0
20代	9	13	27	1	1	2	5	11	31	3	1	2
30代	13	10	29	3	0	1	4	7	29	8	7	1
40代	7	27	27	3	3	5	4	16	38	4	5	5
50代	9	22	40	3	1	1	4	21	38	8	5	0
60代	14	29	48	5	1	9	5	23	56	11	2	9
70代以上	14	38	42	2	2	9	12	22	60	4	0	9
不詳(無回答)	2	3	6	0	0	7	1	3	6	1	0	7

4. 分析

満足度は平均を上回る結果となったものの、重要度は平均を下回り、「重要・やや重要である」と回答した人は前回調査より、約10%減少となりました。回答分布は重要度・満足度ともに「ふつう」が最も多く、特に満足度では過半数を超える結果となりました。

課題

- ・ 広報おおだてについて、紙面リニューアルによって「読みやすくなった」という意見がある一方、「どこが変わったのか分からない」、「前の方がよかった」という意見もあることから、情報発信に当たっての見せ方の工夫が必要。
- ・ ふるさと納税の取り組みに対して一定の評価がある一方で、使途がわからない。との意見もあることから、上記同様に工夫が必要。
- ・ 「国や県の補助金に頼らない運営」をと望む声があることから、ふるさと納税の推進による歳入確保やコスト削減を図る。



課題解決への取組み

- ・ 今回寄せられた意見をもとに、より見やすく読みやすい紙面づくりに取り組む。
- ・ 広報は紙媒体だけではなく、ホームページやスマートフォンで配信を行っていることについて周知を図っていく。
- ・ ふるさと納税寄付額目標である10億円（R5目標）の達成や企業版ふるさと納税の増加のため、返礼品の開発やPR強化を図っていく。
- ・ 質の高い行政サービスの提供、健全な財政運営を目指した行財政改革の一層の推進

総合分析

「行財政運営」においては、人口減少や少子高齢化が進んでも、将来にわたって健全な財政運営が求められています。このためには、市の取り組みなどを市民の皆様に解りやすく伝えることが重要となります。今後も引き続き、市民の皆様に分かりやすい広報紙づくりを進め、効果的な情報発信に努めます。

また、質の高い行政サービスの提供においては、「押印・署名の義務見直し」「WEBによるがん検診の予約開始」「AI・チャットボットの活用」などに取り組み、健全な財政運営では、「ネーミングライツ」「ふるさと納税」により自主財源の確保に努めているところです。さらには、デジタル庁が推進している「誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化」の実現に向けて、行政サービスの利便性向上及び行政運営の効率化に立ち返った業務改革に取り組んでまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

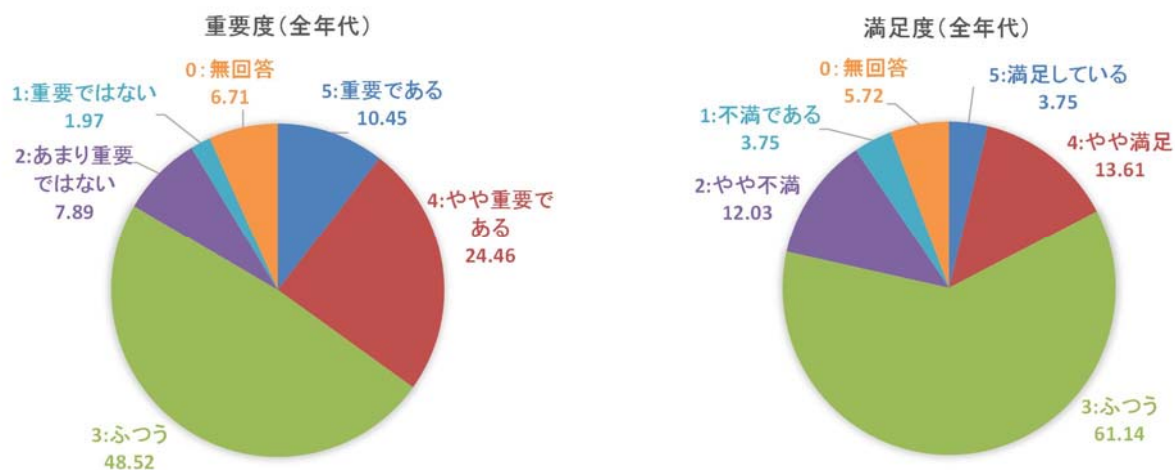
分析担当課	企画調整課
目 標 名	行財政運営
施 策 名	6 - 2 広域行政・広域連携

1. 施策の平均及び順位

6 - 2	重 要 度					満 足 度				
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減
広域行政・ 広域連携	3.57	23	3.36	24	0.22	3.06	15	3.02	17	0.04
施策平均	3.88		3.82		0.06	3.09		3.09		0.01

小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布（％）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10代	5	3	9	1	0	1	3	3	12	1	0	0
20代	9	13	27	2	0	2	3	8	34	4	1	3
30代	4	16	28	7	1	0	2	7	32	10	5	0
40代	5	12	40	7	3	5	2	9	44	7	5	5
50代	7	12	48	7	0	2	0	9	52	12	2	1
60代	12	28	40	12	5	9	3	11	60	18	6	8
70代以上	9	35	50	4	1	8	6	18	70	8	0	5
不詳（無回答）	2	5	4	0	0	7	0	4	6	1	0	7

4 . 分析

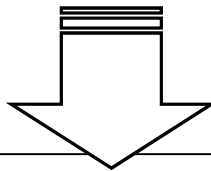
重要度及び満足度ともに平均値を下回る結果となりました。回答分布では、施策を「重要・やや重要である」と考える人が全回答の約 35%を占める一方で、「満足・やや満足」と答えた人は約 17%にとどまっており、重要度と満足度が乖離する結果となりました。

また、満足度で「ふつう」が約 60%であることや、「連携の活動内容がみえてこない」という意見もあることから、施策が十分に知られていないという現状を示していると考えます。

課 題

「連携に至った経緯や活動内容がみえない」という意見から、下記の課題が考えられます。

- ・ 取り組みが伝わっていない
- ・ 連携に至っての成果が市民の皆様還元されていない



課題解決への取り組み

- ・ 広報やホームページ、SNS、地元紙を活用した取り組みの概要や成果を発信
- ・ 市民を巻き込んだ取り組みの実施
- ・ 各分野における広域行政・広域連携の更なる推進

総合分析

直近では、令和4年5月7日、東京都渋谷区と観光や文化、産業、スポーツなどで連携を深めてきたことから「交流促進協定」を締結。令和4年3月23日、宮城県塩竈市と大規模な被害が発生した場合でもお互いに応援・協力を実施することが可能であることから「災害時相互応援協定」を締結したところです。特に東京都渋谷区とは、区立小中学校給食に大館市産のあきたこまちの使用や、「青ガエル」の移設など、交流を深めてきました。

また、観光面での「函館・大館・角館」の3D連携、奥州藤原氏を縁とした歴史をめぐる広域連携、友好都市との交流を継続し、広域化する課題への対応や関係・交流人口の拡大に効果をあげています。さらには、民間事業者とのスポーツ振興や健康増進に関する連携協定の締結も推進し、官民間問わず連携の幅を拡げています。

しかし、前回調査同様に、市民に対する周知が不足しているということが明らかになりました。今後も広報やホームページ、地元紙を活用した情報発信を継続するとともに、市民を巻き込んだ事業を実施していくことで、市民に還元される仕組みが必要と考えます。少子・高齢化に伴う広域化する行政課題に対応するため、引き続き、他自治体及び民間との連携の可能性を模索するとともに、市民参画型の行政を目指していきます。

17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

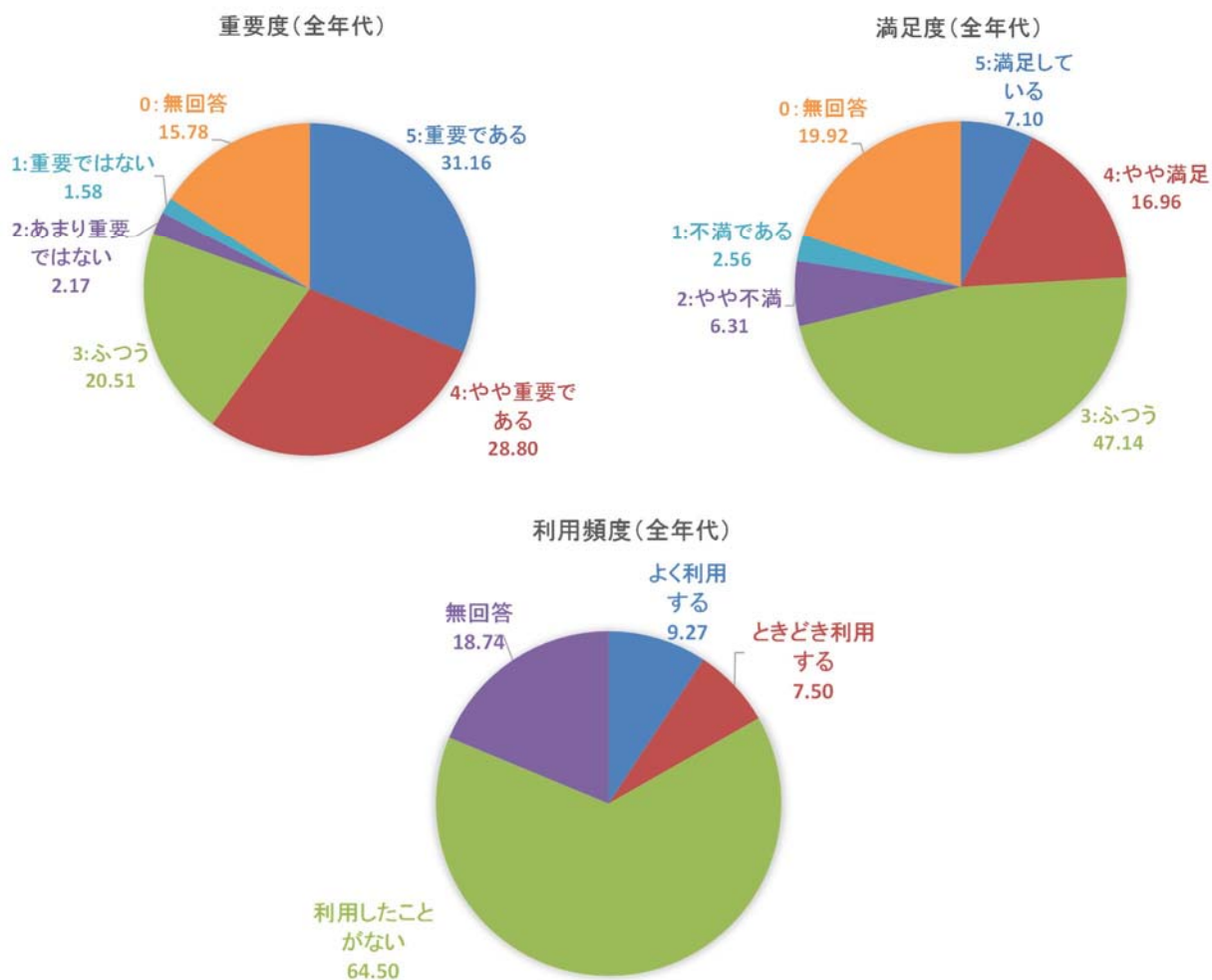
分析担当課	子ども課
目標名	公共施設の利活用
施設名	7 - 1 市立保育園、へき地保育所

1. 施設の平均及び順位

7 - 1	重要度					満足度				
	第16回		第17回		増減	第16回		第17回		増減
市立保育園、へき地保育所	4.12	2	4.02	3	0.10	3.32	9	3.25	8	0.07
施設別平均	3.72	-	3.63	-	0.09	3.20	-	3.16	-	0.03

小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	10	5	2	0	0	2	4	2	9	2	0	2	2	1	12	4
20代	20	18	9	2	1	3	5	11	28	5	0	4	8	3	34	8
30代	29	13	8	3	1	2	7	11	24	7	4	3	15	9	30	2
40代	28	20	18	1	1	4	8	15	34	5	3	7	9	9	44	10
50代	22	27	21	1	1	4	1	18	43	4	3	7	4	4	57	11
60代	24	33	17	3	2	27	6	12	49	5	2	32	4	6	69	27
70代以上	20	28	28	0	1	30	4	15	47	2	1	38	5	6	71	25
不詳（無回答）	5	2	1	1	1	8	1	2	5	2	0	8	0	0	10	8

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

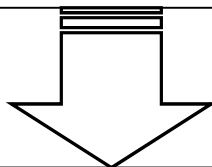
重要度・満足度ともに平均を上回っています。全体順位でみると重要度が順位を1つ下げ3位に、満足度は逆に順位を1つ上げ8位となっています。

年代別にみても、ほぼ全ての世代で「重要である」と認識されており、20代から40代の世代はもちろん、子育てから離れた60代、70代においても高い関心が示されています。

満足度については、前回同様に「ふつう」が過半数を占めていますが、「やや満足」がポイントを減らしたことで全体順位が下がっています。

課 題

- ・少子化が進む中、保育施設の運営に変化がみられています。
- ・入園の希望の多い市中心部で待機児童が発生しやすくなる一方、中心部から離れるほどに定員を下回る施設が散見されます。
- ・安心・安全な保育の提供を継続しつつ、施設運営の面でも健全化を図る必要があります。



課題解決への取組み

- ・保育の利用状況及び利用希望調査による必要とされる保育の量の算定
- ・必要な保育の量と地域の実情を勘案した公立保育園やへき地保育所の統廃合の検討
- ・各種事業の周知・広報活動の継続

総合分析

保育施設は保護者の就労を支える重要な役割を担っておりますので、年度途中も含めた待機児童の解消が最大の目標となります。

市中心部の高い需要は、引き続き認定こども園などの民間施設の活力を最大限に活かし、一方で利用者が減少している公立施設、特にへき地保育所については統廃合により、施設運営の健全化、合理化を図る必要があります。

ただし、保育施設は、その地域のコミュニティの場としての重要な役割を担ってきた経緯がありますので、保護者や地域の意見を伺いながら、児童数や施設の老朽化、立地条件、将来展望などを勘案し、子どもたちにとってより良い保育施設になるよう総合的に考えて進めてまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

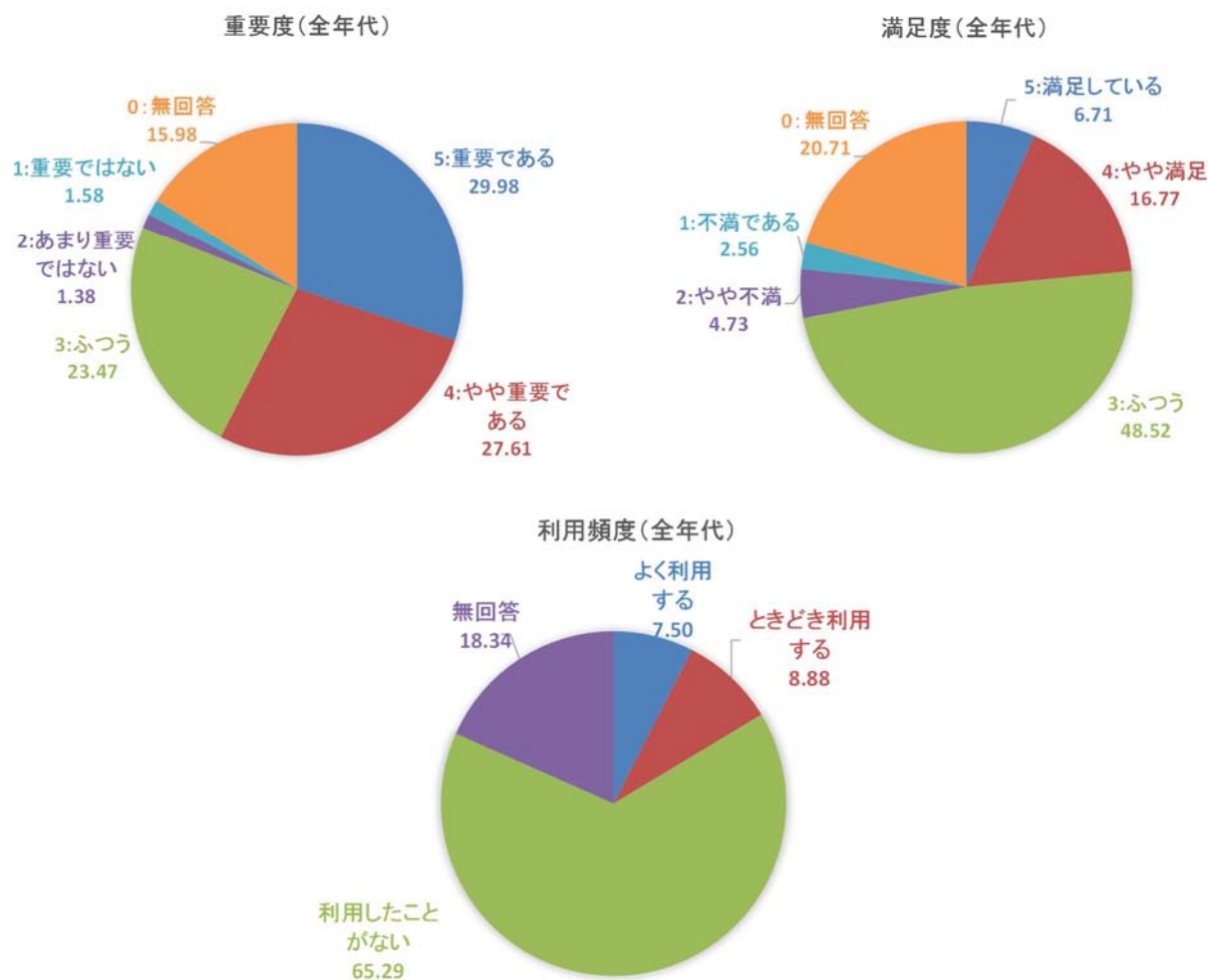
分析担当課	子ども課、生涯学習課
目 標 名	公共施設の利活用
施 設 名	7 - 2 児童館、児童育成施設

1. 施設の平均及び順位

7 - 2	重 要 度					満 足 度						
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減		
児童館、 児童育成施設	4.03	4	3.99	4	-	0.05	3.29	12	3.26	7		0.04
施設別平均	3.72	-	3.63	-		0.09	3.20	-	3.16	-		0.03

小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布（％）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	9	6	1	0	0	3	3	4	9	0	0	3	1	2	12	4
20代	15	18	15	1	1	3	6	6	34	2	0	5	5	5	34	9
30代	27	15	8	1	2	3	4	12	27	4	5	4	12	8	33	3
40代	26	19	21	1	1	4	5	18	34	6	2	7	11	15	39	7
50代	25	22	25	1	0	3	3	16	44	4	3	6	3	5	58	10
60代	27	29	19	3	2	26	5	12	48	5	3	33	2	5	72	27
70代以上	20	28	27	0	1	31	7	15	44	2	0	39	4	5	73	25
不詳（無回答）	3	3	3	0	1	8	1	2	6	1	0	8	0	0	10	8

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

重要度は平均を上回っており、順位も前回同様の4位、ポイントも変わらず、ほぼ横ばいとなりました。

年代別では、小学生の子を持つと思われる30代から50代で「重要である」が最も多く、そのほかの世代においても重要視されていることが示されています。

満足度についても平均を上回り、全体順位が12位から7位に上がっています。これは「やや満足」のポイントが減少、無回答が増加などの変動を含め、総合ポイントで押し上げられたものと思われます。

課 題

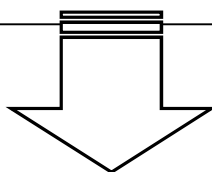
児童館の役割は、その地域の児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることです。併せて、子育て家庭の支援を行い、地域活動組織の育成にも寄与し、それをもって、地域全体で児童の健全育成を図るものです。

市中心部で発生している待機児童の解消を図りつつ、学校や家庭と連携を取りながら、保護者の就労をしっかりと支えていく必要があります。

（放課後児童クラブ）

放課後児童クラブは現在19か所あり、17ある小学校区すべてで実施しています。近年では利用者総数は横ばい状態となっているが、高学年児童（小学4年生以上）の利用希望者が微増傾向にあり、高学年児童の受け皿の構築について、どのように対応していくかを検討する必要があります。

また、支援を必要としている方へ情報提供する方法や受け入れ施設のハード面の環境整備を検討する必要があります。



課題解決への取組み

- ・必要量と地域の実情を勘案した放課後等の居場所づくりの構築
- ・老朽化が進む施設の安全対策
- ・放課後児童クラブ事業以外の事業展開、既存事業の拡充

(放課後児童クラブ)

- ・受入施設の環境整備(ハード面)
- ・各学区の入館者の事前把握、施設間の受け入れ時の連携

総合分析

「児童館、児童育成施設」は、子育てと就労を両立させるために重要であることから、非常に関心の高い分野であり、特に、小学生が放課後の時間を安全に、そして健全に過ごせる場所を提供する大事な役割を担っています。

市では、「児童館、児童育成施設」をその地区のコミュニティの一つとして、学校、家庭、地域との連携を促し、地域全体で児童を守り、育てる活動を展開してまいります。

少子化が進む中でも放課後児童クラブへの需要が大きく減ることはありません。

市中心部の待機児童の解消を図るとともに、老朽化が進む施設を適正に管理し、引き続き児童の安全を確保してまいります。

(放課後児童クラブ)

「放課後児童クラブの利用学年の幅を増やしてほしい。小4から利用できない」という意見をいただきました。

放課後児童クラブの利用基準に関して、対象者については毎年 of 事前説明会でも各クラブの定員状況によって1年生から3年生までを優先するといった説明をさせていただいております。

今後は、上記の課題解決に向けて関係機関と連携して対応するとともに、利用期間や利用要件について、情報が支援を必要とする方に確実に届くよう周知に励むとともに、必要に応じて協議をしながら更なる施設の充実を図ってまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

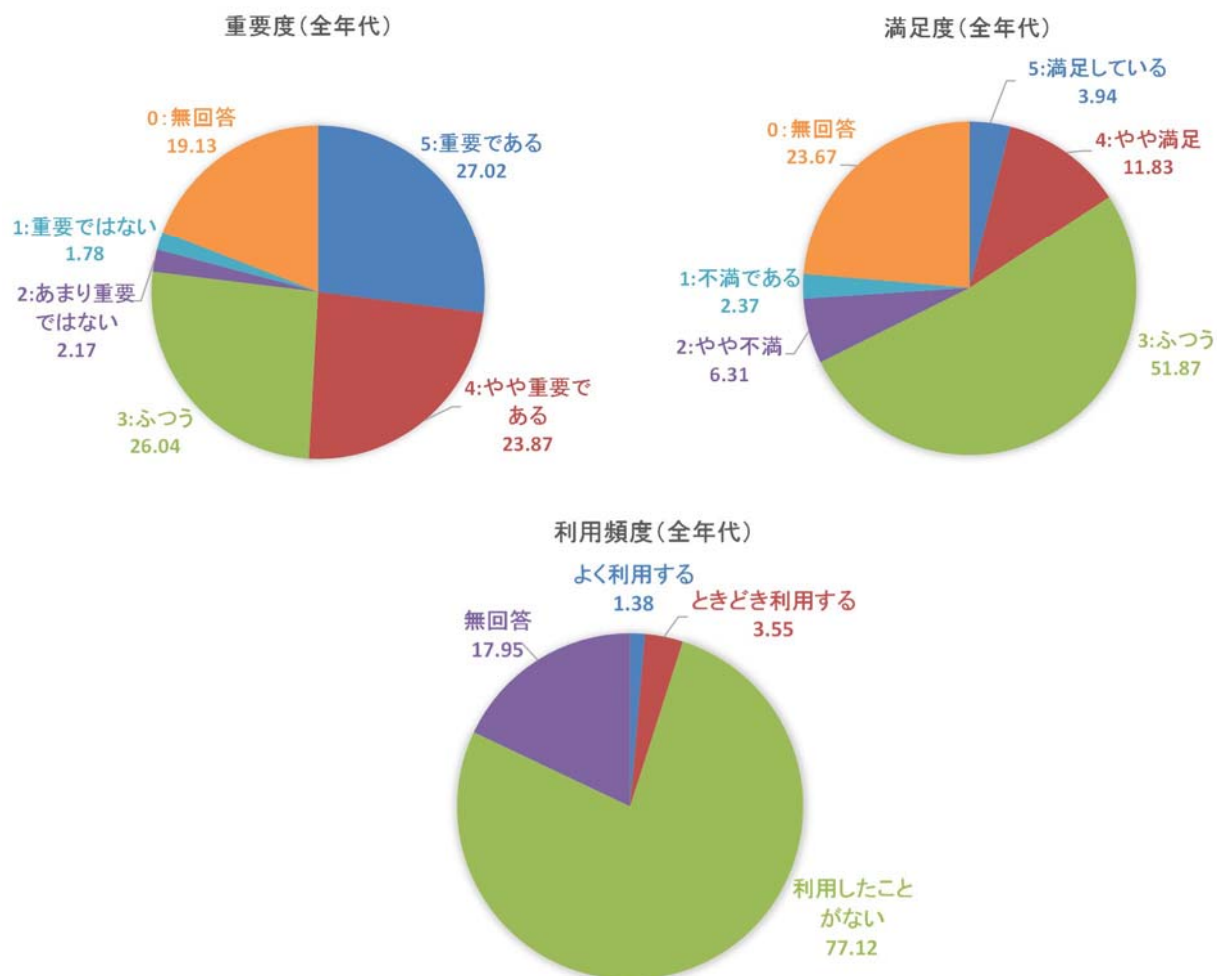
分析担当課	福祉課
目 標 名	公共施設の利活用
施 設 名	7 - 3 障害者福祉施設

1. 施設の平均及び順位

7 - 3	重 要 度					満 足 度					
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減	
障害者福祉施設	3.94	8	3.89	8	-	0.05	3.25	14	3.11	18	0.14
施設別平均	3.72	-	3.63	-		0.09	3.20	-	3.16	-	0.03

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布（％）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	9	1	4	0	0	5	4	3	7	0	1	4	0	1	14	4
20代	17	12	17	2	1	4	2	5	34	5	2	5	1	0	44	8
30代	18	14	16	1	2	5	2	7	30	5	5	7	3	4	47	2
40代	21	19	22	3	2	5	2	7	50	5	0	8	1	3	63	5
50代	22	21	28	1	0	4	2	9	48	6	3	8	0	4	63	9
60代	27	27	18	2	2	30	4	11	45	9	1	36	2	3	74	27
70代以上	20	23	25	2	1	36	3	16	43	1	0	44	0	3	76	28
不詳（無回答）	3	4	2	0	1	8	1	2	6	1	0	8	0	0	10	8

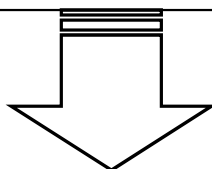
利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

重要度は前回と同じ順位で平均を上回っていますが、満足度は前回から順位を下げ平均を下回る結果となっています。重要度の回答分布では「重要である」「やや重要である」で過半数を超え、満足度の回答分布では「ふつう」が過半数を占めていて、「不満である」「やや不満」は全体の9%となっています。利用頻度は、障害を持つかたのみの利用となることから「利用したことがない」が多数となっています。

課 題

障害に対する理解があまり得られていないことから、障害福祉施設に関して、重要度は高いが満足度は高くない結果になったと分析されます。



課題解決への取組み

- ・ 障害を理解するためのセミナー等の継続した取組みと市広報紙やホームページ等を活用した情報発信方法の改善
- ・ 大館市障害者自立・差別解消支援協議会での障害の理解、障害者就労の促進等といった地域の課題への継続した取組み

総合分析

障害のあるかたやご家族のニーズや障害福祉サービス等の必要量を実績に応じて検証しグループホーム等の社会福祉施設整備における情報提供をおこなっていきます。

また、障害や障害特性をより理解するための施策を実施し、障害者福祉施設等への関心や障害の有無に関わらずともに生きる地域社会の実現に向けた取組みをおこなっていきます。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

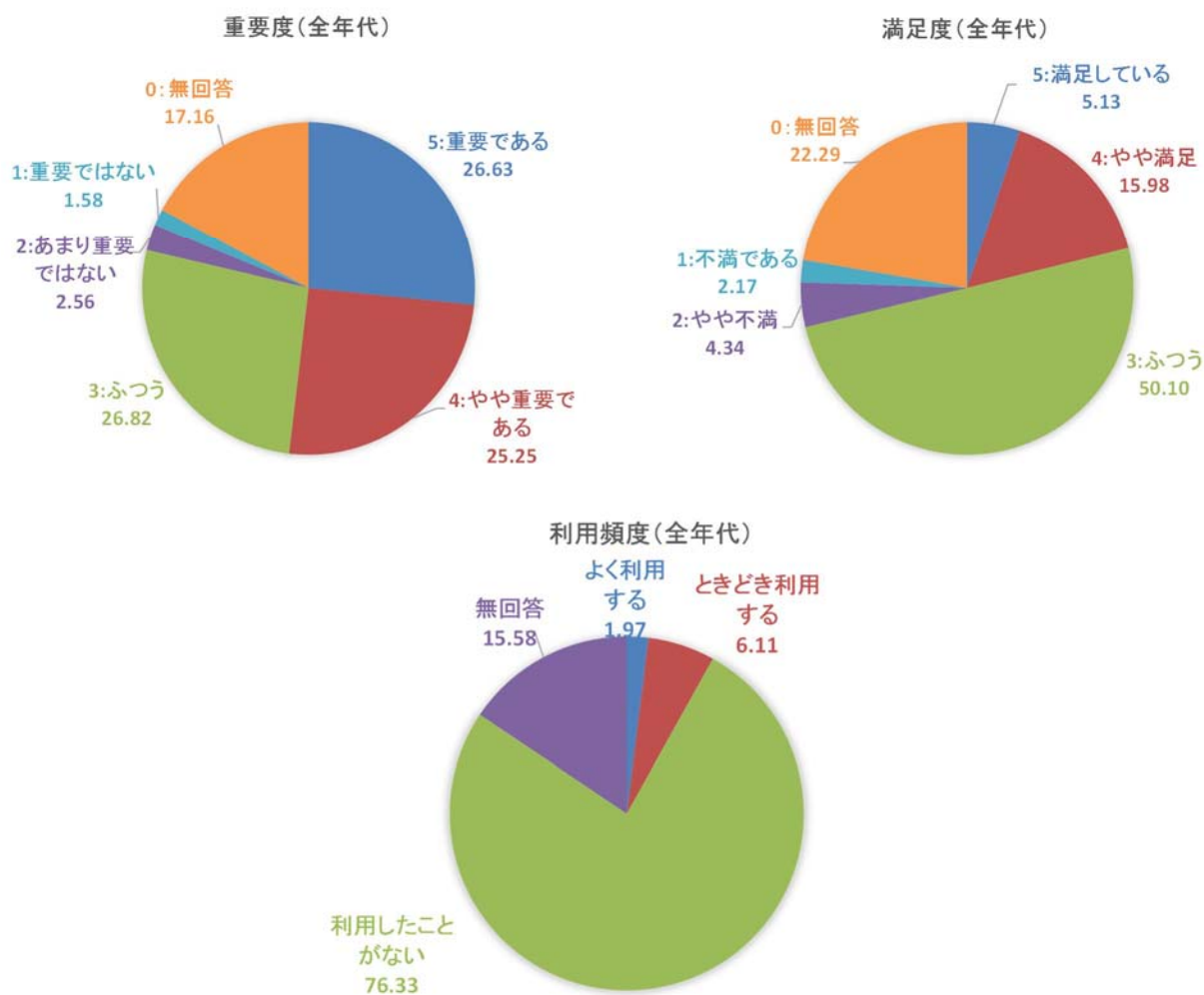
分析担当課	長寿課
目 標 名	公共施設の利活用
施 設 名	7 - 4 高齢者福祉施設

1. 施設の平均及び順位

7 - 4	重 要 度					満 足 度				
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減
高齢者福祉施設	4.03	6	3.88	9	0.15	3.35	7	3.23	12	0.13
施設別平均	3.72	-	3.63	-	0.09	3.20	-	3.16	-	0.03

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	10	3	3	0	0	3	3	3	9	0	1	3	0	1	14	4
20代	14	14	18	2	1	4	2	8	34	3	1	5	0	1	45	7
30代	19	15	13	1	2	6	2	13	28	2	5	6	0	3	52	1
40代	21	22	21	3	1	4	2	12	46	3	1	8	2	3	61	6
50代	19	24	27	2	0	4	4	9	48	4	2	9	1	1	68	6
60代	26	24	22	5	2	27	5	14	46	7	1	33	0	6	74	26
70代以上	22	24	29	0	1	31	7	20	38	2	0	40	7	15	64	21
不詳（無回答）	4	2	3	0	1	8	1	2	5	1	0	9	0	1	9	8

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

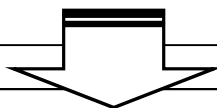
4. 分析

重要度・満足度ともに平均を上回り、回答分布でも重要度において「重要である」「やや重要である」が過半数を占め、高齢者福祉施設の重要性を認識いただいています。しかし、満足度では「ふつう」「やや不満」「不満である」が過半数を超える結果となりっており、高齢者福祉の対象となる60代以上でも、重要度の認識が高いものの満足度となると「ふつう」「やや不満」「不満である」が7割近くを占めており、高齢者福祉施設の充実度が不足していると考えられます。

課 題

「高齢者が多いまちなので、高齢者が集まる広場をつくるといいと思う」「市と施設の活動による講義や介護指導等では、もう少しわかりやすい内容で教えてほしい」といった意見があり、その結果として「ふつう」「やや不満」「不満である」という回答が7割近くを占めたものと分析されます。

これまで、指定管理者との連携により、施設機能の維持と、市民が利用しやすい環境づくりに取り組んでいますが、今後は「介護予防を行う場」「多世代交流の場」としてのさらなる機能向上を図りながら、より多くのかたに施設を利用いただくため、その周知に取り組む必要があります。



課題解決への取組み

市公共施設等総合管理計画に基づき、在宅福祉を進めるために必要な介護通所施設は存続し機能維持に努めるほか、将来的な大規模改修や改築を見据えて、民営への転換が有効とされる施設は事業継続できる民間等への譲渡を検討し、代替え施策の導入により福祉サービスの低下が軽微と認められる老朽化が著しい施設については、解体処分も視野に入れながら、市民への十分な周知に努める。また、地域における住民主体の地域住民の通いの場等の居場所づくりへの支援を推進するとともに、「介護予防や生きがい健康づくりの場」「多世代交流の場」として参加しやすい環境づくりと、さらなる施設利用に向けて周知を図っていく。

総合分析

高齢化率が年々上昇する中で、介護予防や生きがい健康づくりとしての高齢者福祉施設の設置運営は重要であり、今後も既存施設の機能維持、代替え施策の導入により福祉サービスを継続していくことが必要であると分析されます。

今回の結果を踏まえて、第2次新大館市総合計画後期基本計画の基本目標である「健康で、互いのつながりを大切に支え合う“健康福祉都市”」、第8期介護保険事業計画・高齢者福祉計画に掲げる「高齢者が生きがいと尊厳をもち、安心して暮らす地域社会づくり（ひとりぼっちにさせない地域支え合い）」を基本理念に、すべての高齢者が住み慣れた地域で、生きがいと尊厳をもって暮らせるよう、介護予防や生きがいづくり、地域における見守りや支え合い、医療・介護などの多様な職種の連携による地域包括ケアシステムの構築に向けた施策を展開していくとともに、関係団体・関係各課と連携を一層強化してまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

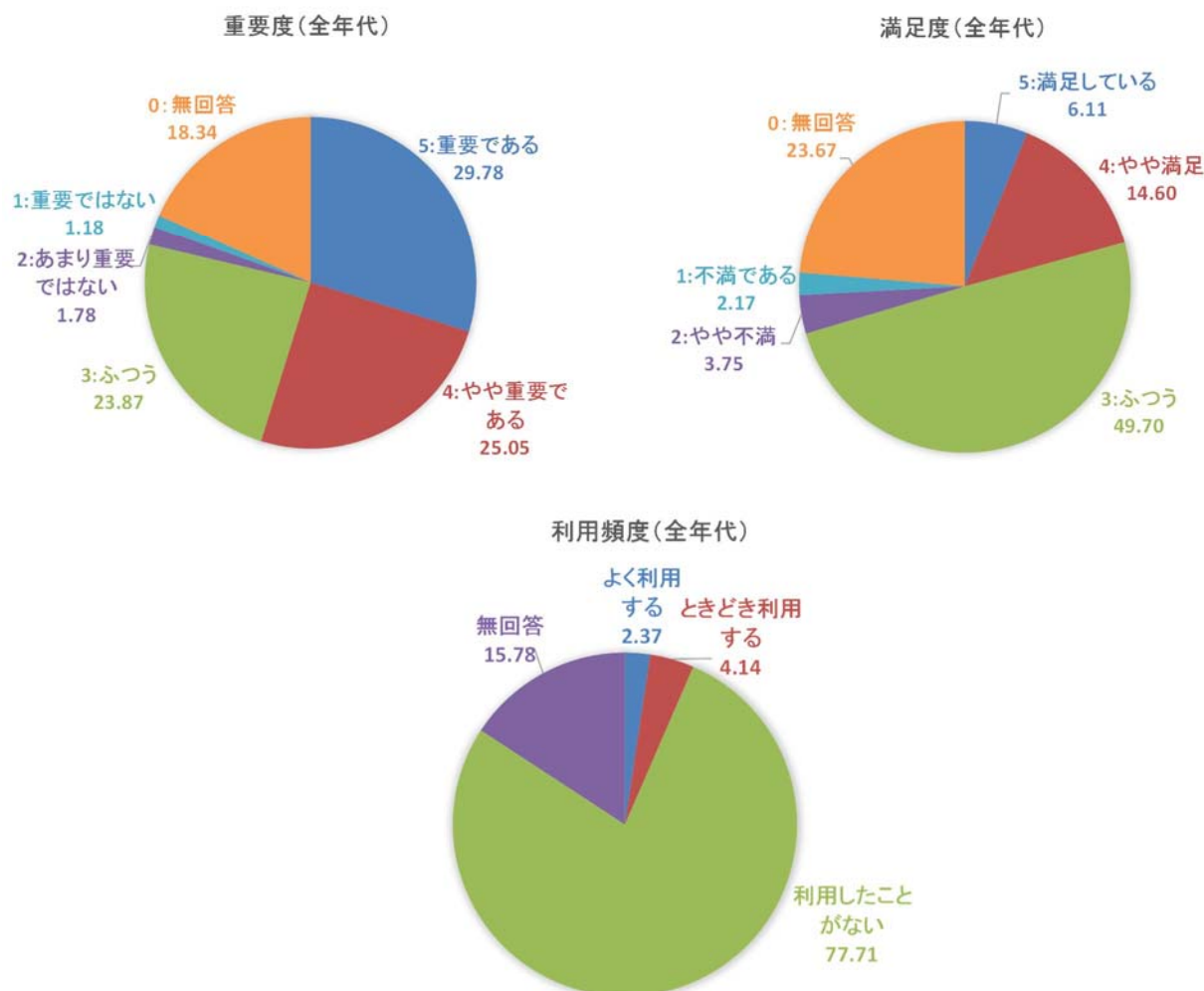
分析担当課	長寿課
目 標 名	公共施設の利活用
施 設 名	7 - 5 高齢者介護施設

1 . 施設の平均及び順位

7 - 5	重 要 度					満 足 度				
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減
高齢者介護施設	4.07	3	3.99	5	0.09	3.34	8	3.25	9	0.09
施設別平均	3.72	-	3.63	-	0.09	3.20	-	3.16	-	0.03

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2 . 回答分布（％）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	9	4	4	0	0	2	3	3	10	0	1	2	0	0	15	4
20代	15	13	18	1	1	5	2	6	33	5	1	6	2	2	43	6
30代	19	15	14	1	1	6	5	7	32	2	4	6	1	1	52	2
40代	22	26	17	2	1	4	3	14	44	2	1	8	1	6	60	5
50代	25	25	21	1	0	4	4	14	43	4	2	9	1	3	66	6
60代	36	22	16	2	2	28	8	12	46	3	1	36	3	5	74	24
70代以上	21	19	30	0	1	36	4	15	41	2	0	45	2	4	76	25
不詳（無回答）	4	3	1	2	0	8	2	3	3	1	1	8	2	0	8	8

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

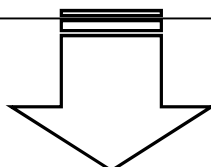
4. 分析

重要度・満足度ともに平均を上回ったほか、回答分布では重要度において「重要である」「やや重要である」が過半数を占めており、高齢者介護施設の重要性を認識いただいています。ただし、満足度では「ふつう」「やや不満」「不満である」が過半数を超える結果となりました。回答は、実際に施設を利用しての満足度と施設の整備状況に対する満足度が混在しているものと考えられますが、結果の要因として施設整備状況の周知不足が考えられます。

課 題

「介護施設を充実させ、安心して入居し楽しく暮らせるようにして欲しい」との意見がありました。

今後も高齢化率の増加が見込まれますが、人口の将来推計と要介護認定者推計を見据えて、長期的な視点に基づいた介護サービス提供体制の持続性を担保しながら、介護を必要とするかたが安心して適切な介護サービスが受けられるようバランスのとれた施設整備を進めていく必要があります。



課題解決への取組み

- ・市ホームページを活用した介護施設の設置状況の情報発信
- ・地域包括支援センター等の関係機関を通じて相談者へ施設の設置状況の周知
- ・第8期介護保険事業計画による施設整備の推進
- ・第9期介護保険事業計画での施設整備の検討

総合分析

高齢化率の上昇により、今後も介護施設への入所希望者数の増加が見込まれますが、人口の将来推計と要介護認定者推計を見据えながら、バランスのとれた施設整備を進めていく必要があります。

第8期介護保険事業計画では、自立支援、介護予防・重度化防止の推進、介護給付対象サービスの充実・強化、日常生活を支援する体制の整備を基本目標に据え、すべての高齢者が住み慣れた地域で、生きがいと尊厳をもって暮らせるよう、介護予防や生きがいづくり、地域における見守りや支え合い、医療・介護などの多様な職種の連携による地域包括ケアシステムの構築に向けた施策を展開していくとともに、関係団体・関係各課と連携を一層強化してまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

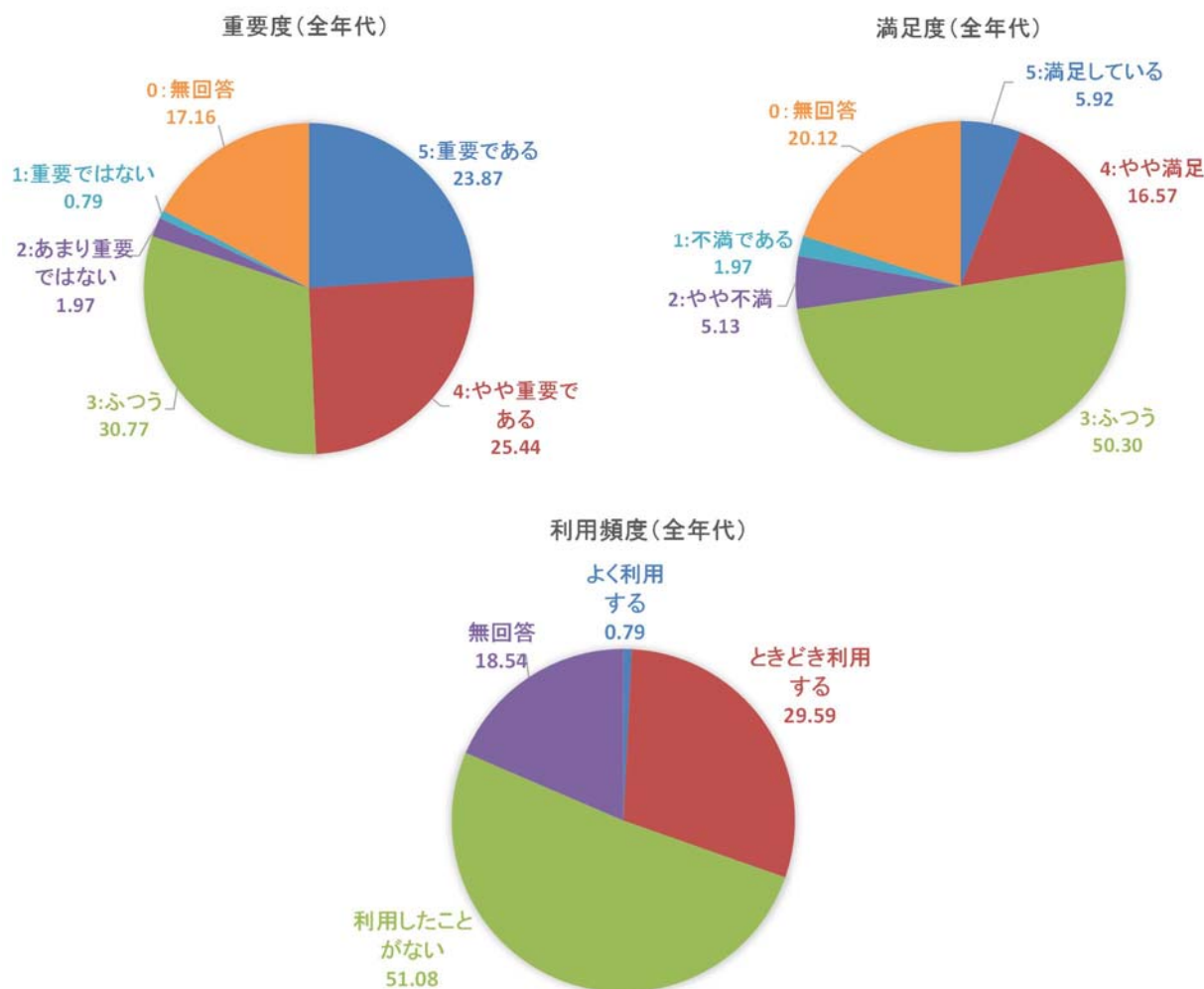
分析担当課	健康課
目 標 名	公共施設の利活用
施 設 名	7 - 6 保健事業関連施設

1. 施設の平均及び順位

7 - 6	重 要 度					満 足 度				
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減
保健事業 関連施設	3.99	7	3.84	10	0.15	3.29	13	3.24	11	0.05
施設別平均	3.72	-	3.63	-	0.09	3.20	-	3.16	-	0.03

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布（％）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	9	5	3	0	0	2	4	0	11	1	1	2	0	2	13	4
20代	15	20	14	0	0	4	4	8	33	2	1	5	1	15	29	8
30代	16	16	19	3	1	1	4	10	28	7	5	2	1	28	23	4
40代	18	19	27	2	1	5	3	18	39	4	0	8	0	24	41	7
50代	17	22	32	0	0	5	3	16	44	5	2	6	0	27	39	10
60代	24	27	20	3	1	31	7	13	49	4	0	33	1	25	53	27
70代以上	18	17	40	0	1	31	5	15	47	2	0	38	1	25	56	25
不詳（無回答）	4	3	1	2	0	8	0	4	4	1	1	8	0	4	5	9

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

重要度は前回の7位から10位に下がり、「重要である」「やや重要である」をあわせると約過半数で、前回より1割減っています。満足度は前回の13位から11位とやや上がっていますが、全ての年代で「ふつう」との回答が多く、全体の過半数を占める結果となっています。利用頻度についても、どの年代も「利用したことがない」が半数を占めています。利用したことがあるかたからの意見として、施設の老朽化に関することが挙げられています。

課 題

保健センターは、乳幼児及び成人の健診や相談、健康づくり講座等の会場として利用者が多く、認知度はある程度高いと思われます。しかし、建築後42年を経過し、建物の老朽化が進行し、大幅な改修が必要となっています。

課題解決への取組み

- ・施設の改修は年度計画を立てて行っていく。
- ・当面は、感染症防止を含め、小破修理を行い、利用者の安全面に配慮していく。

総合分析

保健センターは市民の健康づくりの拠点として、昭和56年に設置され、現在まで多くのかたに利用いただいております。設置当時は、保健センター機能として十分でしたが、時代とともにバリアフリー機能が求められ、さらに冷暖房完備や駐車場の整備などが必要となりました。新型コロナウイルス感染症対策として、網戸やエアコンの設置等を行ってきたところですが、施設の改修には多くの資金や時間を要することから、ソフト面での対応で補ってきたところですが、乳幼児健診等で子どもさん連れの親子には、子育てボランティアを配置し、がん検診等で階段を昇降できないかたへは、スタッフが1階で個別対応するなどしております。

いずれにしても施設の老朽化は進んでおり、緊急性がある改修に着手しながら、大規模改修のほか、移転新設も含めた理想的な施設のあり方を検討して参ります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

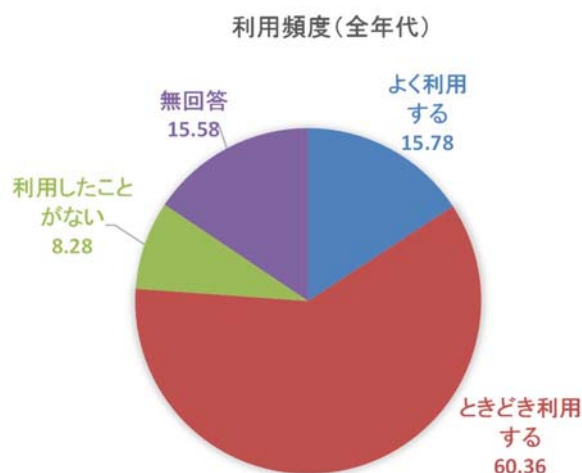
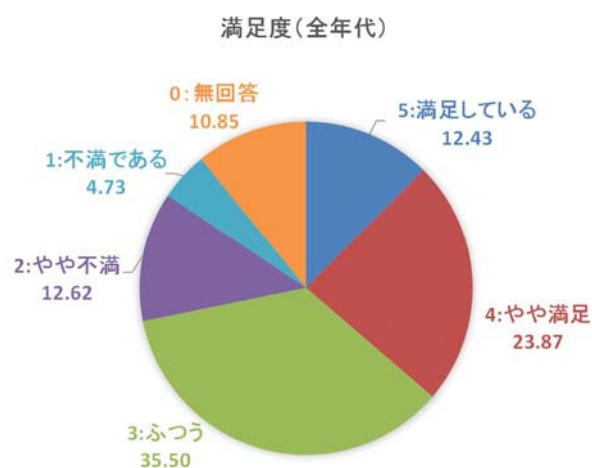
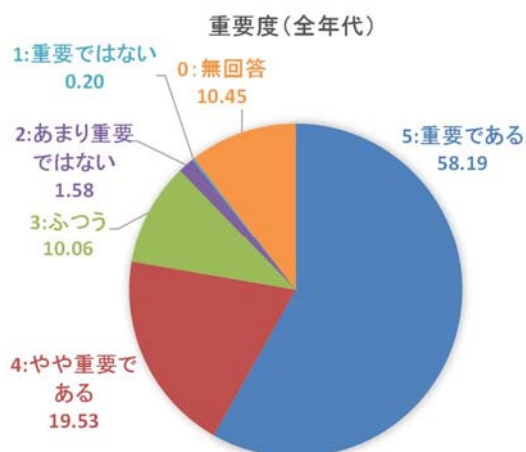
分析担当課	総合病院、扇田病院
目標名	公共施設の利活用
施設名	7 - 7 医療関連施設

1. 施設の平均及び順位

7 - 7	重要度					満足度					
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減	
医療関連施設	4.41	1	4.50	1	-	0.08	3.12	18	3.30	6	0.18
施設別平均	3.72	-	3.63	-		0.09	3.20	-	3.16	-	0.03

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	14	3	1	0	0	1	7	2	8	1	0	1	2	11	1	5
20代	33	9	8	1	0	2	3	16	16	11	5	2	7	34	5	7
30代	45	7	3	1	0	0	8	9	16	15	7	1	11	41	3	1
40代	45	14	9	2	1	1	9	20	26	10	4	3	10	51	7	4
50代	48	18	8	1	0	1	4	19	34	14	3	2	9	55	5	7
60代	62	12	9	2	0	21	15	19	40	10	2	20	16	54	11	25
70代以上	43	32	12	1	0	19	17	31	35	3	3	18	22	55	8	22
不詳（無回答）	5	4	1	0	0	8	0	5	5	0	0	8	3	5	2	8

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

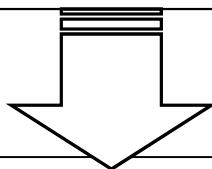
4. 分析

重要度は平均を上回り、前回と同じく順位が1位となり、回答分布でも「重要である」が過半数を超えています。

満足度は前回は上回り6位となりました。回答分布は、各年代別をみても「ふつう」が約4割を占める結果となり、関心の高さは継続していることから、課題に注視していく必要があります。

課 題

「赤字決算の改善を求める」意見がありましたが、赤字を解消するための経営改善が課題としてあげられます。



課題解決への取組み

診療報酬制度に適応した各種施設基準の取得や病棟再編などの収益確保と経常経費の節減を講じながら、経営基盤強化に努めます。

総合分析

今回の第17回大館市世論調査の結果につきましては、貴重なご意見として院内の各部署で共有し、今後も総合病院の理念である「患者さんが安心と満足を得られる医療」を展開し、扇田病院の理念である「地域の皆様の心の支えとなる病院」づくりに生かしてまいります。

施設設備の保全を行い、引き続き安心・安全な医療を提供できる病院づくりを進めてまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

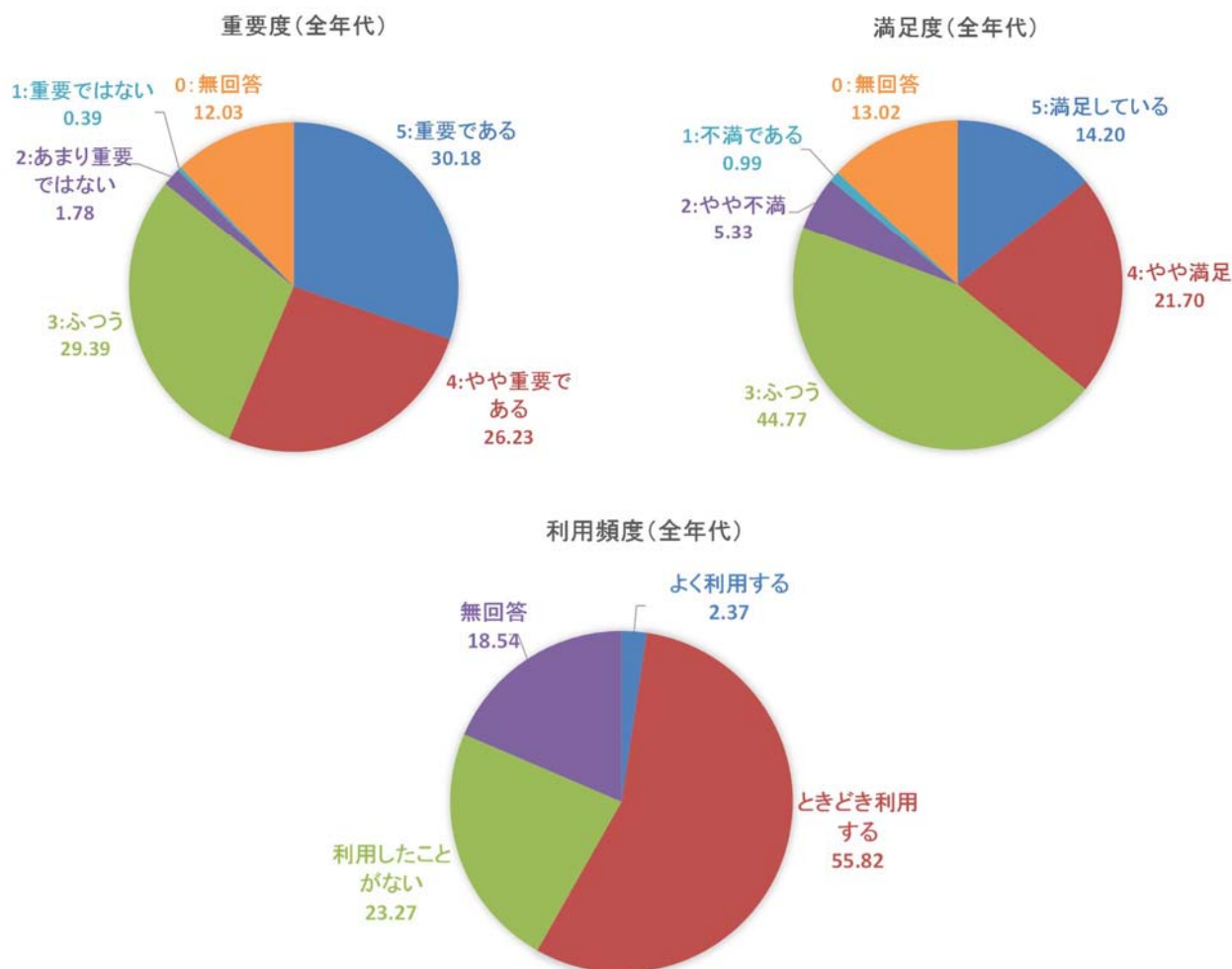
分析担当課	市民課
目 標 名	公共施設の利活用
施 設 名	7 - 8 斎場関連施設

1. 施設の平均及び順位

7 - 8	重 要 度					満 足 度				
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減
斎場関連施設	3.88	10	3.96	6	0.08	3.54	2	3.49	3	0.04
施設別平均	3.72	-	3.63	-	0.09	3.20	-	3.16	-	0.03

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	8	5	3	1	0	2	5	5	8	0	0	1	1	9	6	3
20代	15	16	19	1	0	2	5	11	31	3	1	2	1	24	20	8
30代	20	13	19	2	0	2	11	10	25	4	3	3	3	27	24	2
40代	16	26	25	1	2	2	11	15	35	8	0	3	1	44	21	6
50代	31	18	25	1	0	1	11	19	39	4	1	2	0	52	12	12
60代	35	27	21	2	0	21	15	23	39	7	0	22	1	62	13	30
70代以上	26	23	34	1	0	23	13	24	44	1	0	25	4	60	18	25
不詳（無回答）	2	5	3	0	0	8	1	3	6	0	0	8	1	5	4	8

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

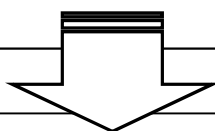
前回調査同様、重要度・満足度ともに平均を上回り、満足度の順位も3位という結果から、安定したサービスが提供できているものと分析されます。

課 題

老朽化した斎場の安定したサービスを継続していくため、使用状況を的確に把握し、維持管理を行っていく必要があります。

新斎場の建設においては、令和7年度完成を目指し、ご遺族、会葬者のプライバシーや安全の確保及び周辺環境に配慮した施設整備を計画的に進める必要があります。

また、墓地公園は、恒久的に使用するものであるため、計画的に維持管理を行っていく必要があります。



課題解決への取組み

- ・ 現斎場は施設や設備の的確な維持管理を継続
- ・ 新斎場の建設を計画的に実施
- ・ 墓地公園の維持管理を計画的に実施

総合分析

高い満足度を維持していくために、供用開始から41年目を迎えた斎場については、安定した運営を継続していく必要があることから、今後も、施設と設備の整備を実施していきます。

また、新斎場の整備についても、令和7年度完成に向けて計画的に進めるとともに、プライバシーの確保やバリアフリーに配慮しつつ、故人とのお別れと冥福を祈るのにふさわしい、満足度の高い施設を目指します。

墓園公園については、限られた財源のなかでの的確な維持管理が必要とされますので、状況を把握するための定期的な施設巡回を実施します。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

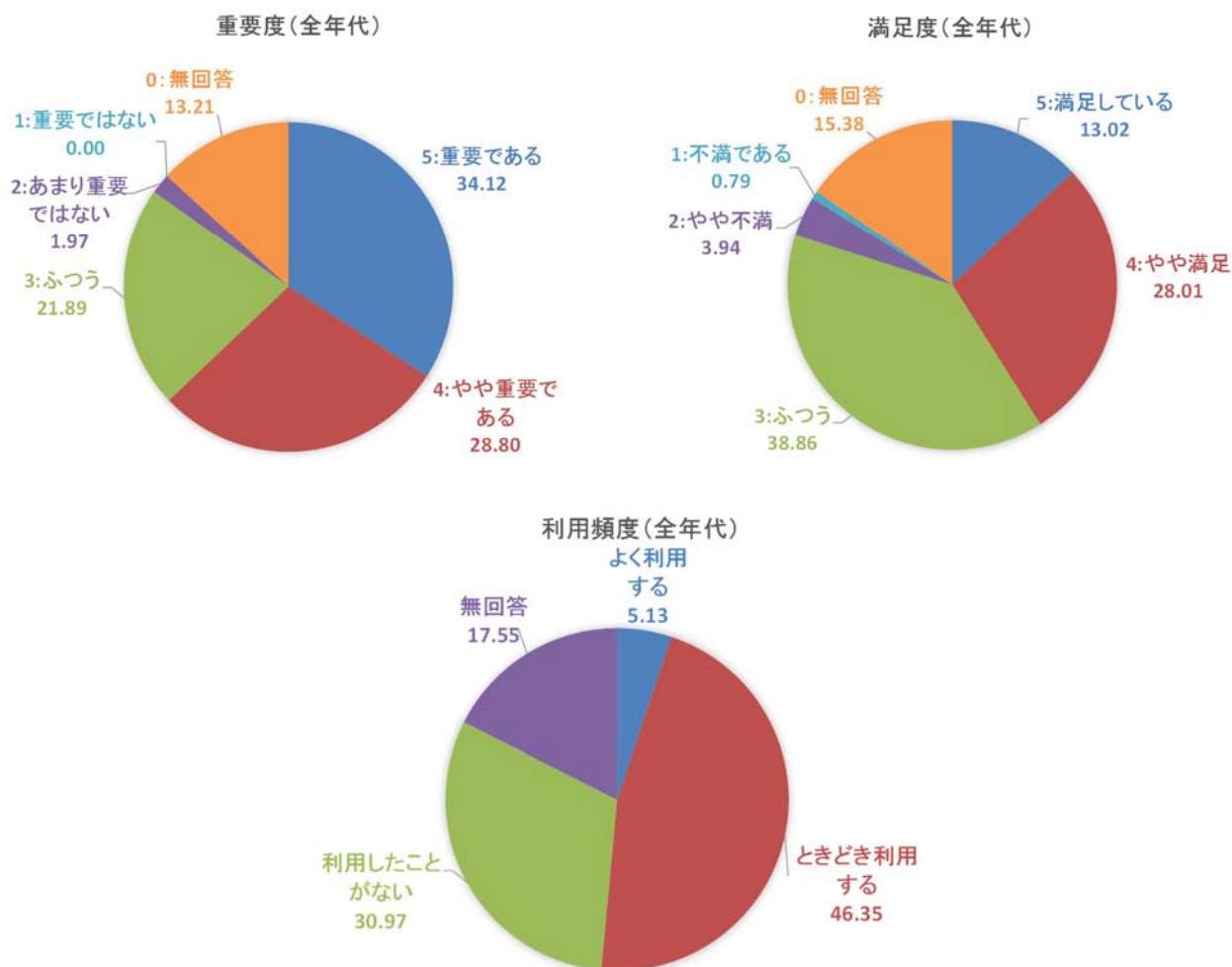
分析担当課	環境課
目 標 名	公共施設の利活用
施 設 名	7 - 9 衛生処理関連施設

1. 施設の平均及び順位

7 - 9	重 要 度					満 足 度					
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減	
衛生処理 関連施設	4.03	5	4.10	2	0.06	3.57	1	3.57	1	-	0.01
施設別平均	3.72	-	3.63	-	0.09	3.20	-	3.16	-	-	0.03

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	11	3	3	0	0	2	5	4	8	0	0	2	0	5	11	3
20代	18	16	16	0	0	3	9	12	26	3	0	3	3	17	26	7
30代	22	18	14	2	0	0	12	15	22	4	2	1	4	33	18	1
40代	24	23	19	3	0	3	8	25	31	3	1	4	6	38	22	6
50代	31	26	16	1	0	2	11	23	35	3	1	3	7	44	13	12
60代	36	30	15	2	0	23	10	33	34	4	0	25	3	53	25	25
70代以上	28	25	26	2	0	26	10	25	37	3	0	32	3	40	37	27
不詳（無回答）	3	5	2	0	0	8	1	5	4	0	0	8	0	5	5	8

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

重要度・満足度ともに平均を上回る結果になっております。

重要度では「重要である」「やや重要である」を合わせると6割超えとなり、また、利用頻度についても「よく利用する」「ときどき利用」を合わせると5割超えとなることから、市民生活に密着した重要な施設であることが伺えます。

満足度では「満足している」「やや満足」を合わせると4割超えになり、また「公共施設の利活用」の中で1位となっております。

課 題

廃棄物処理施設は、市民生活に必要不可欠であることから、継続的かつ安定的に稼働させるために、施設の老朽化対策と維持管理が課題となります。

課題解決への取組み

- ・ごみ焼却施設は、PFI方式により運営しており16年が経過しております。今後、令和13年度まで運営するため基幹的設備改良工事を実施しました。
- ・し尿処理場は稼働から37年が経過し老朽化していることから、川口地内に下水とし尿を共同処理する新施設「し尿受入施設」の整備を進めております。
- ・粗大ごみ処理場及び最終処分場は稼働から43年が経過し老朽化していることから、計画的に大規模な修繕を実施しております。また、適正処理と不適物の搬入対策として、搬入ごみの監視を定期的実施しております。

総合分析

廃棄物処理施設は、市民生活に必要不可欠な施設であります。そのため、継続的かつ安定的な事業の実施が要求されます。

このことから、様々な緊急事態の特定と対応を考慮するとともに、計画的な整備及び修繕を実施し、市民生活に支障をきたすことがないよう適正な維持管理に努めてまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

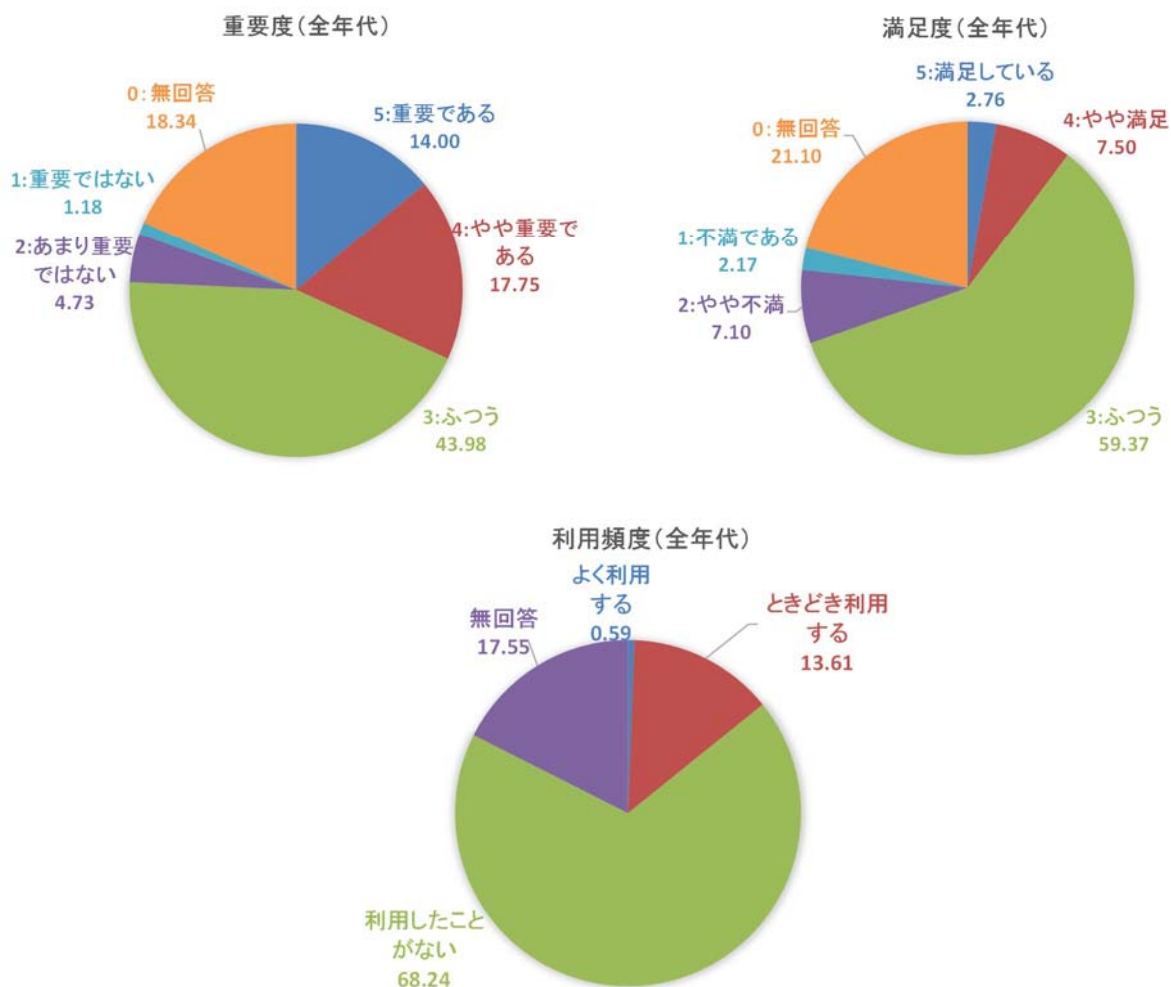
分析担当課	商工課
目 標 名	公共施設の利活用
施 設 名	7 - 1 0 雇用対策関連施設

1. 施設の平均及び順位

7 - 1 0	重 要 度					満 足 度				
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減
雇用対策 関連施設	3.60	16	3.47	19	0.12	3.10	19	3.02	22	0.08
施設別平均	3.72	-	3.63	-	0.09	3.20	-	3.16	-	0.03

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	9	4	3	1	0	2	3	2	11	1	0	2	0	0	16	3
20代	8	9	28	3	0	5	1	7	34	4	2	5	0	4	41	8
30代	11	10	29	1	1	4	1	3	36	6	5	5	0	9	45	2
40代	7	15	37	4	2	7	4	4	51	6	0	7	0	18	48	6
50代	17	13	37	3	2	4	1	7	52	6	2	8	0	12	56	8
60代	9	23	39	5	1	29	3	7	56	7	1	32	2	13	64	27
70代以上	9	13	47	5	0	33	1	6	54	5	1	40	1	12	67	27
不詳（無回答）	1	3	3	2	0	9	0	2	7	1	0	8	0	1	9	8

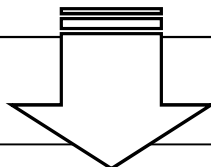
利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

重要度・満足度ともに平均を下回る結果となり、回答分布からは「ふつう」が多くを占めています。年代別の傾向では、年齢層が上昇するにつれて無回答が増え、年金受給年齢層では職業への関心が低くなっていることが伺えます。

課 題

当該施設へ寄せられた意見は特にありませんでしたが、公共施設全般に対しては利便性・質の向上に多くの意見が多く寄せられていることから、施設運営の充実が求められます。



課題解決への取組み

- ・施設を管理運営する指定管理者の資質の向上
- ・職業能力開発短期大学校や職業訓練協会など、関係機関との関係の強化
- ・市民への周知と啓発活動の充実

総合分析

職業訓練や労働者の福利厚生に関する施設という特性上、利用者層が限定的であるため、前回と同じく重要度・満足度ともに施設別平均を下回る結果となりました。

しかし、深刻な人手不足の解消は喫緊の課題であることから、雇用対策関連施設が有する、機能の充実と適切な施設運営に努めていく必要があります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

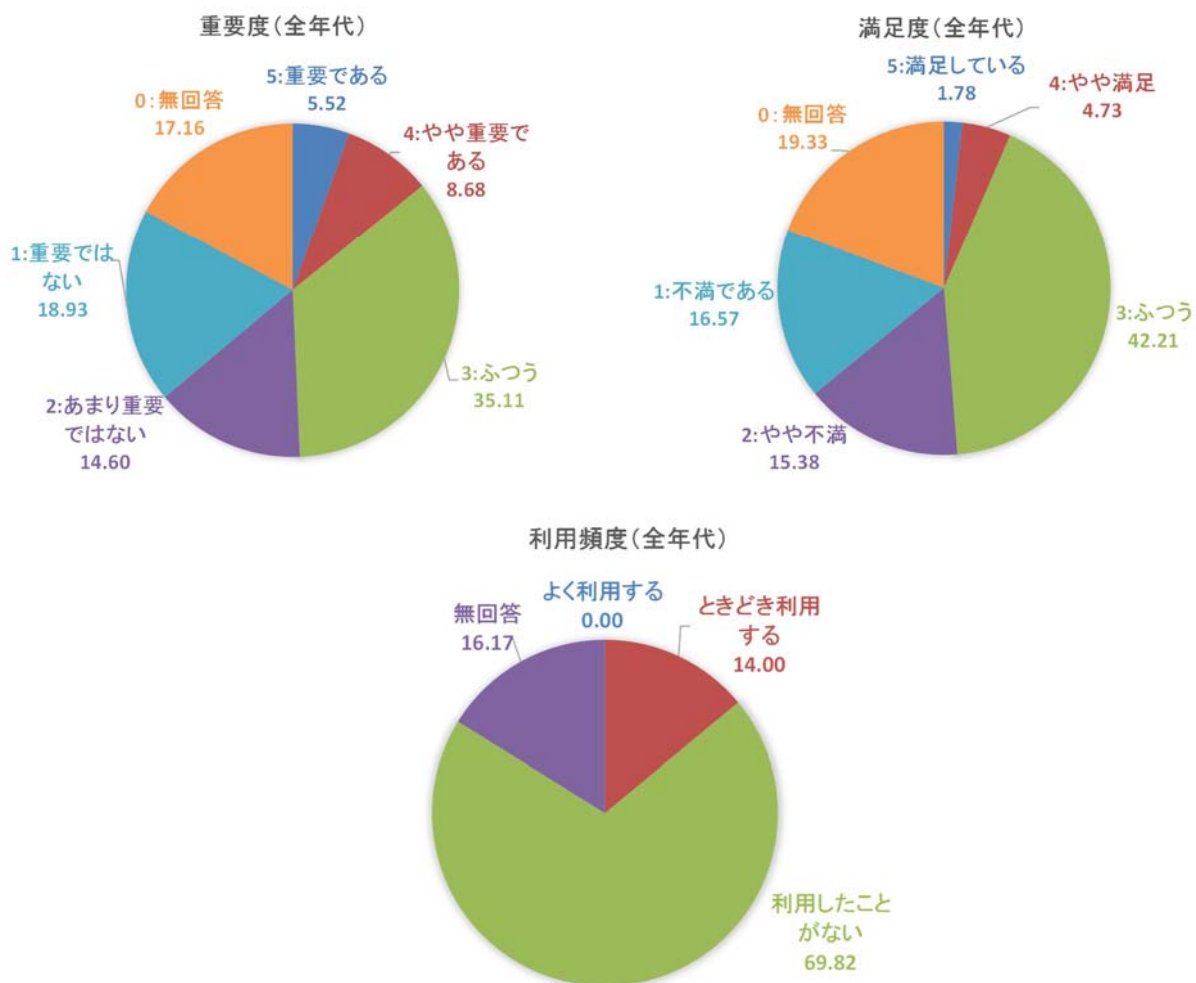
分析担当課	まちづくり課
目 標 名	公共施設の利活用
施 設 名	7 - 1 1 駐車場施設

1. 施設の平均及び順位

7 - 1 1	重 要 度					満 足 度						
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減		
駐車場施設	2.79	26	2.60	26	-	0.19	2.45	26	2.50	26	-	0.05
施設別平均	3.72	-	3.63	-		0.09	3.20	-	3.16	-		0.03

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	6	4	4	2	1	2	3	2	9	2	1	2	0	2	13	4
20代	3	6	28	6	7	3	1	6	30	8	5	3	0	13	33	7
30代	3	3	30	9	8	3	0	4	25	10	13	4	0	10	45	1
40代	1	5	27	15	19	5	1	3	34	12	16	6	0	12	55	5
50代	3	8	25	12	24	4	0	3	32	12	23	6	0	11	58	7
60代	5	6	30	15	24	26	3	2	39	14	18	30	0	12	69	25
70代以上	6	10	30	15	11	35	1	3	39	18	7	39	0	11	71	25
不詳（無回答）	1	2	4	0	2	9	0	1	6	2	1	8	0	0	10	8

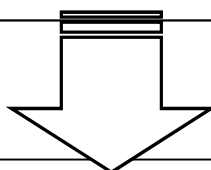
利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

重要度・満足度の回答分布をみても「ふつう」「あまり重要ではない」「重要ではない」が約7割を占める結果となりました。現在は定期駐車場であり利用頻度についても「利用したことがない」が約7割を占め施設の必要性が問われています。

課 題

平成30年に利用者ニーズを踏まえた経常経費の縮減を図るため、機械式駐車場を休止し、屋外の駐車場に限定した簡易な運営形態へと変更しました。現在は17台の駐車スペースに14台が利用している状況です。市民の声として「スカイパーキングは無駄」という意見もあり、地元商店街振興組合や周辺町内会などと今後の活用方法について協議したいと考えています。また、現在使用されていない施設については、定期的な巡回や点検を実施するなど、適正な維持管理を継続する必要があります。



課題解決への取組み

- ・関係者と連携・協議しながら、解体を視野に入れた利活用の検討
- ・駐車場利用者の安定的な確保
- ・施設の保全に向けた適正な維持管理の継続

総合分析

立体駐車場跡地には、治安の向上が地域の活性化に繋がり・安全で安心なまちづくりとして、桂城交番の移転が決まりました。今後は様々なニーズに対応できるように検討が必要であり、解体を視野に入れ解体実施までは、定期的な巡回や点検を実施し、最低限の維持管理に努めてまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

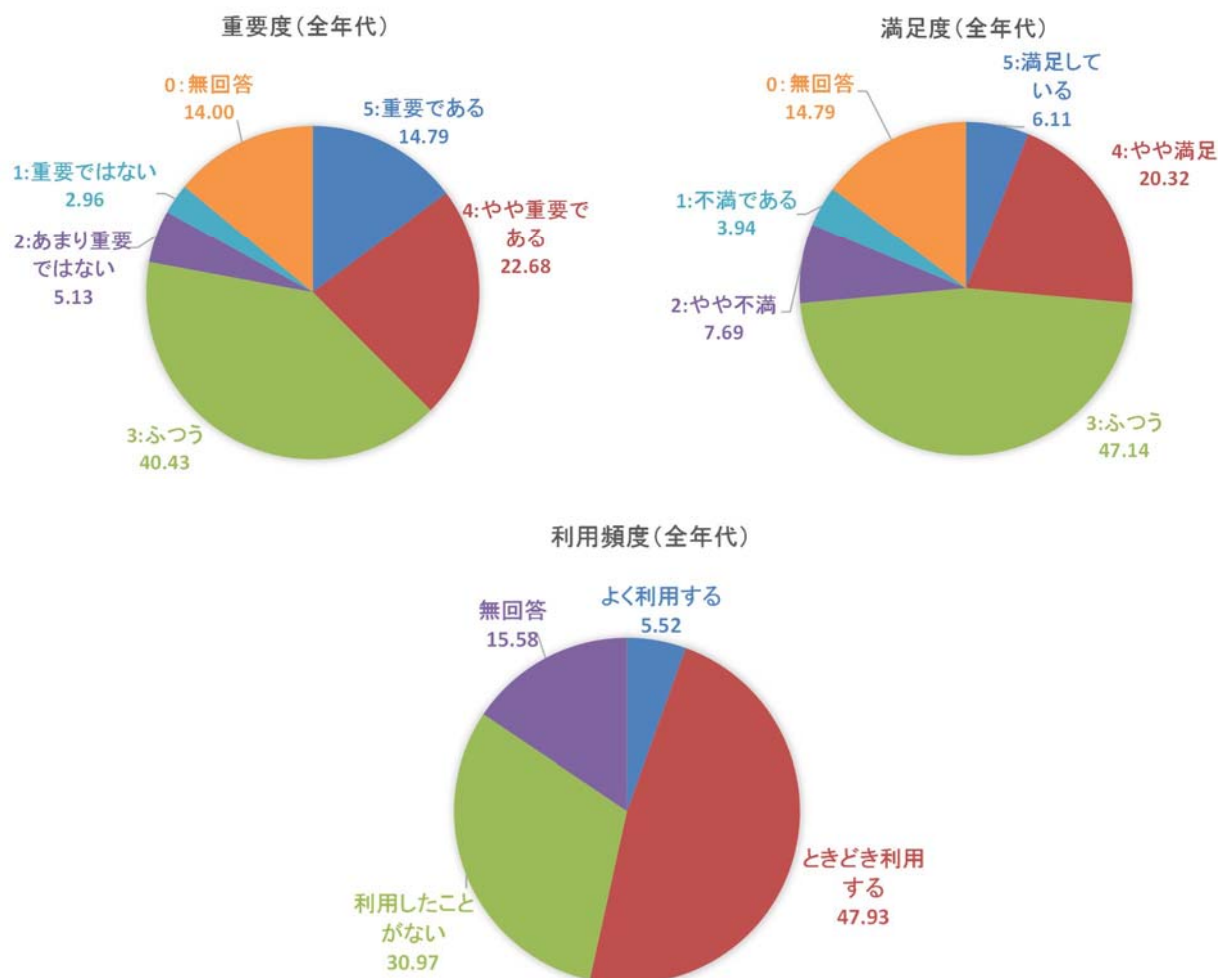
分析担当課	観光課
目 標 名	公共施設の利活用
施 設 名	7 - 1 2 宿泊・温泉関連施設

1. 施設の平均及び順位

7 - 1 2	重 要 度					満 足 度				
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減
宿泊・温泉 関連施設	3.47	21	3.48	18	0.01	3.14	16	3.20	13	0.06
施設別平均	3.72	-	3.63	-	0.09	3.20	-	3.16	-	0.03

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布（％）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	5	3	10	0	0	1	4	5	8	1	0	1	0	7	9	3
20代	11	10	28	1	2	1	6	11	30	2	3	1	4	27	14	8
30代	14	12	24	4	2	0	6	8	27	9	5	1	3	35	17	1
40代	10	18	31	6	4	3	3	18	38	4	5	4	4	41	23	4
50代	9	23	35	2	2	5	3	18	44	4	2	5	5	40	24	7
60代	11	25	36	8	2	24	4	20	46	11	2	23	5	46	31	24
70代以上	13	20	39	4	2	29	5	20	41	7	2	32	6	43	34	24
不詳（無回答）	2	4	2	1	1	8	0	3	5	1	1	8	1	4	5	8

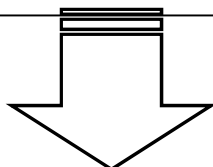
利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

重要度については平均を下回ったものの前年度比較では0.01、満足度については、平均を上回り前年度比較でも0.06の微増が見られました。しかしながら、いずれも高評価については過半数以下のままであることから、施策の周知・認知不足と考えられます。

課 題

施設の魅力をさらにPRして誘客に努める一方、施設の老朽化が進み、維持管理に要する費用が高額となっている。



課題解決への取組み

- ・市広報紙やホームページを利用した情報発信
- ・各施設でのイベント等の実施
- ・温泉というキーワードを活用し、各種イベントで市の温泉施設の紹介
- ・関係団体と連携し、広報活動・啓発活動の継続
- ・計画的な施設改修

総合分析

インバウンド対策も含め滞在型観光を今後より一層推進していく必要があることから、民間との協働による観光施策を更に推進していく必要があります。

国民保養温泉地に指定された市の温泉地を活用したイベントの開催など、滞在型観光に繋げるような取組みを行っていくことが重要と考えます。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

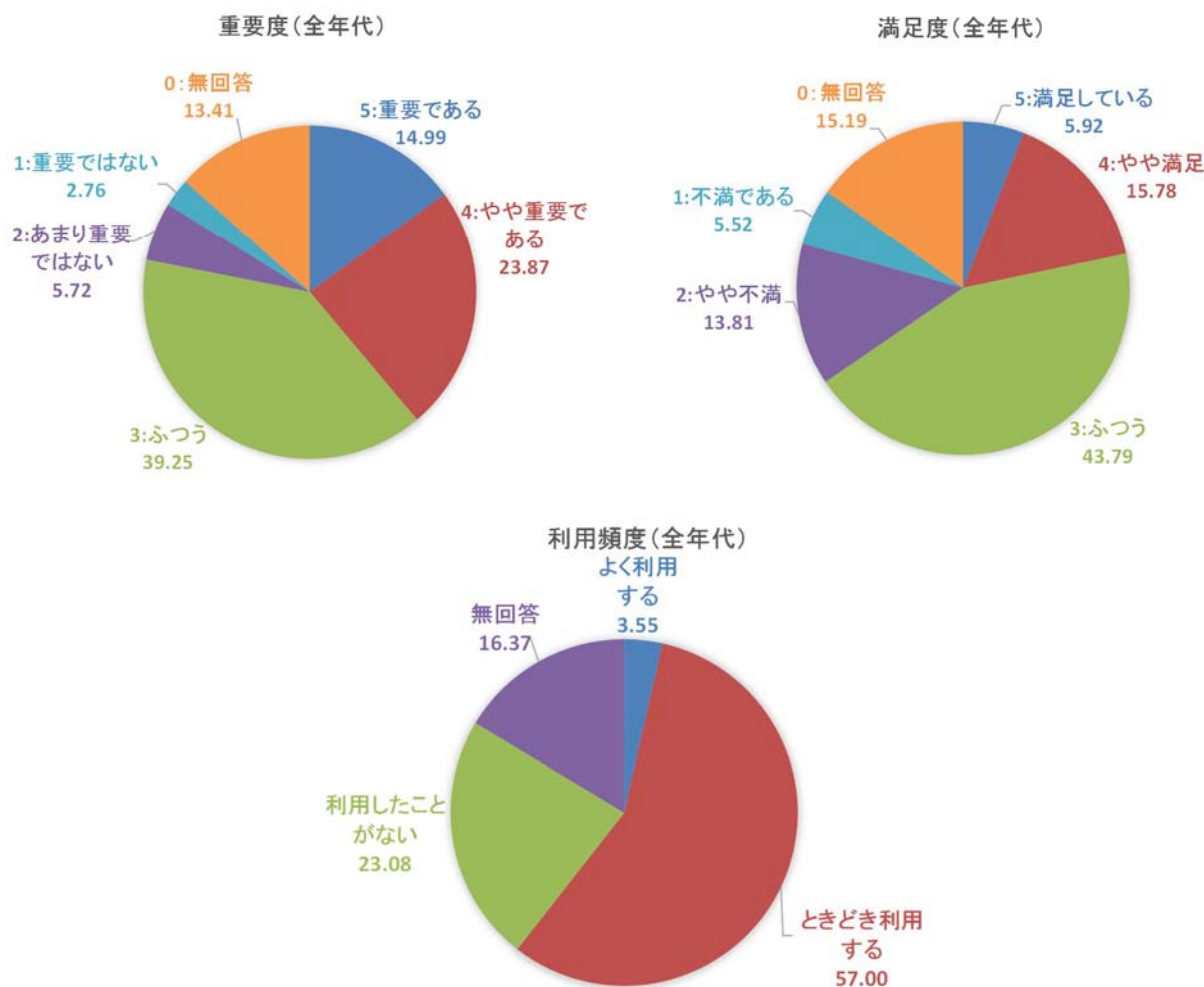
分析担当課	観光課
目標名	公共施設の利活用
施策名	7 - 1 3 観光、物産振興施設

1. 施設の平均及び順位

7 - 1 3	重要度					満足度				
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減
観光・物産振興施設	3.56	19	3.49	16	0.07	3.00	22	3.03	21	0.03
施設別平均	3.72	-	3.63	-	0.09	3.20	-	3.16	-	0.03

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	6	4	8	0	0	1	6	3	7	2	0	1	0	9	7	3
20代	12	17	21	1	1	1	4	9	26	10	2	2	2	31	12	8
30代	15	15	19	2	4	1	6	6	22	10	10	2	5	40	9	2
40代	8	24	29	6	2	3	3	18	30	12	5	4	2	47	18	5
50代	12	14	39	5	2	4	3	18	38	9	4	4	2	52	16	6
60代	8	26	36	11	1	24	2	14	46	15	4	25	5	54	23	24
70代以上	11	19	44	4	3	26	5	10	49	10	2	31	2	48	30	27
不詳（無回答）	4	2	3	0	1	8	1	2	4	2	1	8	0	8	2	8

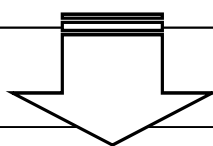
利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

重要度・満足度ともに平均を下回る結果となり、回答分布をみると「ふつう」が全体の4割を占める結果となりました。重要度では、「重要である」「やや重要である」「ふつう」が全体のほぼ8割と多数を占めていますが、満足度では、「ふつう」を除くと「重要である」「やや重要である」と「重要でない」「やや不満」と同等の比率であったことから、満足度を得られる施設となるような運営について検討にしていく必要があると考えられます。

課 題

観光・物産振興施設の重要度・満足度は平均より低い結果であったことから、魅力や期待を持てるような施設維持・運営を市全体で取り組んでいく必要性が感じられます。



課題解決への取組み

・魅力ある施設の維持・運営方法、周遊ルートを確立し情報発信に努める。

総合分析

本市が誇る魅力ある「秋田犬」、「大館曲げわっぱ」や「本場大館きりたんぼ」など、この地域特有の貴重な資源を活用し、体験ができる観光・物産振興施設の情報発信に努め、観光客はもちろん、市民の皆さまからも利用され満足が得られる施設運営が必要であると考えます。

物産振興施設の運営や土産品の充実についてのご意見には、施設管理者と協議し、利用者のサービス向上に努めてまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

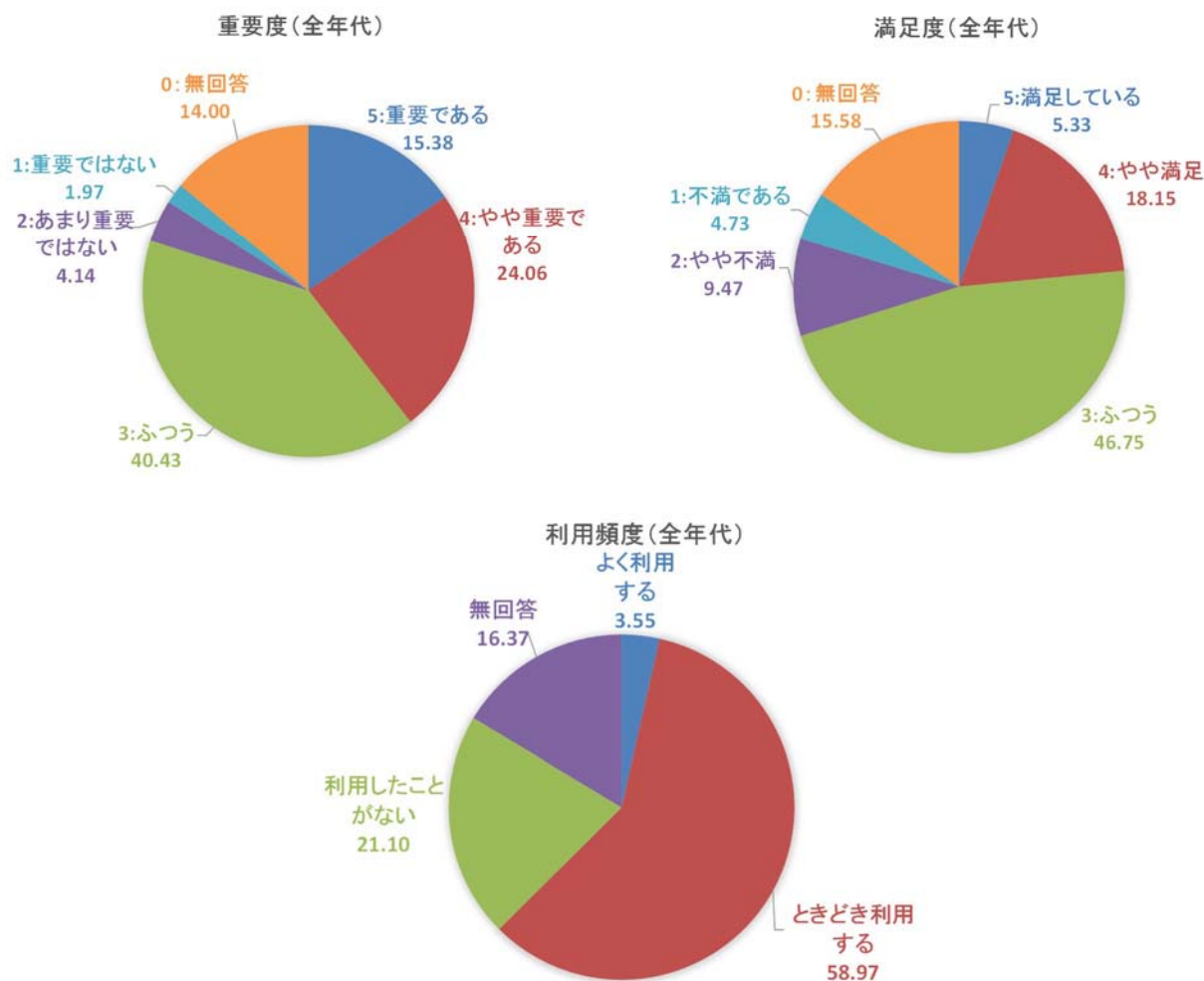
分析担当課	都市計画課
目標名	公共施設の利活用
施設名	7 - 1 4 自然公園、公園施設

1. 施設の平均及び順位

7 - 1 4	重要度					満足度				
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減
自然公園、公園施設	3.59	17	3.54	14	0.04	2.96	23	3.12	17	0.16
施設別平均	3.72	-	3.63	-	0.09	3.20	-	3.16	-	0.03

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	7	2	9	0	0	1	4	4	10	0	0	1	0	9	5	5
20代	10	21	20	1	0	1	5	9	30	6	2	1	2	31	12	8
30代	16	17	20	0	3	0	3	11	28	5	8	1	7	38	10	1
40代	12	20	33	4	1	2	3	18	35	8	5	3	3	50	15	4
50代	10	16	43	2	1	4	4	13	46	5	4	4	1	53	15	7
60代	11	25	30	9	3	28	5	15	36	17	3	30	4	55	19	28
70代以上	9	17	49	4	1	27	2	18	50	5	1	31	1	57	27	22
不詳（無回答）	3	4	1	1	1	8	1	4	2	2	1	8	0	6	4	8

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

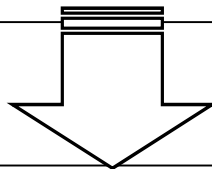
4. 分析

重要度・満足度ともに平均を下回る結果となりました。回答分布をみると、重要度では「重要である」または「やや重要である」が4割を占め、満足度では、「ふつう」が約半数を占めております。施設に対して十分な満足度を得ていない状況であると考えられます。

課 題

「公園の遊具を増やしてほしい。草刈りをしてほしい」、「公園の維持管理に力をいれてほしい」、「公園の整備、遊具の手入れや設置。もっと多くの場所で遊べるようになってほしい」という意見をいただきました。その結果、施策の重要度は下がっているものの、満足度が平均値以下になっていると分析されます。

老朽化した遊具については、安全性を第一に使用禁止としている施設がありますが、「大館市公園遊具長寿命化計画」に基づき使用禁止になっている遊具から順次更新する予定です。また、公園施設の維持管理については、関係団体と連携し使用状況に合わせて清掃や草刈り等を実施しておりますが、頻度が少ないと感じられていることから、今後は実施時期、実施回数について検討する必要があります。



課題解決への取組み

- ・「大館市公園施設長寿命化計画」に基づく老朽化遊具の更新
- ・公園，緑地の草刈りの継続
- ・環境美化団体に対する支援継続と団体数の増加

総合分析

「公園の遊具を増やしてほしい。草刈りをしてほしい」「公園の維持管理に力をいれてほしい」、「公園の整備、遊具の手入れや設置。もっと多くの場所で遊べるようになってほしい」という意見から、現在使用禁止になっている老朽化した遊具の使用状況に合わせて「大館市公園施設長寿命化計画」に基づき更新すること、関係団体と連携して使用状況に合わせた清掃や草刈り等の一層の強化が必要と分析されます。

今回の結果を念頭に、老朽化した遊具の「大館市公園施設長寿命化計画」に基づく更新、草刈りの実施時期、実施回数を検討し市民・関係団体との連携を一層強化して公園整備を推進してまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

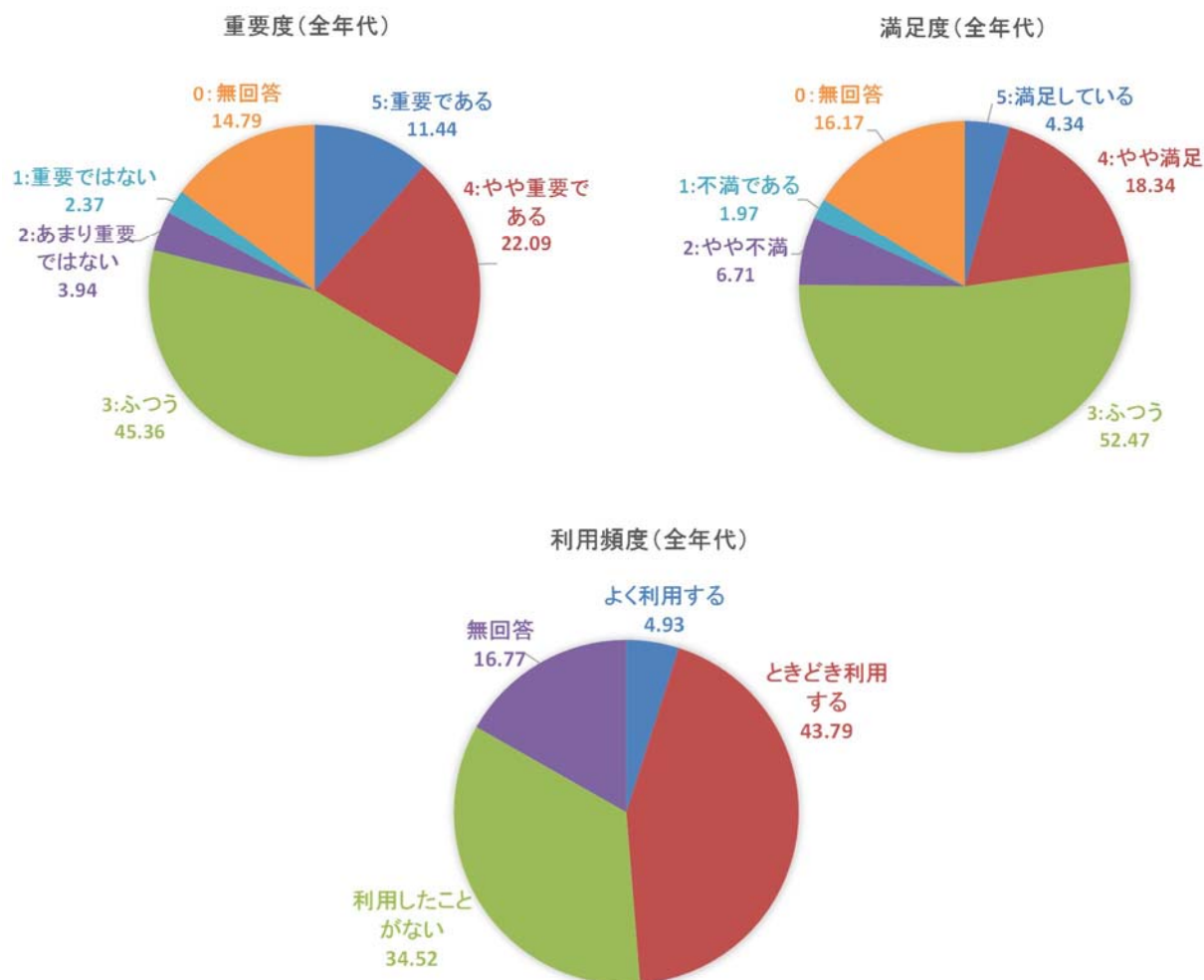
分析担当課	中央公民館
目 標 名	公共施設の利活用
施 策 名	7 - 1 5 教養施設、コミュニティ関連施設

1. 施設の平均及び順位

7 - 1 5	重 要 度					満 足 度				
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減
教養施設、 コミュニティ関連施設	3.57	18	3.43	21	0.14	3.13	17	3.20	14	0.07
施設別平均	3.72	-	3.63	-	0.09	3.20	-	3.16	-	0.03

小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布（％）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	6	2	7	2	0	2	3	3	10	1	0	2	0	5	11	3
20代	5	11	33	1	0	3	1	11	36	2	0	3	1	19	24	9
30代	6	13	31	2	3	1	1	8	34	7	4	2	2	23	30	1
40代	6	18	40	4	1	3	2	17	43	4	1	5	4	41	21	6
50代	8	20	37	3	2	6	2	18	41	6	3	6	3	39	29	5
60代	10	28	33	4	4	27	5	19	45	8	1	28	3	47	28	28
70代以上	14	17	47	3	1	25	8	13	53	5	0	28	12	43	27	25
不詳（無回答）	3	3	2	1	1	8	0	4	4	1	1	8	0	5	5	8

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

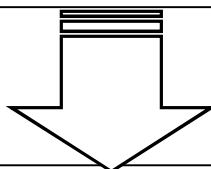
重要度は平均を下回り、満足度では平均を上回りました。順位を見ると、重要度 21 位は前回 18 位を下回り、満足度 14 位は前回 17 位を上回る結果となりました。

回答分布を見ると重要度は「重要・やや重要」が 33.53%と前回から 9.66 ポイント大幅に減少した一方、「ふつう」が 45.36%で前回から 4.22 ポイント増加し半数に近づきました。満足度は「ふつう」が過半数を超え、「不満・やや不満」は 8.68%となっています。

年代別の回答傾向からは、利用頻度が高い方は 70 代以上に集中していることが読み取れ、全体的には、重要・やや重要とする人が減少し、重要度の低下が分析できます。

課 題

- ・公民館等の生涯学習施設は、生涯学習や地域活動においては無料で使用でき、地域コミュニティ活動やサークル活動などの拠点として、様々な用途に利用いただいております。しかしながら、利用頻度の高い方が高齢者に偏っていることや、利用者の高齢化の進行、施設の重要度の低下などの問題があります。
- ・所管施設は 30 施設を超えますが、年々老朽化していることから、利用者に安全安心に使用していただくためには、施設の計画的な修繕が必要です。



課題解決への取組み

- ・市広報紙や公民館報を活用した、幅広い年齢層の公民館利用促進に向けた情報発信
- ・幅広い年齢層に対応した各種主催事業の開催、内容の充実
- ・市公共施設等総合管理計画に基づいた施設・設備の計画的な改修・修繕

総合分析

市の教養施設・コミュニティ関連施設は、市民の皆さまにとって優先度や重要度の高い施設とは受け取られていないようです。しかしながら、地域コミュニティ活動、生涯学習活動の場として、或いは避難所として、利用者のニーズに対応した施設運営が必要と考えております。評価や施設利用者が中高齢者に偏っている点や、人口減少に伴う利用者の減少については引き続き課題となります。

施設・設備の改修・修繕に関しては、市公共施設等総合管理計画に基づき、限られた財源の中で優先順位を見極めながら機能維持に努め、利用者の皆さまに安心して継続的にご利用いただけるよう努めてまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

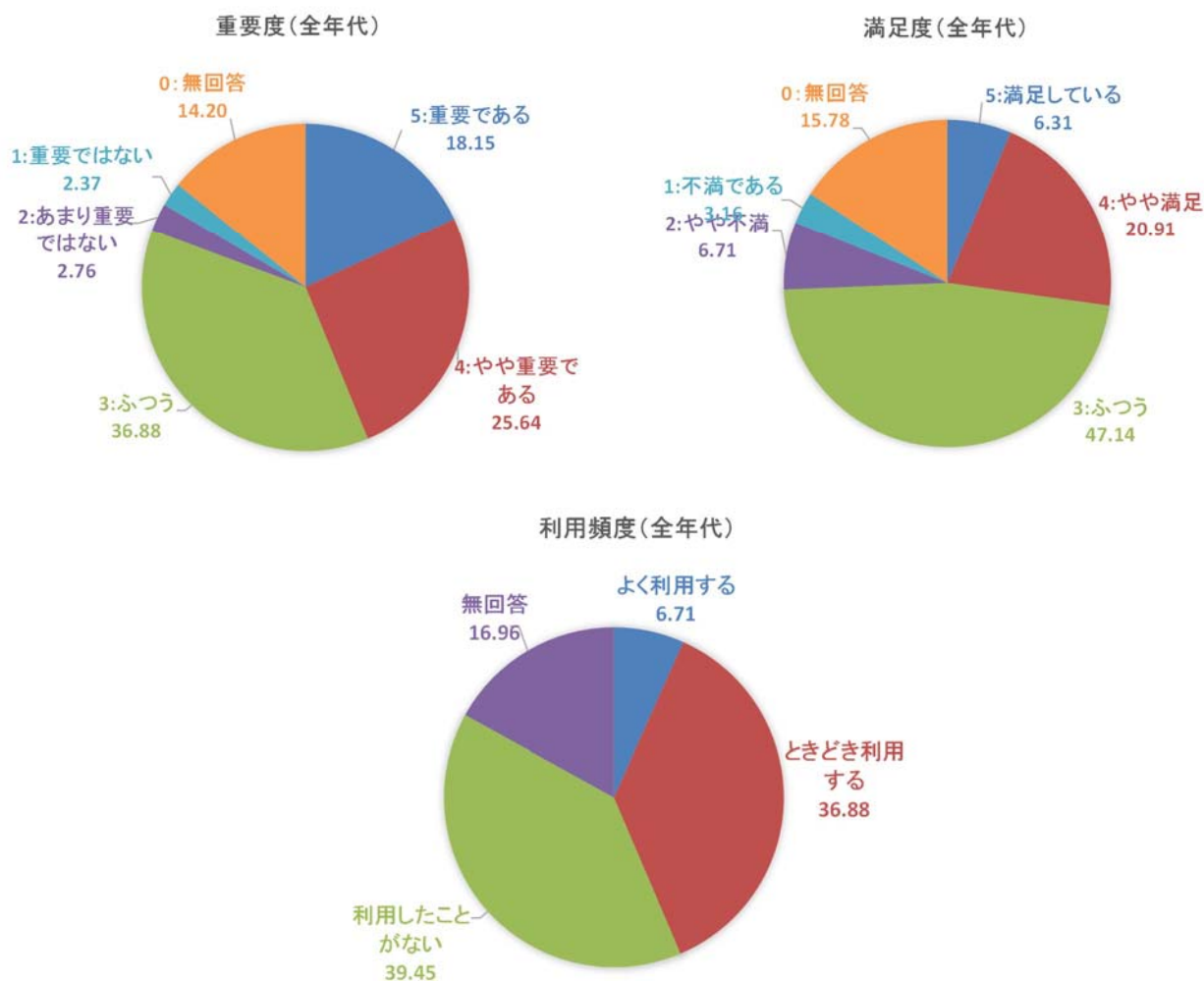
分析担当課	生涯学習課
目 標 名	公共施設の利活用
施 設 名	7 - 1 6 図書館

1. 施設の平均及び順位

7 - 1 6	重 要 度					満 足 度					
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減	
図書館	3.75	13	3.63	13	-	0.12	3.38	5	3.24	10	0.13
施設別平均	3.72	-	3.63	-		0.09	3.20	-	3.16	-	0.03

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	7	5	6	0	0	1	5	5	8	0	0	1	2	5	9	3
20代	11	14	23	1	2	2	5	10	31	3	2	2	4	21	20	8
30代	10	19	21	1	3	2	2	11	29	7	4	3	2	25	28	1
40代	14	22	29	4	1	2	4	20	33	10	1	4	8	33	22	9
50代	15	21	33	3	1	3	4	19	41	5	3	4	4	33	32	7
60代	18	26	30	2	3	27	6	20	44	6	3	27	5	34	42	25
70代以上	14	20	43	2	1	27	5	19	48	2	2	31	8	33	41	25
不詳（無回答）	3	3	2	1	1	8	1	2	5	1	1	8	1	3	6	8

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

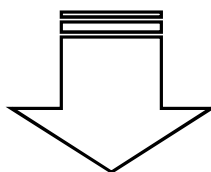
4. 分析

重要度はほぼ平均ですが、全26施設中13位にとどまっています。満足度は平均よりも高くなっていますが、前回よりも下がって10位となっています。

回答分布での重要度では、「重要である」「やや重要である」との回答が5割を下回っています。満足度では「ふつう」との回答が一番多く、5割近くとなっています。

課 題

「図書館の使い勝手や、駐車場不足、子どもの学びやすい環境整備。」といった施設の更なる充実を求める要望のほか、「図書館の選書、期限が過ぎたら販売し財源を確保する。」などの意見をいただいております。これまでも広報をはじめ図書館だよりなどで周知はしていましたが、市民への周知不足が考えられます。



課題解決への取組み

- ・ 駐車可能台数は、増設された駐車場と既存の駐車場を合わせて58台です。今後、イベント開催時には、近隣の駐車場をご案内しながら利用促進に努めます。
- ・ 継続した図書購入を行うと共に、新着図書や事業等について各種媒体を活用し、積極的な情報発信に努めます。
- ・ 「人」と「人」を繋ぐ役割が今後の図書館には求められていくと考えますので、各種研修を行い、職員の資質向上を図って参ります。
- ・ 図書館の資料選択については、社会や出版の動向、見識を備えた専門職としての図書館員が、しっかりとした収集方針と選択基準に基づき、適正なコレクション構築に努めます。

総合分析

市立図書館4館の事業は、平成25年度の指定管理制度導入開始から10年目になります。この間、指定管理者が子どもゆめ基金の助成事業を活用することで、これまでになかった読書以外で図書館を利用する意欲を引き出す事業や図書館ボランティアとの連携による様々な年齢層への読書の楽しさを感じてもらえる事業を展開してきました。さらに、松下村塾や多目的室の活用が、新たな事業展開を押し進める役割を果たしていると考えられます。

また、公立図書館であることから、記録資料の保存や累積による世代間を通じた文化の継承、発展に寄与するといった目的もあります。

今後は、指定管理者と共に市民の皆さんに図書館を「自分の本棚」と思っていただけのような蔵書の充実を図るとともに、情報の提供とより多くの人々が足を運びやすい施設となるよう取り組んでまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

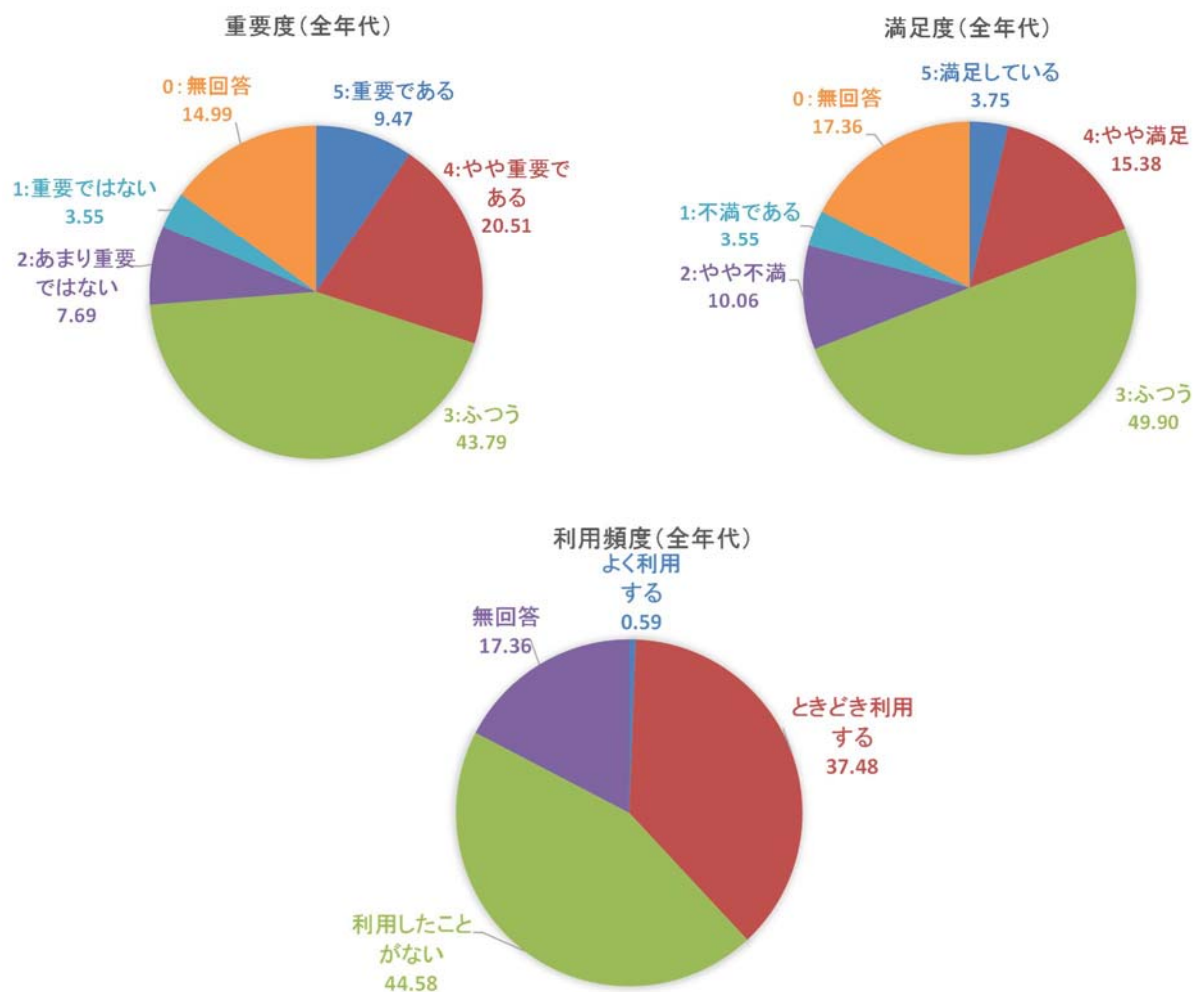
分析担当課	歴史文化課
目標名	公共施設の利活用
施設名	7 - 17 文化伝統関連施設

1. 施設の平均及び順位

7 - 17	重要度					満足度					
	第16回		第17回		増減	第16回		第17回		増減	
文化伝統 関連施設	3.40	23	3.29	22	0.11	3.09	20	3.07	20	-	0.02
施設別平均	3.72	-	3.63	-	0.09	3.20	-	3.16	-	-	0.03

小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	6	3	8	1	0	1	4	4	9	1	0	1	0	7	9	3
20代	6	8	32	3	2	2	2	7	34	5	3	2	0	16	29	8
30代	8	9	29	2	7	1	2	9	29	9	5	2	0	27	27	2
40代	3	18	36	9	2	4	1	18	34	10	2	7	2	32	28	10
50代	5	19	40	6	1	5	0	14	47	8	2	5	0	30	38	8
60代	8	26	32	10	3	27	4	15	43	12	2	30	0	35	46	25
70代以上	8	19	43	7	2	28	4	10	53	4	3	33	0	41	42	24
不詳（無回答）	4	2	2	1	1	8	2	1	4	2	1	8	1	2	7	8

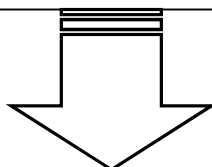
利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

重要度の平均値は、年代別に見ると10代が3.8で突出して高く、20代以上では3.2~3.3でした。また満足度の平均値を年代別にみると、10代が3.6である一方20代以上では2.9~3.1でした。10代が重要度、満足度ともに他の年代より高くなっています。これは、学校教育におけるふるさとキャリア教育（地域の宝を理解するための学習や校外学習など）および大館郷土博物館主催の発明クラブやこども科学教室の開催による効果が現れたものであると考えられます。

課 題

- ・文化施設のアピールが少ない。もっと宣伝してほしい。



課題解決への取組み

- ・郷土の自然・文化・歴史などへの関心を高めるために各種講座等を開催するなどしてアウトリーチ活動の強化を検討します。
- ・フェイスブックページ、ツイッターなどのソーシャルメディアを通じた情報発信を強化し、マンネリ化しないように工夫します。

総合分析

「郷土博物館、鳥潟会館等の文化伝統関連施設を訪れたことがない」といった市民が少なからずおります。個々人の趣味・関心はそれぞれ違いますが、何らかのきっかけでいざ入館してみると満足していただけることが多いです。ソーシャルメディアを積極的に活用するなどして教育普及活動を地道に継続してまいります。10代の関心が高いことに明るさを感じます。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

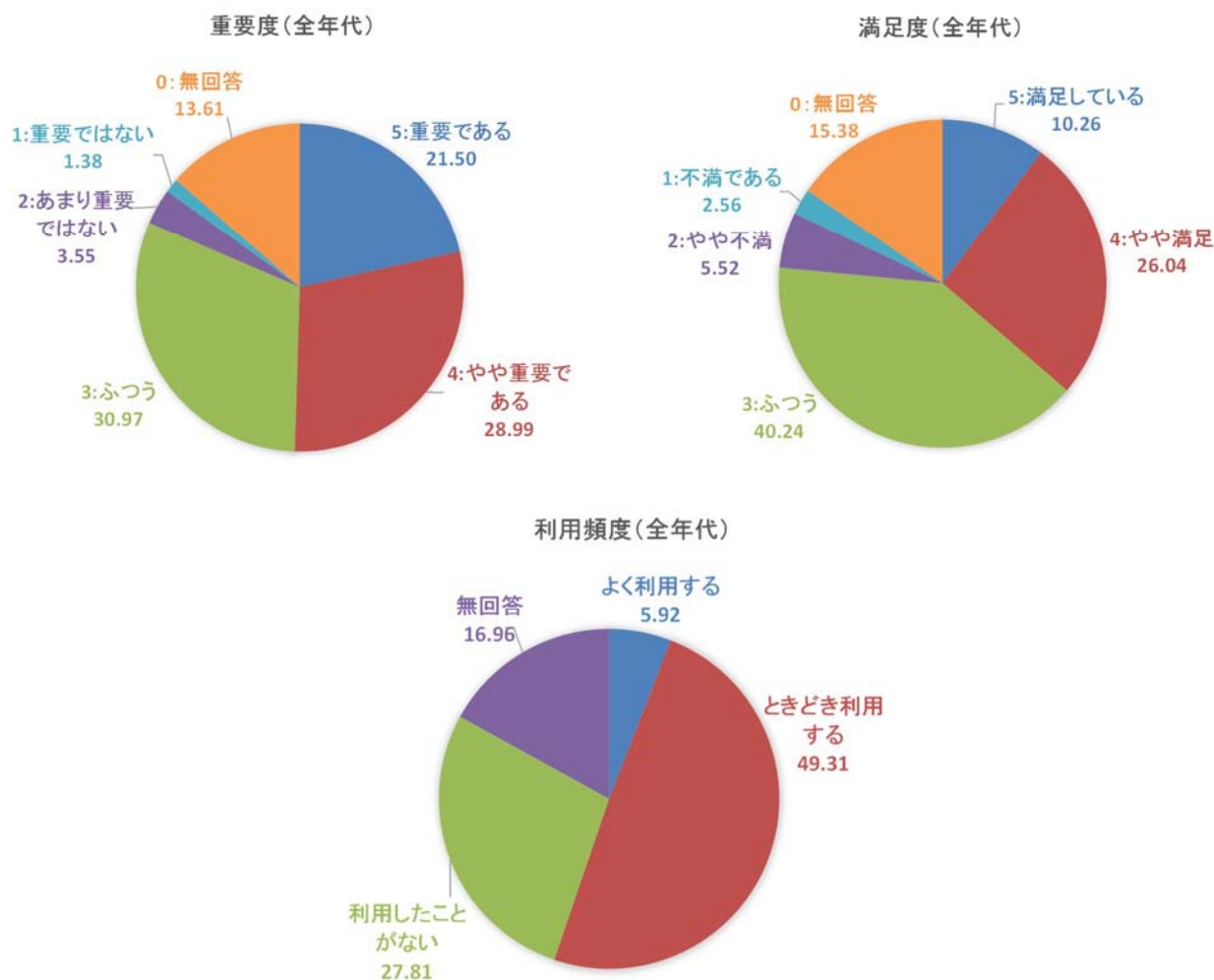
分析担当課	スポーツ振興課
目 標 名	公共施設の利活用
施 設 名	7 - 1 8 体育館

1 . 施設の平均及び順位

7 - 1 8	重 要 度					満 足 度						
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減		
体育館	3.79	12	3.76	12	-	0.02	3.46	4	3.42	4	-	0.04
施設別平均	3.72	-	3.63	-		0.09	3.20	-	3.16	-		0.03

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2 . 回答分布（％）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	7	6	5	0	0	1	6	6	5	1	0	1	2	10	4	3
20代	16	17	17	2	0	1	4	21	22	3	2	1	5	30	9	9
30代	11	18	20	4	2	1	7	13	21	8	5	2	4	35	16	1
40代	16	29	21	0	2	4	12	22	26	3	3	6	8	41	16	7
50代	14	28	27	2	1	4	8	19	38	6	1	4	4	45	20	7
60代	27	26	23	4	1	25	7	28	41	3	1	26	5	42	34	25
70代以上	14	21	41	6	0	25	7	20	46	4	0	30	2	43	36	26
不詳（無回答）	4	2	3	0	1	8	1	3	5	0	1	8	0	4	6	8

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

重要度は約50%が「重要である」「やや重要である」との回答ですが、前回より約5%減少しています。

満足度は約36%が「満足している」「やや満足」との回答ですが、前回より約6%減少しています。

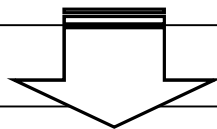
一方で、重要度、満足度の両方で「無回答」が増えていることから、施設に対する関心が薄れている状況と考えられます。

課 題

「壊れる前に修繕してほしい」「一過性の大会誘致や合宿誘致のための施設新設や維持管理は財政負担が大きくなる」という意見をいただいております。

また、利用料について、「高い」という意見がある一方で、「利用料金を上げて良好な状態を維持し、受益者負担の啓発を」という意見もいただいております。

このことから、施設の適切な修繕や維持管理が求められている状況です



課題解決への取組み

- ・利用料の用途を明確にして、利用者の理解を得る。
- ・大館市スポーツ施設長寿命化計画に基づいた、計画的な修繕の実施

総合分析

施設が壊れる前の修繕を望む声が多数ありました。市では、スポーツ施設長寿命化計画により、施設の今後の方向性を定めています。それぞれの施設の状況に合わせて計画的に修繕を進め、適切な維持管理による施設の長寿命化を図ることで、満足度の向上を目指します。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

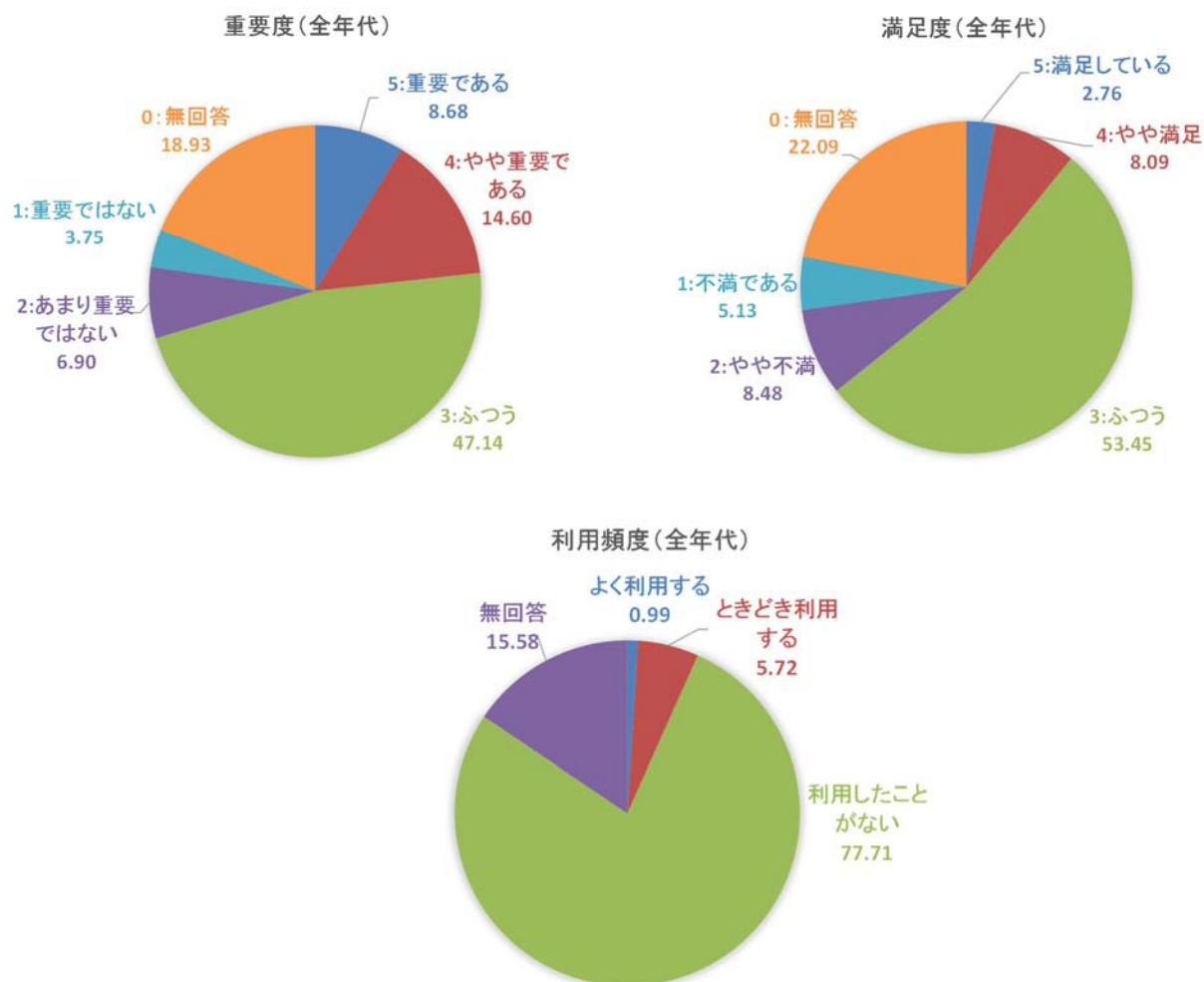
分析担当課	スポーツ振興課
目 標 名	公共施設の利活用
施 策 名	7 - 1 9 武道館

1 . 施設の平均及び順位

7 - 1 9	重 要 度					満 足 度				
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減
武道館	3.39	24	3.22	23	0.17	3.02	21	2.93	23	0.08
施設別平均	3.72	-	3.63	-	0.09	3.20	-	3.16	-	0.03

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2 . 回答分布（％）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	6	2	9	0	0	2	3	2	12	0	0	2	0	0	16	3
20代	4	7	32	3	3	4	2	4	33	4	4	6	1	4	41	7
30代	4	7	30	4	6	5	0	5	31	5	9	6	2	4	49	1
40代	6	10	43	6	2	5	4	6	42	9	3	8	2	4	59	7
50代	7	14	41	8	1	5	1	4	53	8	4	6	0	8	62	6
60代	7	16	40	6	4	33	2	12	48	8	3	33	0	4	78	24
70代以上	8	15	41	8	1	34	2	6	46	9	1	43	0	5	79	23
不詳（無回答）	2	3	3	0	2	8	0	2	6	0	2	8	0	0	10	8

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

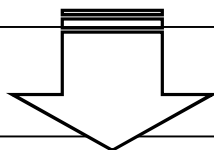
重要度は「重要である」「やや重要である」が約23%となり、前回より約9%減少しています。満足度は「満足している」「やや満足」が約11%となり、こちらも前回より5%減少しています。

一方で「ふつう」「無回答」が半数以上を占め、前回より増加していることから、施設に対する評価が見えにくくなっています。

課 題

武道場に対する直接的意見はありませんでしたが、花岡総合スポーツ公園の施設として捉えると、「中心部から遠くアクセスが悪い」という意見が目立ちました。

また、武道場に対する意見がみられないのは、周知不足による利用者の少なさと、アクセス面での利用控えと考えられます。



課題解決への取組み

- ・市広報紙やホームページを活用した施設の情報発信
- ・武道場を利用したスポーツ教室や健康教室の開催を通じた魅力発信

総合分析

旧武道館の解体後、市内の武道場は花岡総合スポーツ公園のみとなりました。旧武道館の利用者の大半が、代替施設として市立第一中学校の武道場を利用していることを考慮すると、交通アクセスと施設の魅力は前回から向上しているとは言えません。

今後は、これまで以上に施設をPRし、魅力の向上につながる環境整備を進めてまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

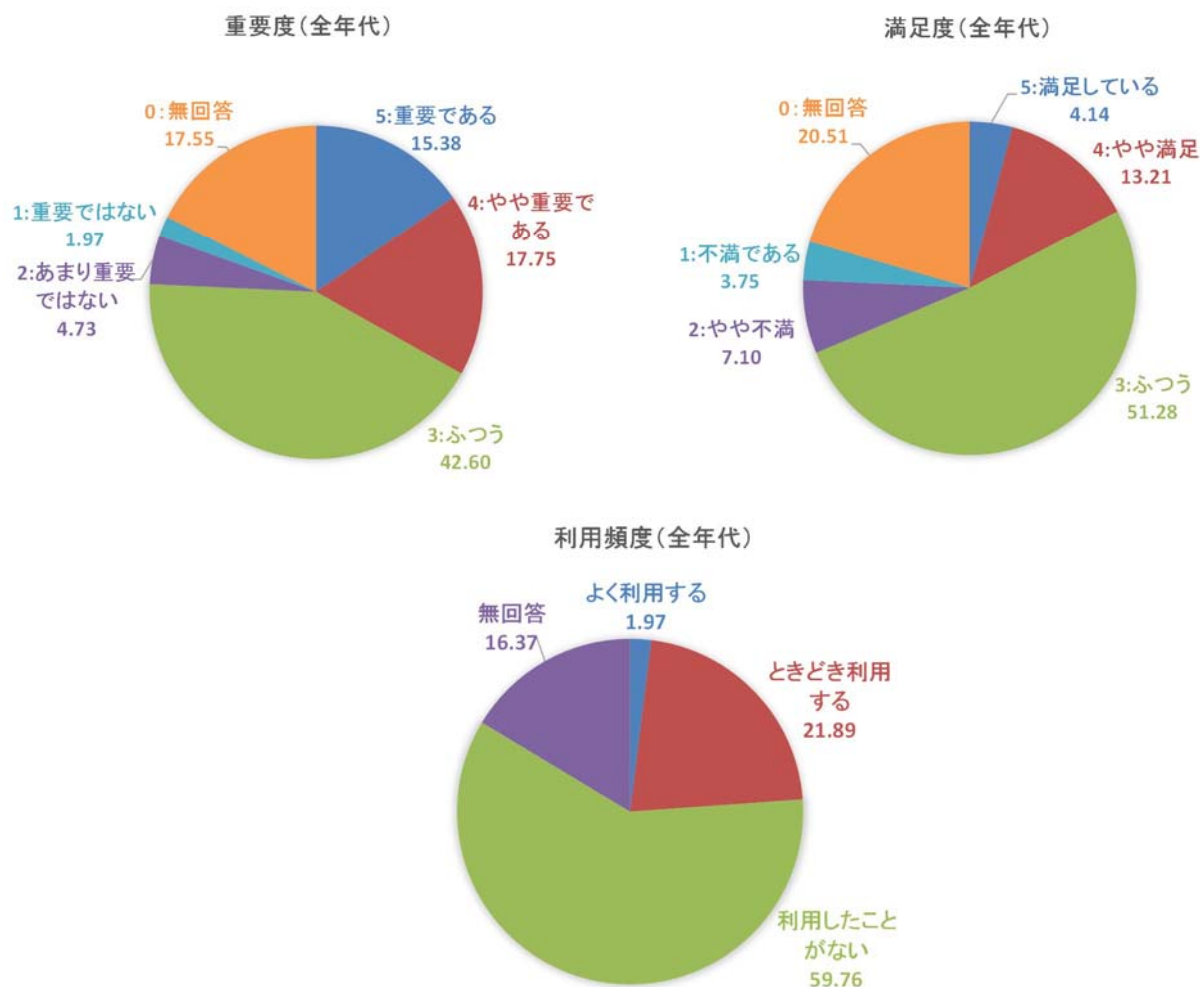
分析担当課	スポーツ振興課
目 標 名	公共施設の利活用
施 設 名	7 - 2 0 野球場

1. 施設の平均及び順位

7 - 2 0	重 要 度					満 足 度				
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減
野球場	3.66	15	3.48	17	0.18	3.25	15	3.09	19	0.16
施設別平均	3.72	-	3.63	-	0.09	3.20	-	3.16	-	0.03

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布（％）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	7	4	6	0	0	2	3	4	9	1	0	2	1	3	12	3
20代	7	13	28	2	1	2	2	11	29	5	3	3	1	17	26	9
30代	14	6	26	4	3	3	3	6	28	7	8	4	4	17	33	2
40代	10	16	37	3	2	4	4	10	43	5	3	7	2	19	44	7
50代	11	13	44	3	0	5	1	9	52	6	2	6	1	19	49	7
60代	16	14	35	5	3	33	4	11	48	8	1	34	1	20	61	24
70代以上	11	21	36	7	0	32	4	13	45	4	1	40	0	15	69	23
不詳（無回答）	2	3	4	0	1	8	0	3	6	0	1	8	0	1	9	8

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

重要度、満足度ともに平均を下回る結果となりました。「重要である」「やや重要」が33%であるのに対し、「満足している」「やや満足」は17%であり、重要な施設であるが、取組みが不十分と認識されているものと考えられます。

利用頻度については「よく利用している」「ときどき利用している」が23%でした。「利用したことがない」は59%と、半数を超えています。

課 題

「野球場の数が他の競技の施設より多い」、「野球場の整備をもう少ししてほしい」、「野球場のトイレが汚い」といった、施設の適切な維持管理を求める意見や、インターネット予約の導入を希望する意見をいただいております。

課題解決への取組み

- ・施設の計画的な補修・改修
- ・長寿命化計画における各々の施設の方針に基づいた維持管理

総合分析

比較的大きな規模の大会で利用される達子森野球場、田代野球場については、スタンド防水工事やグラウンドの排水設備工事などの大規模工事を行ってきたところです。

利用状況や修繕の費用対効果を見極めながら、市スポーツ施設長寿命化計画に基づき、施設ごとに適切な維持管理に努めてまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

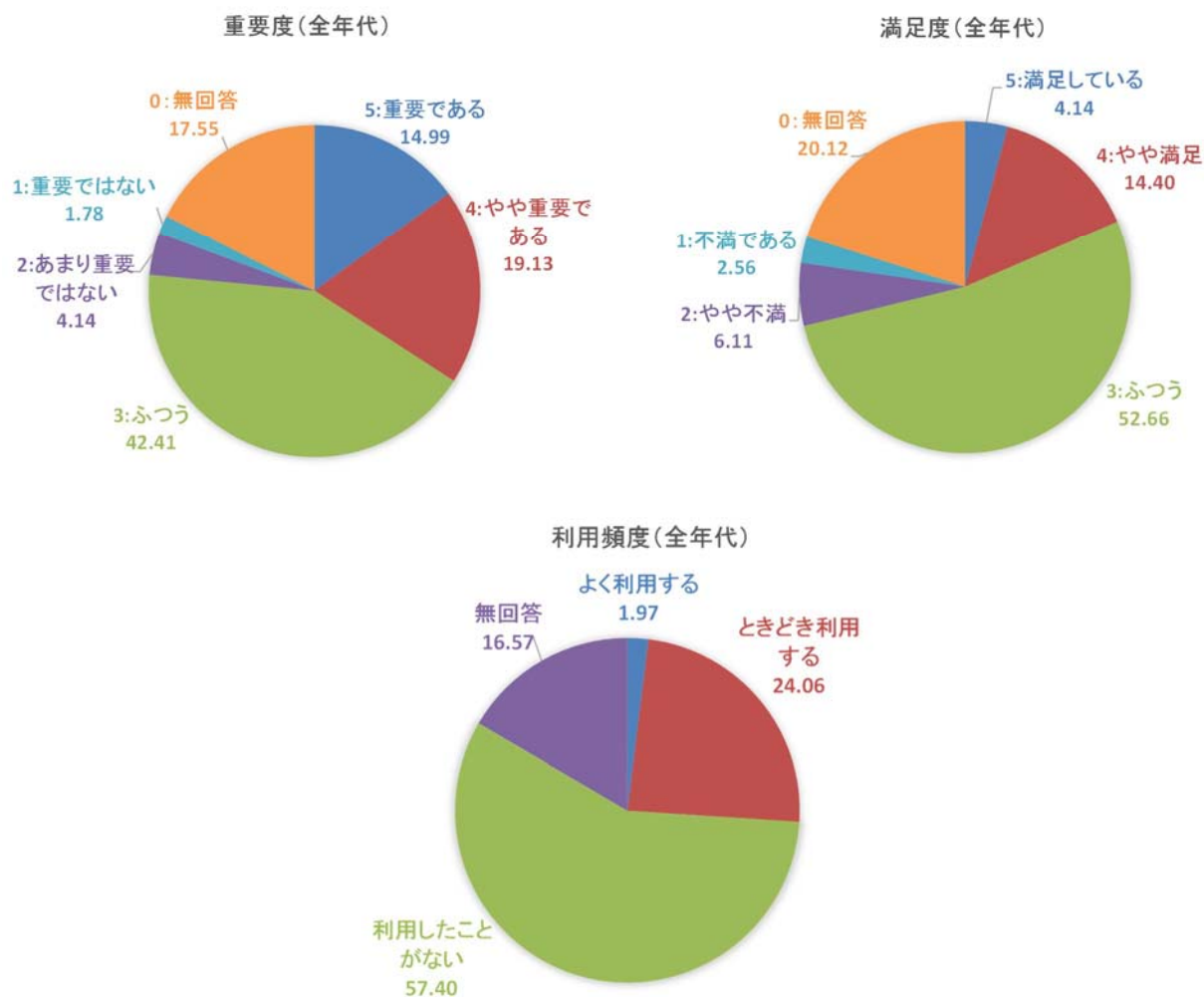
分析担当課	スポーツ振興課
目 標 名	公共施設の利活用
施 設 名	7 - 2 1 競技場・グラウンド

1. 施設の平均及び順位

7 - 2 1	重 要 度					満 足 度				
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減
競技場・グラウンド	3.68	14	3.50	15	0.18	3.30	11	3.14	15	0.16
施設別平均	3.72	-	3.63	-	0.09	3.20	-	3.16	-	0.03

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	6	6	5	0	0	2	4	7	6	0	0	2	1	6	9	3
20代	8	9	33	0	1	2	3	8	37	1	2	2	0	19	26	8
30代	15	8	25	4	2	2	3	7	31	7	6	2	3	17	35	1
40代	10	17	37	2	2	4	3	9	47	4	2	7	2	26	36	8
50代	12	16	40	3	0	5	3	12	48	7	1	5	2	25	42	7
60代	12	18	34	5	3	34	2	15	46	7	0	36	2	17	61	26
70代以上	11	19	38	7	0	32	3	13	45	5	1	40	0	12	72	23
不詳（無回答）	2	4	3	0	1	8	0	2	7	0	1	8	0	0	10	8

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

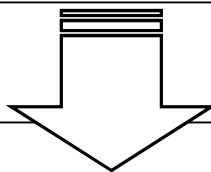
4. 分析

重要度、満足度ともに平均を下回る結果となっています。「重要である」「やや重要である」の合計が34%であることに對し、「よく利用する」「ときどき利用する」が26%であり、重要性は認識されつつも、利用に繋がっていません。また「満足している」「やや満足」が19%であり、重要な施設であるが、満足度は高くないと認識されています。

課 題

「屋根があると雨天でも活用の幅が広がるのでは」という、天候に左右されない施設の整備を求める意見や、長根山陸上競技場については、大規模大会に對するための改修を提案する意見をいただいております。

一方で、二井田陸上競技場や比内グラウンドについては「場所も知らない」という声もあり、情報発信の少なさから利用につながっていないことも考えられます。



課題解決への取組み

- ・市民のニーズに応じた施設整備
- ・広報紙やホームページ、SNSを活用した施設利用の促進

総合分析

施設の利用率の向上や活用の幅を広げるための前向きな意見を踏まえ、市民のニーズを的確に把握し、その声を生かした施設整備の実現に努めます。

また、存在自体の知名度が低い施設があることから、あらゆる媒体や手法を活用した情報発信に取り組んでまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

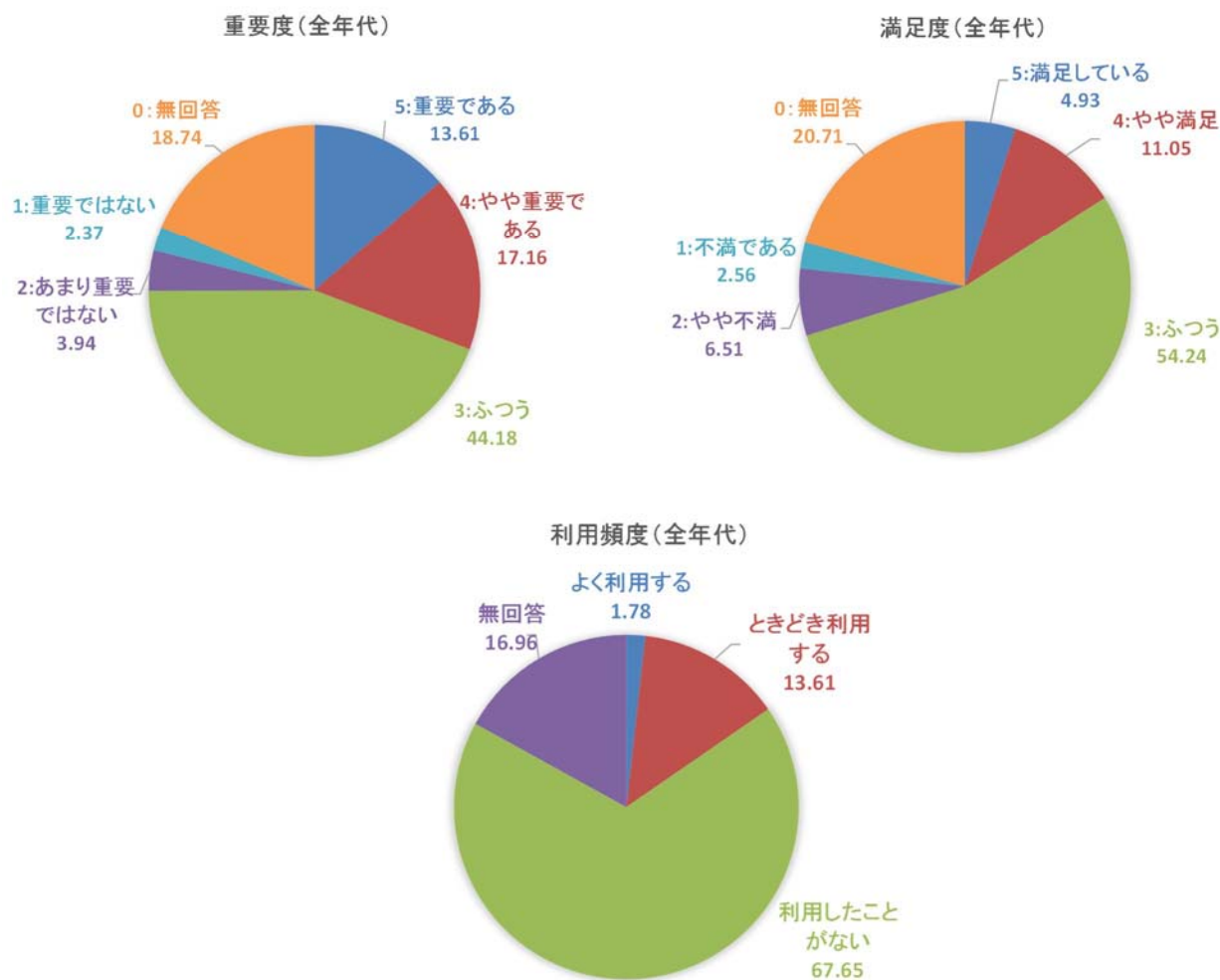
分析担当課	スポーツ振興課
目 標 名	公共施設の利活用
施 設 名	7 - 2 2 テニスコート

1. 施設の平均及び順位

7 - 2 2	重 要 度					満 足 度						
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減		
テニスコート	3.56	20	3.44	20	-	0.12	3.32	10	3.12	16		0.20
施設別平均	3.72	-	3.63	-		0.09	3.20	-	3.16	-		0.03

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	8	3	7	0	0	1	5	4	9	0	0	1	3	3	10	3
20代	6	12	31	0	1	3	2	4	40	2	2	3	0	10	35	8
30代	12	6	29	2	3	4	4	3	32	7	5	5	3	10	42	1
40代	8	15	37	5	2	5	4	7	47	5	2	7	1	14	49	8
50代	9	17	42	2	1	5	3	12	48	7	1	5	0	13	56	7
60代	13	18	35	3	4	33	3	16	45	8	1	33	1	12	68	25
70代以上	11	14	39	7	0	36	3	9	48	3	1	43	1	6	74	26
不詳（無回答）	2	2	4	1	1	8	1	1	6	1	1	8	0	1	9	8

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

重要度・満足度は平均を下回る結果となっています。重要度では「重要である」「やや重要である」が合わせて全体の30.77%にとどまり、「ふつう」が44.18%を占める一方で、「無回答」が18.74%となっており、「重要ではない」とまではいかないまでも重要さを実感できない状況と考えられます。

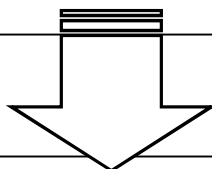
満足度でも同様に「不満である」「やや不満」が9.07%にとどまる一方で「ふつう」が54.24%と過半数を占め、満足とは言えない状況だと分析します。

利用頻度では「利用したことがない」が67.65%で、部活動やサークル活動などで利用する一部の方以外は、競技でテニスコートを利用する機会自体がないものと推測します。

課 題

テニスコート自体への直接的な意見はほとんどありませんでしたが、これは重要度、満足度ともに「ふつう」という結果と連動しているものと考えます。これは、施設を利用する機会自体がない方が多数いることも一因と分析します。

また、普段の利用者からは、経年劣化しているテニスコートの人工芝の修繕を要望する意見をいただいております。



課題解決への取組み

- ・市広報紙やホームページ、SNSなどを活用した施設や行事についての情報発信
- ・テニス教室・イベントの企画（新規利用者を獲得するため）
- ・大規模大会の招致活動の継続（交流人口の拡大やスポーツを支える人を増やすため）
- ・施設の計画的で適切な補修や改善

総合分析

施設や設備の計画的な修繕や、利用者のニーズを反映した施設整備を行ってまいります。
また、施設を利用してもらえるよう、テニスの大規模大会の招致活動を継続して行うとともに、新規利用者の獲得のための教室やイベントなどの開催について、指定管理者と協議してまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

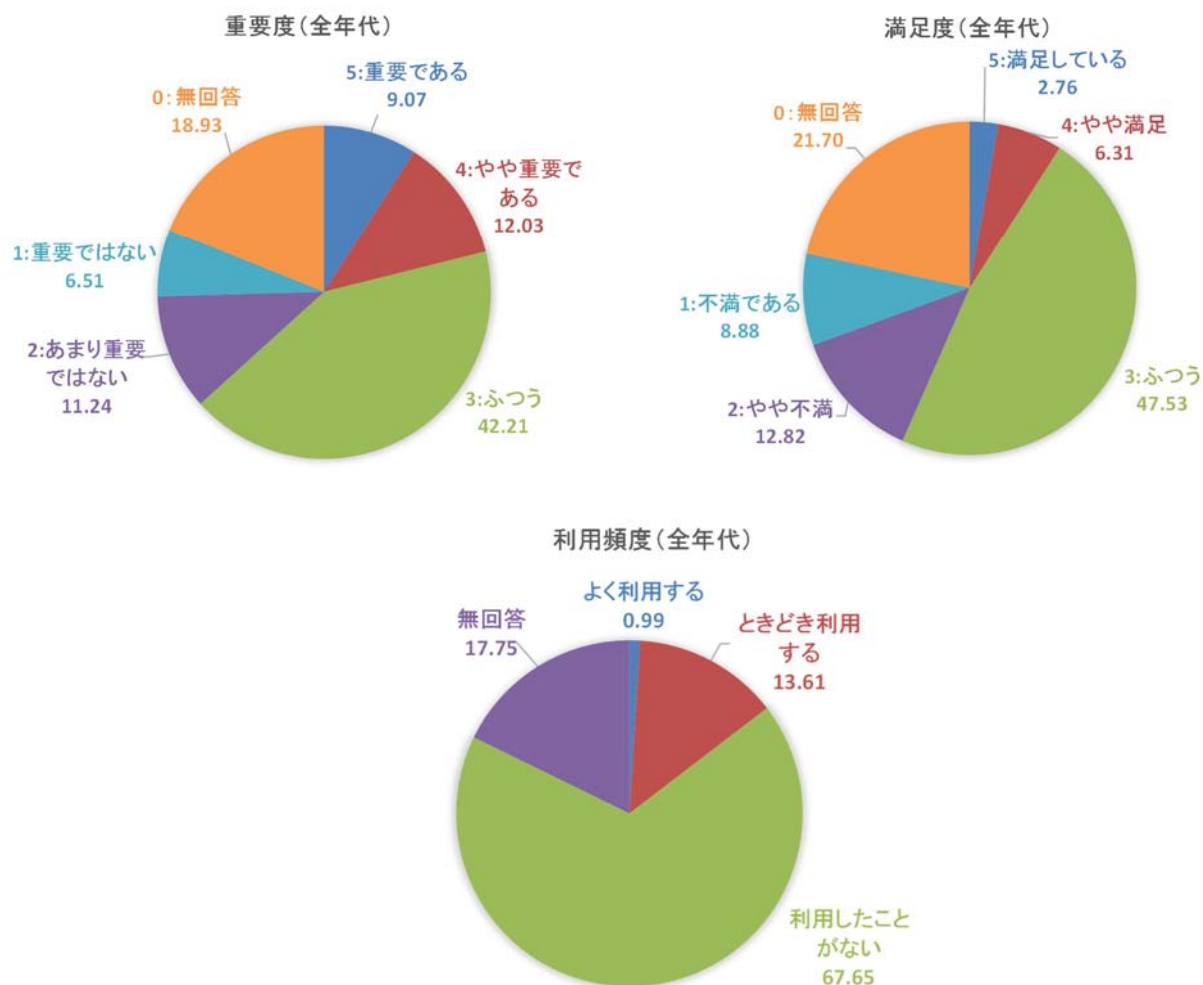
分析担当課	スポーツ振興課
目 標 名	公共施設の利活用
施 設 名	7 - 2 3 スキー場

1. 施設の平均及び順位

7 - 2 3	重 要 度					満 足 度						
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減		
スキー場	3.25	25	3.07	25	-	0.18	2.75	25	2.76	25	-	0.01
施設別平均	3.72	-	3.63	-		0.09	3.20	-	3.16	-		0.03

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布（％）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	7	2	8	1	0	1	5	2	9	1	1	1	2	4	9	4
20代	6	9	29	4	3	2	1	5	32	7	5	3	1	8	35	9
30代	4	10	31	5	4	2	1	6	32	6	8	3	1	12	42	1
40代	6	9	29	14	8	6	3	3	35	12	10	9	1	17	45	9
50代	7	8	34	16	5	6	1	4	44	13	8	6	0	12	56	8
60代	7	11	38	9	8	33	2	7	39	15	8	35	0	11	70	25
70代以上	8	10	40	8	3	38	1	4	44	10	3	45	0	5	76	26
不詳（無回答）	1	2	5	0	2	8	0	1	6	1	2	8	0	0	10	8

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

重要度、満足度ともに前回と順位に変動はないものの、いずれも施設平均を下回る結果となっています。

重要度では「重要である」「やや重要である」と合わせて21.1%にとどまる一方「ふつう」が42.21%を占めており、重要度を実感できない状況にあると考えます。

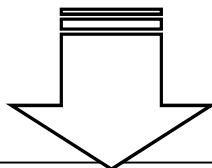
満足度でも同様に「ふつう」が47.53%と多数を占めていますが、「不満である」「やや不満」が21.7%と、「満足している」「やや満足」の9.07%を上回っており、施設に不満を持っている方が多いものと推測します。

利用頻度では「よく利用する」「ときどき利用する」が14.6%にとどまり、利用したことがない方が多数を占める結果となっています。

課 題

「コースが至る所で長年の浸食によるへこみがあるため、滑りやすくなるようコースの中ほどから下の部分だけでも整備してほしい」「ロープトウをリフトにできないか」といったご意見をいただいております。

小規模なスキー場のため、幅広いニーズへの対応や広域圏からの集客が難しい状況にあります。また、スキー人口の減少により、利用者数の増加が見込めるかが不透明なため、新規の設備投資が難しいのが現状です。



課題解決への取組み

- ・ターゲットを絞ったイベント・行事の企画（子育て世代を対象にするなど）
- ・施設利用に関するPRの充実

総合分析

施設の設置から 30 年が経過し、設備の経年劣化が進んでいることや、利用者の不満を解消するための設備投資が十分になされていないことが「整備が不十分」というご意見をいただく原因であると考えます。

ご意見を実現させるためには、施設の大規模な改修が必要であり、多額の費用を要することが見込まれます。このため、現状の施設を活用することを前提に、一つのターゲットに特化したイベント開催や施設運営も視野に入れながら、利用者増に向けて指定管理者と協議してまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

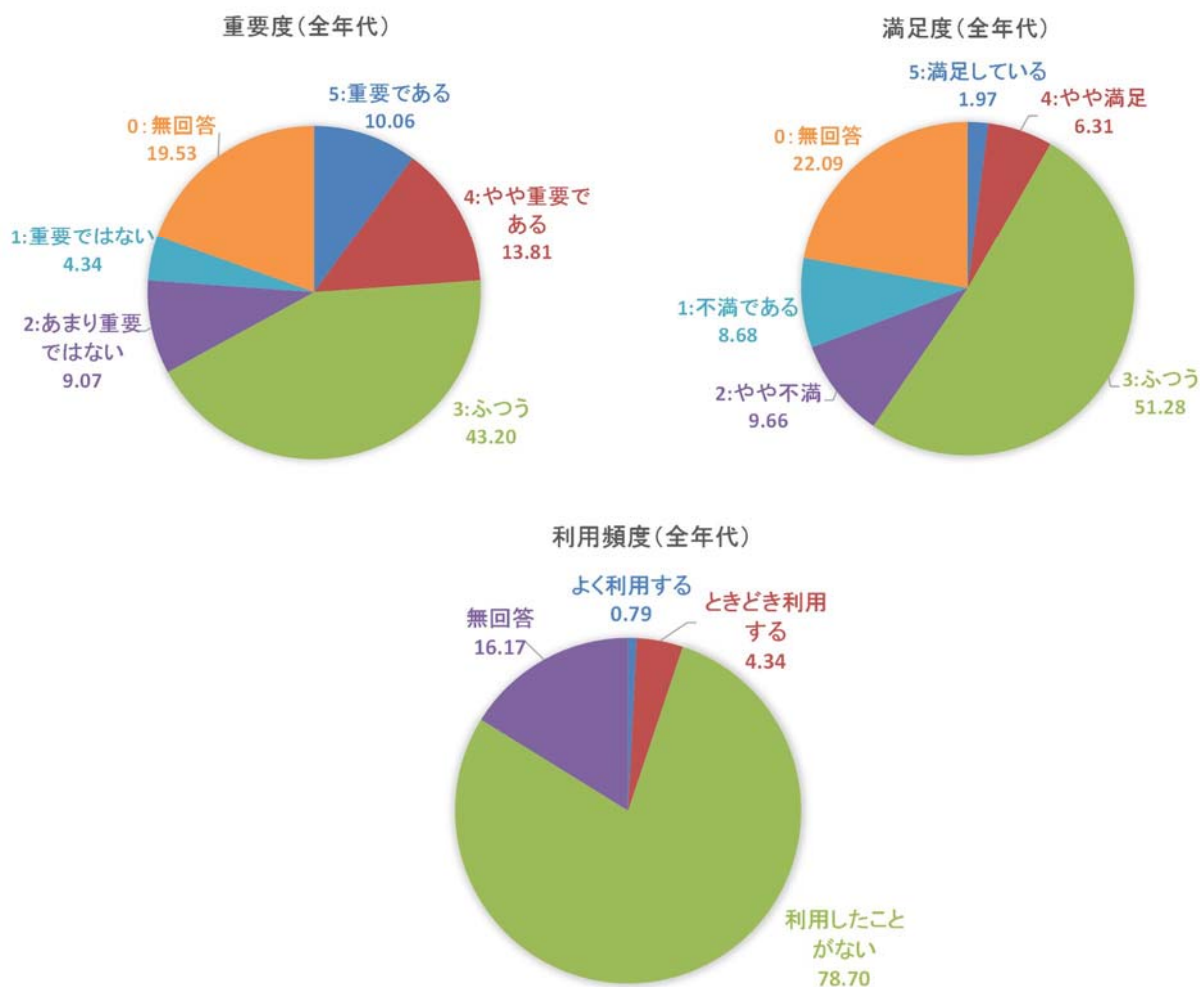
分析担当課	スポーツ振興課
目 標 名	公共施設の利活用
施 設 名	7 - 2 4 プール

1. 施設の平均及び順位

7 - 2 4	重 要 度					満 足 度					
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減	
プール	3.44	22	3.20	24	0.24	2.83	24	2.78	24	-	0.05
施設別平均	3.72	-	3.63	-	0.09	3.20	-	3.16	-	-	0.03

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布（％）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	5	7	6	0	0	1	3	1	12	2	0	1	1	2	13	3
20代	4	9	30	3	3	4	0	4	33	7	4	5	0	4	42	7
30代	5	9	32	4	2	4	0	3	32	7	9	5	0	3	52	1
40代	9	10	34	9	4	6	1	4	39	9	11	8	2	7	56	7
50代	8	12	34	10	6	6	1	4	47	8	10	6	1	2	67	6
60代	10	8	43	9	3	33	3	6	47	9	6	35	0	1	80	25
70代以上	9	12	36	10	3	37	2	8	44	6	3	44	0	3	79	25
不詳（無回答）	1	3	4	1	1	8	0	2	6	1	1	8	0	0	10	8

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

重要度、満足度ともにいずれも前回と同様に施設平均を下回り、下位にとどまる結果となっています。

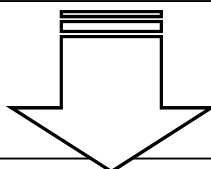
重要度では「重要である」「やや重要」と考える方が23.87%と一定程度いるものの「ふつう」「無回答」が62.73%と、重要度を実感できない状況と考えます。

満足度では「不満である」「やや不満」が18.34%で「満足している」「やや満足」の8.28%を大きく上回り、施設に対して不満を持つ利用者が多いことがうかがえる一方で「ふつう」「無回答」が73.37%に達しています。これは、利用頻度の「利用する」「ときどき利用する」がわずか5.13%にとどまっていることと併せて、利用者が水泳競技者などのごく一部に限られているものと分析します。

課 題

「プールが場所が中心市街地から遠くて、気軽に利用できない」「通年で利用できる屋内プールを作ってほしい」といったご意見を多数いただいております。

花岡総合スポーツ公園多目的プールについては、施設整備により令和3年度から大会を開催できるようになったことで利用者数は増加しましたが、その多くは水泳競技者であり、一般の方に多く利用してもらえるようにすることが現状の課題と考えます。



課題解決への取組み

- ・ プールを活用した一般向けの水泳教室や健康づくり教室の開催
- ・ 市広報紙やホームページを活用した施設の情報発信

総合分析

中心市街地への屋内プール整備の要望が多い状況ですが、新プールの整備については、用地の確保や資金調達、運営方法などの課題を整理し、長期的に検討していく必要があります。現況では花岡総合スポーツ公園多目的プールを活用していく方針であり、一般の方に利用していただけるような各種教室を企画・実施してまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

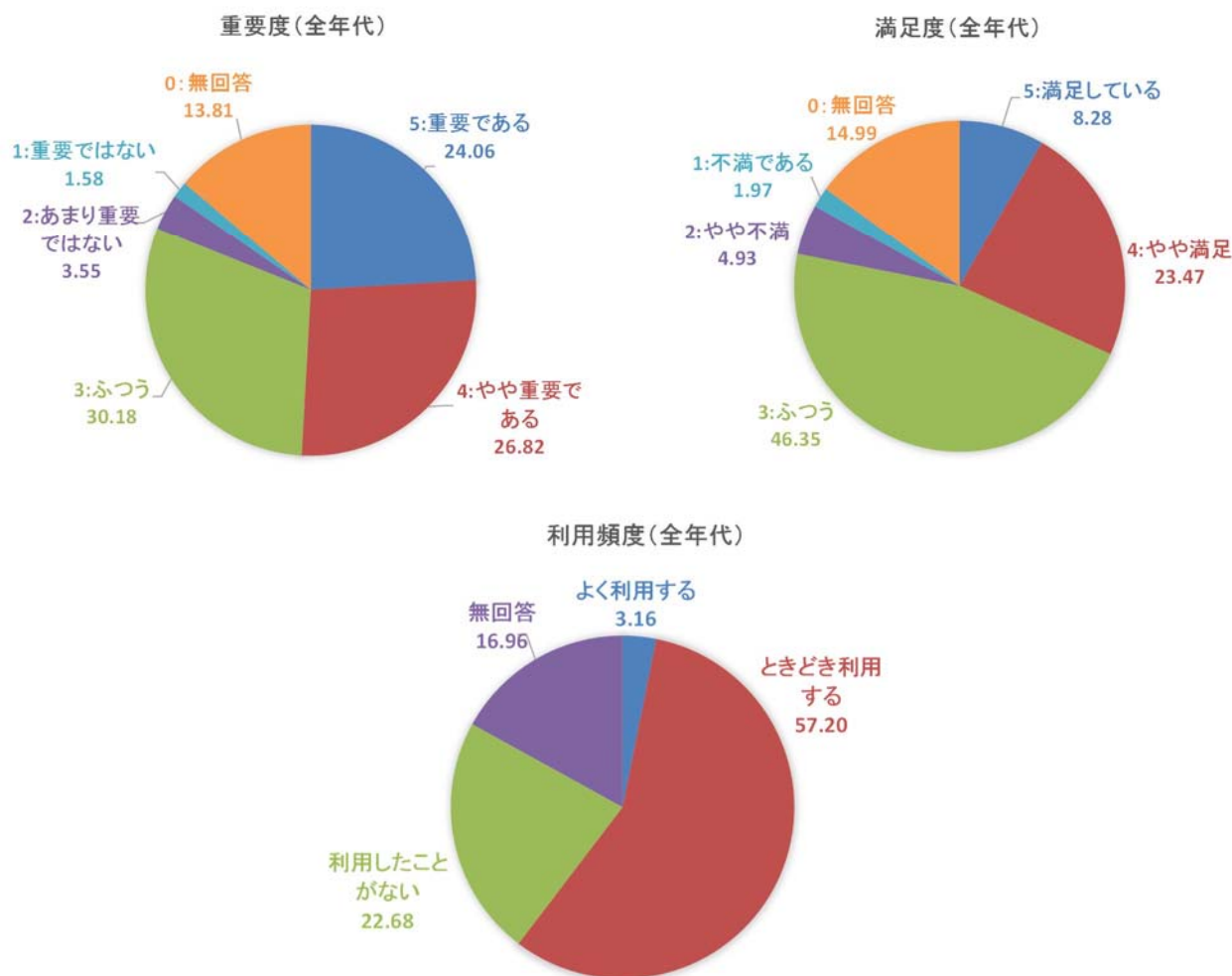
分析担当課	教育総務課
目 標 名	公共施設の利活用
施 設 名	7 - 2 5 文化会館

1. 施設の平均及び順位

7 - 2 5	重 要 度					満 足 度						
	第 16 回		第 17 回		増 減		第 16 回		第 17 回		増 減	
文化会館	3.87	11	3.79	11	-	0.08	3.36	6	3.37	5		0.01
施設別平均	3.72	-	3.63	-		0.09	3.20	-	3.16	-		0.03

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	7	4	6	0	0	2	5	5	8	0	0	1	2	8	6	3
20代	11	16	23	1	0	2	2	17	28	3	1	2	0	28	17	8
30代	13	18	22	2	1	0	2	19	27	1	6	1	3	35	17	1
40代	19	20	22	4	3	4	9	18	36	3	0	6	2	50	14	6
50代	24	22	24	2	0	4	6	21	39	5	0	5	4	51	15	6
60代	25	30	20	3	1	27	9	14	49	6	1	27	1	59	18	28
70代以上	18	24	34	6	2	23	9	21	43	7	1	26	4	54	23	26
不詳（無回答）	5	2	2	0	1	8	0	4	5	0	1	8	0	5	5	8

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

重要度・満足度ともに平均を上回る結果となりました。回答分布を見ると、重要度は約5割が「重要」と回答していますが、満足度は約3割となっています。これは、芸術文化の拠点としての役割の重要性が認識されているものの、満足度を感じられていない層が多く存在している状況と考えられます。

年代別の回答傾向を見ると、重要度・満足度ともに若年層（10代から30代まで）より中高年層（40代から70代以上）の個数が上回っています。これは、施設の利用者は、若年層より中高年層が多く、施設に対する評価も中高年層が高いと考えられます。

課 題

文化会館について「駐車場が狭い」、「文化会館の冷・暖房費が高い。実費額相当の支払いにしてほしい」、「夜、文化会館の駐車場で数人が集まり、車の音がうるさい。」などの意見をいただきました。また、満足度を感じられない層（特に若年層）が多く存在している要因の一つとして、市民の価値観やニーズも多様化・複雑化していることが考えられることから、時代の流れやそれぞれ異なるニーズを的確に把握して、今後の事業に反映させていく必要があります。

課題解決への取組み

- ・文化会館における自主事業実施時には、アンケートを実施・分析し、事業立案に役立てる。
- ・貸館開始時、終了時には職員が対面に対応し、施設利用時に関する要望、意見を聴く。
- ・施設の利用促進及び利用価値を高めるため、市内企業の会議や研修会、展示会、レセプション等での利用など、市内企業への営業活動を行う。
- ・駐車場について、隣接の中央公民館とのイベントの調整を行なう。可能な限り、イベント時に警備員を配置し近隣の有料駐車場などの案内を行うとともに、夜間、交番に依頼して巡回を行う。

総合分析

文化会館は、昭和57年の開館以来、市民の質の高い芸術・文化に触れる機会と市民への文化芸術活動の場を提供するなど、年間約50,000人を超える市民に利用されてきました。また、重要度・満足度ともに3点以上の評価が8割を超えていることから、市民にとって必要な施設として認識されているものと分析されます。

開館より40年目を迎え、文化会館の設備に加えて建物本体の経年劣化が進行しているため、改修を行うとともに、利用者からの利用料金、冷暖房料などで、安全確保と予防安全に努めています。

コロナ禍において、イベントや貸館の中止、延期により利用者数が落ち込んでおりましたが、令和3年度からは増加傾向にあり、若年層をターゲットに各種SNSと公式ホームページの活用等により、より身近に感じられるよう施設の情報発信を行ってまいります。

第 17 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

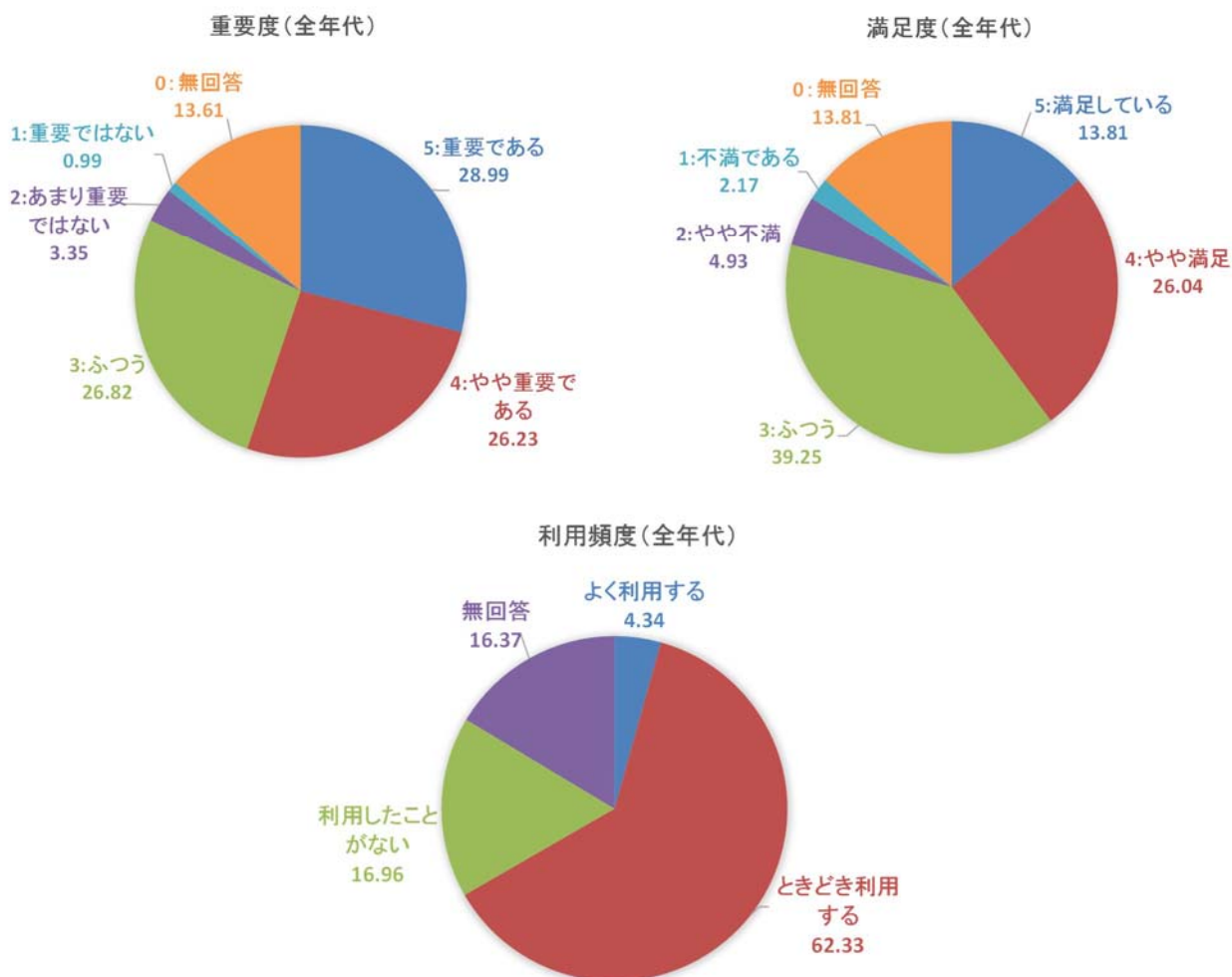
分析担当課	スポーツ振興課
目 標 名	公共施設の利活用
施 設 名	7 - 2 6 樹海公園

1 . 施設の平均及び順位

7 - 2 6	重 要 度					満 足 度				
	第 16 回		第 17 回		増 減	第 16 回		第 17 回		増 減
樹海公園	3.93	9	3.91	7	0.01	3.48	3	3.51	2	0.04
施設別平均	3.72	-	3.63	-	0.09	3.20	-	3.16	-	0.03

小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2 . 回答分布（％）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	12	2	4	0	0	1	7	6	5	0	0	1	4	8	4	3
20代	17	15	20	0	0	1	5	19	25	2	1	1	1	35	8	9
30代	18	13	20	3	2	0	8	14	22	6	5	1	3	37	15	1
40代	21	24	18	2	1	6	15	20	29	2	1	5	5	55	6	6
50代	26	20	23	3	1	3	12	23	29	5	3	4	4	55	9	8
60代	30	25	21	3	1	26	10	23	44	4	0	25	3	60	17	26
70代以上	19	31	29	5	0	23	12	23	41	5	1	25	2	60	23	22
不詳（無回答）	4	3	1	1	0	9	1	4	4	1	0	8	0	6	4	8

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

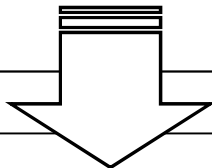
重要度は約 56%が「重要である」「やや重要である」となり、全ての年代で「重要である」「やや重要である」の回答が多数となっています。

満足度は約 40%が「満足している」「やや満足」となりましたが、ほぼ同数で「ふつう」となり、施設の活用については不十分な点があるものと考えられます。

課 題

ドームでのコンサート開催、周辺への温水プール建設、ドームで定期的で開催されている高校・大学野球の大会等のPR等、多岐に渡る意見をいただいております。

最近では新型コロナウイルスワクチン集団接種会場としても利用される等、天候に左右されないドームのメリットを改めてPRできましたが、駐車場不足は依然として課題となっています。



課題解決への取組み

- ・大館樹海ドームや樹海体育館でのプロスポーツイベントの誘致・開催
- ・大型イベント時の駐車場確保策としてのシャトルバス利用の推進

総合分析

大館樹海ドームで令和4年度、「全日本小学生ソフトテニス選手権大会」と「東北中学校ソフトテニス大会」が開催されました。雨天の日もありましたが、日程の延期等は発生せず、屋内でテニスコート10面を確保できるメリットが最大限に活かされております。

今後も、大館樹海ドームや樹海体育館を軸にした大規模大会やイベント、合宿などの誘致を引き続き進め、新たな需要の掘り起こしと、それによる交流人口の拡大を目指してまいります。